法人年報

第 15 号

令和元年度

医療法人　博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人　志村学園

目　　次

巻頭言…… 1
法人経営理念
　医療法人　博仁会…… 2
　社会福祉法人　博友会…… 3
法人の沿革…… 4
志村大宮病院概要…… 6

第一部
1．博仁会組織図…… 9
2．博友会組織図……10
3．志村学園組織図……11
4．各委員会構成表
　博仁会……12
　博友会……13
5．年間行事
　博仁会……14
　博友会……20
6．博仁会事業実績……26
7．博友会事業実績……35
8．部門別実績報告
〔博仁会〕
　看護・介護部……41
　一般病棟科……42
　緩和ケア「エーデルワイス病棟科」……43
　外来科……44
　回復期リハビリ病棟科（スイス館）……45
　医療療養病棟科（チロル館）……46
　志村地域医療連携センター……47
　リハビリ科……47
　画像検査センター……49
　認知症疾患医療センター……50
　機能訓練センター フリューゲル …… 50
　老健入所科……52
　おおみやホームヘルパーステーション……52
　おおみや訪問看護ステーション……53
　フロイデひたちなか訪問看護ステーション…54
　ケアプランセンター……55
　常陸大宮市南部地域包括支援センター……55
　ひたちなか市北部地域包括支援センター…56
　コミュニティケアサービス……57
　在宅介護支援センターおおみや……58
　栄養科……59
　薬剤科……60
　診療サービス課……61
　管理部……62
　経理部……65
　人事課……65
　法人サポート部……67
〔学校法人志村学園〕
　茨城北西看護専門学校……68
〔博友会〕
　施設長……70
　事務サービスグループ……71
　栄養サービスグループ……71
　御前山フロイデガルテン……73
　御前山デイサービスセンター……73
　ごぜんやまホームヘルパーステーション…74
　ごぜんやま訪問入浴サービスセンター……75
　ごぜんやま総合ケアプランセンター……76
　フロイデグループホーム桂……77
　フロイデ総合在宅サポートセンター美和…77
　フロイデ総合在宅サポートセンター城里…78
　フロイデ工房しろさと……79
　大宮フロイデドルフ……79
　フロイデ総合在宅サポートセンター友部…80
　フロイデアシストハウス大宮……81
　フロイデ工房なか……81
　ロッティなか……82
9．各委員会活動報告
〔博仁会〕
　接遇向上委員会……83
　サービス改善委員会……88
　医療介護安全推進委員会……89
　感染対策委員会……92
　褥瘡対策委員会……94
　看護・介護部教育委員会……96
〔博友会〕
　サービス向上委員会……97

感染予防委員会……98
教育委員会……99
地域広報委員会…… 100
食事管理委員会…… 101
業務改善委員会…… 102
リスクマネジメント委員会…… 103
防災管理委員会…… 104
車両安全管理委員会…… 105

第二部

１．学術活動
⑴　理事長執筆取材講演実績…… 109
⑵　学会発表…… 112
⑶　事例検討会…… 113
⑷　研修報告会…… 114
２．各種行事
全法人目標・成果発表大会…… 119
連携パス研究会…… 120
地域医療連携意見交換会…… 121
博仁会納涼祭…… 122
御前山チャリティーフェスティバル…… 122
ガルテン納涼祭（秋祭り）…… 122
令和元年　城里町民祭り…… 123
ドルフ納涼祭（秋祭り）…… 123
沢山小学校運動会…… 123
おおみやふれあい広場…… 124
すみれ会…… 124
歩く会…… 124
ヘルシークッキング…… 124

巻　頭　言

令和元年度年報発刊に当たって

医療法人　博仁会
社会福祉法人　博友会
学校法人　志村学園
理事長　鈴木邦彦

令和元年度（2019年度)は、５月にはひたちなか市足崎にフロイデグループホームひたちなか(９名×２ユニット)を、７月には志村大宮病院近くにいばらきテクノエイドセンターとみんなの休憩所を、11月には水戸堀町にフロイデ水戸メディカルプラザを、それぞれ開設させていただきました。

フロイデ水戸メディカルプラザは、医療・介護・リハビリ・予防・生活の地域共生多機能拠点で、水戸市内３番目の施設ですが、初めて無床診療所フロイデクリニック水戸を併設し、医療系サービスを充実いたしました。１階には、診療所のほかに短時間型デイケア、地域包括ケアセンター、コミュニティカフェ、売店を、２階には小規模多機能ホームとメディカルフィットネスを、３階には住宅型有料老人ホーム（20室）と地域交流スペースを設置し、病院ではなく、元気なうちから気軽にご利用いただける「健院」を目ざしながら、安心してお過ごしいただけるように、お看取りまで対応させていただいております。引き続き、医療ニーズのある中重度患者様のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

令和２年１月より志村大宮病院　に呼吸器センターを開設いたしました。常勤呼吸器内科専門医３名（うち１名は指導医）が、呼吸器疾患患者様のご紹介をお待ちしております。令和３年１月より肺癌患者様の外来化学療法も開始させていただいております。

令和２年４月には茨城北西看護専門学校に介護福祉学科（２年制、定員40名）を開設いたしました。２年間で国家資格である介護福祉士が取得できますので、学生のご紹介をお待ちしております。

令和２年４月からは、フロイデ水戸メディカルプラザにおいて、定期巡回・随時対応型訪問介護看護「フロイデ水戸定期巡回サービス」を、同年５月からは、フロイデグループホームひたちなかにおいて、共用型認知症対応型通所介護「コキアデイサービス」を、それぞれ開始いたしました。ご利用者様のご紹介をお願い申し上げます。

令和元年12月より現在に至るまで、わが国のみならず、世界中において新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。令和３年２月よりわが国でもようやくワクチン接種が開始されましたが、まだまだ終息の見通しは立っていません。コロナ禍はわが国のデジタル化の遅れを露呈させました。私は令和２年６月より茨城県医師会会長に就任させていただいておりますが、４期８年の日本医師会常任理事の貴重な経験を生かし、まずは新型コロナの第３波の収束に全力を尽くすとともに、ポストコロナにおける地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、微力ながら貢献したいと考えております。

医療法人　博仁会

【経営理念】

私たちは、お客様が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【経営目標】

私たちは、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障害者総合ケアシステムの確立を実現します。

【綱　　領】

1．顧客様に対する気配りを念頭におく。
1．顧客様に対して笑顔で接し、接遇向上を常に心掛ける。
1．品質は全職員の融和と協力によって機能が発揮される。
1．保健と福祉は医療・介護の一環である。
1．地域に対する配慮を大事にする。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、いつでもサービスの改善を心がけることにより、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供いたします。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

社会福祉法人　博友会

【経営理念】

私たちは、お客様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【事業目標】

1、社会福祉法人として地域の社会資源としての役割を認識し、地域課題解決に向けた取り組みを推進する。
2、事業継続できる法人運営のための収益確保と事業継続計画の策定。
3、利用者の個別ケアの提供とQOLの質の向上、終末期ケアへの対応を図る。
4、ひとり一人の生産性向上を図り、働き方改革を推進する。
5、スタッフの自己成長を応援する。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、ご利用者様並びにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努め、常にサービスの質の向上を目指します。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーション定義とは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

法 人 の 沿 革

昭和26年　志村大宮病院設立
昭和28年　鈴木　芳男　理事長・院長兼任
平成８年　鈴木　邦彦　院長就任
平成10年　鈴木　芳男　会長就任
　　鈴木　邦彦　理事長・院長兼任
※
平成７年　おおみや訪問看護ステーション開設
平成８年　老人保健施設大宮フロイデハイム開設
　　大宮デイケアセンター開設
　　大宮リハビリテーションセンター開設
　　在宅介護支援センターおおみや開設
平成10年　志村デイケアセンター開設（現在の志村デイサービスセンター）
　　おおみやホームヘルパーステーション開設
平成11年　おおみや総合ケアプランセンター開設
平成12年　療養型病棟「チロル館」開設
　　社会福祉法人　博友会　設立
平成13年　介護老人福祉施設「御前山フロイデガルテン」開設
平成14年　茨城県指定「地域リハ・ステーション」開設
　　茨城県指定「おおみや訪問リハ・ステーション」開設
平成15年　病院機能評価「複合A（一般・長期療養）」認定取得
　　フロイデグループホーム桂開設
　　茨城県北西総合リハビリテーションセンター開設
　　・回復期リハビリ病棟「スイス館」
　　・総合リハビリテーション施設
　　「ヨーデルリハビリテーションセンター」
平成16年　ISO9001：2000認証取得
平成17年　地域リハビリテーション広域支援センター開設
　　亜急性期病床開設
　　フロイデ在宅サポートセンター大宮中央開設
　　フロイデ総合在宅サポートセンター美和開設
　　フロイデ在宅サポートセンター大宮北開設
平成18年　フロイデ総合在宅サポートセンター緒川開設
　　常陸大宮市南部地域包括支援センター開設
　　プライバシーマーク認証取得
平成19年　フロイデ総合在宅サポートセンター山方開設
　　フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台開設
平成20年　フロイデ総合在宅サポートセンター城里開設
　　医療法人　博仁会　志村大宮病院附属志村クリニックごぜんやま開設
平成21年　フロイデ工房しろさと（障害者就労支援施設）開設
　　茨城県指定「小児リハ・ステーション」開設
平成22年　学校法人志村学園　茨城北西看護専門学校開校
　　フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田開設
　　みとけやき台総合ケアプランセンター開設
平成23年　地域密着型介護老人福祉施設「大宮フロイデドルフ」開設
　　院内保育所「フロイデキンダーガルテン」開設
平成24年　フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか開設
　　ひたちなか総合ケアプランセンター開設
　　コミュニティカフェ「バンホフ」開設
平成25年　フロイデ総合在宅サポートセンター友部開設
　　やまがた総合ケアプランセンター開設
　　病院機能評価Ver.6.0認定取得
　　志村フロイデ地域包括ケアセンター開設
平成26年　フロイデ総合在宅サポートセンター水

戸けやき台小規模デイサービスつどいの家開設

平成27年　志村大宮病院新本館「ドイツ館」竣工・緩和ケア「エーデルワイス病棟」開設

フロイデ総合在宅サポートセンター大宮開設

フロイデアシストハウス大宮開設

ひたちなか市北部地域包括支援センター開設

くるみんマーク（子育てサポート認定企業）認定

平成28年　院内売店　KIOSK PLATZ　開店

志村検査・健診センター　開設

平成29年　認知症対応型通所介護志村デイサービスセンター（さくらデイサービス）開設

茨城県指定　認知症疾患医療センター開設

在宅介護支援センターおおみや　開設

機能訓練センターフリューゲル　開設

フロイデ総合在宅サポートセンター友部　開設

フロイデアシストハウス大宮　開設

フロイデひたちなか訪問看護ステーション　開設

フロイデ工房なか　開設

ロッティなか　開設

療養型病棟「チロル館」が医療療養病棟「チロル館」へ変更

平成30年　病院機能評価

一般病院1　3rdG:Ver.1.1　認定取得

副機能　リハビリテーション病院　3rdG:Ver.1.1

副機能　緩和ケア病院　3rdG:Ver.1.1

付加機能　リハビリテーション機能(Ver.3.0)

平成31年　フロイデグループホームひたちなか

(令和元年) いばらきテクノエイドセンター

みんなの休憩所

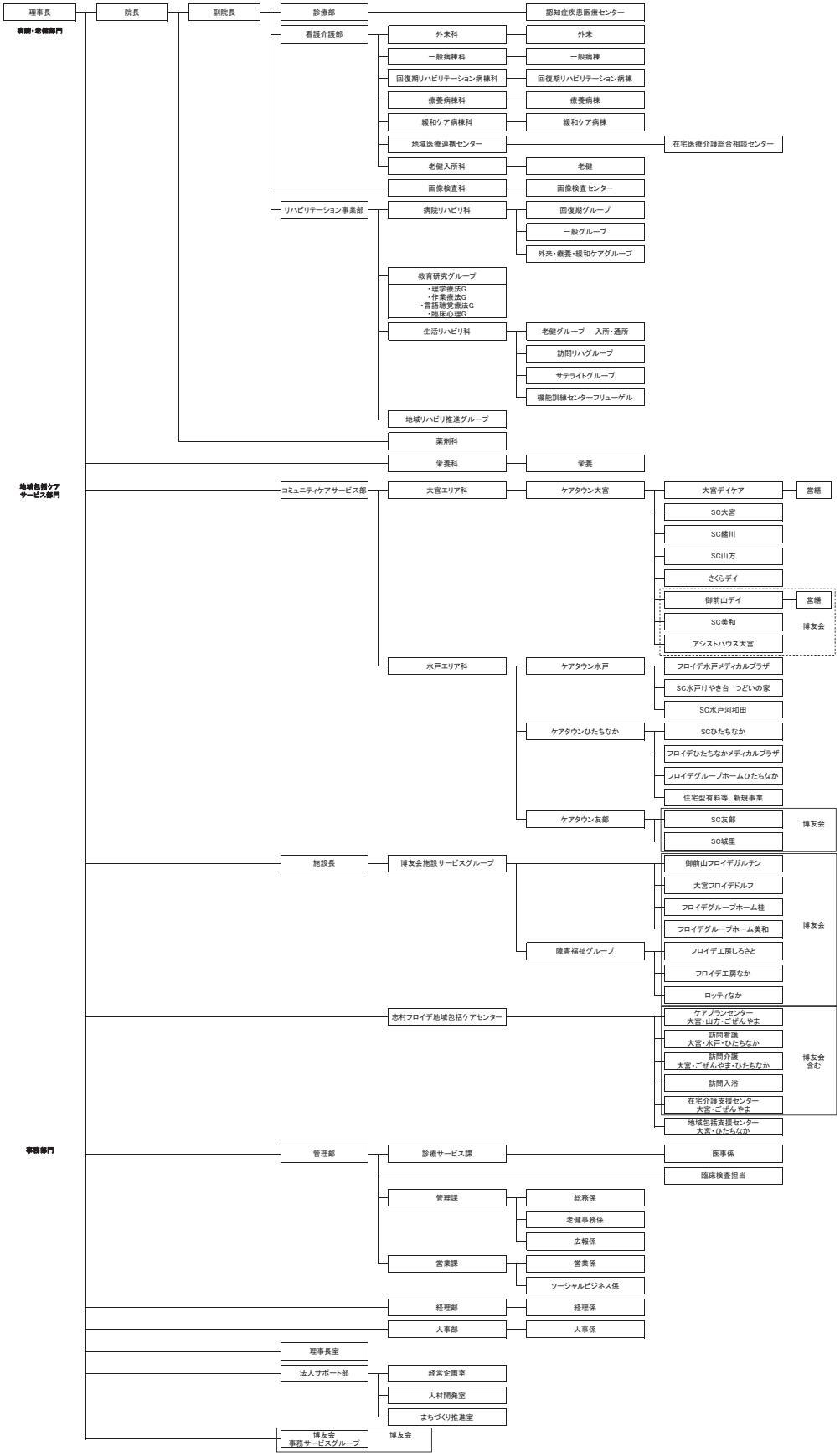
フロイデ水戸メディカルプラザ

志村大宮病院概要

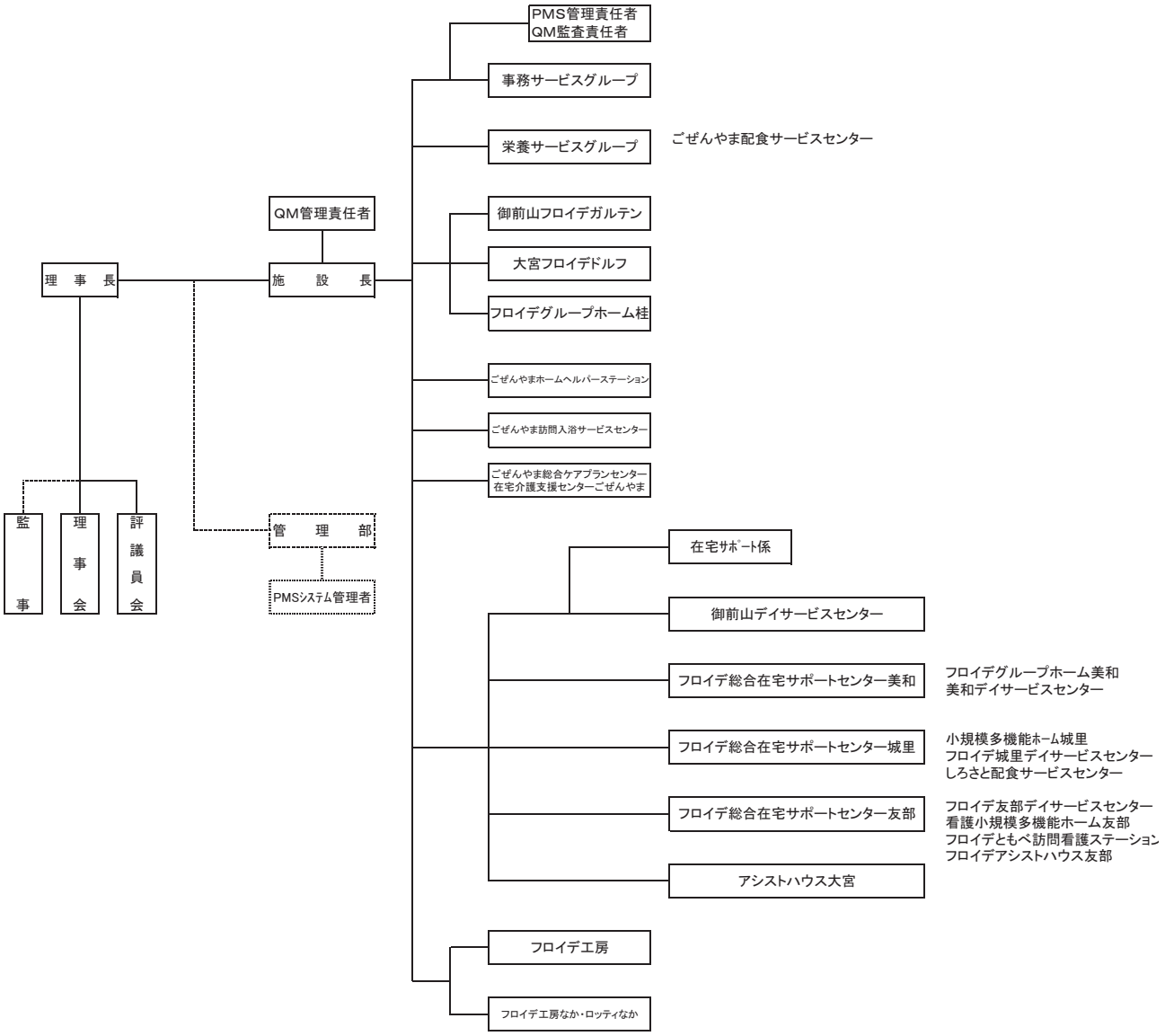
理事長・院長	鈴木　邦彦
所　在　地	茨城県常陸大宮市上町313番地 〒319－2261 Tel　0295－53－1111 Fax　0295－52－2705
診療科目等	内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・心療内科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・小児科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・精神科・糖尿病外来・人間ドック・企業健診
常勤医師	17人
非常勤医師	43人
医療設備	全身ヘリカルマルチスライスCT、MRI、PSGシステム、超音波診断装置（腹部・心臓・泌尿器科・婦人科）、内視鏡装置（上部・下部消化管・十二指腸・気管支・喉頭・膀胱）、デジタルX線テレビ装置、その他リハビリテーション装置
病　床　数	許可病床数　178床 一般病床　48床 地域包括ケア病床　12床 緩和ケア病棟　20床 回復期リハビリテーション病棟　50床
看護体制	一般病棟　看護 10：1 緩和ケア病棟　看護 7：1 回復期リハビリテーション病棟　看護 13：1 医療療養病棟　看護 20：1 介護 20：1

第　一　部

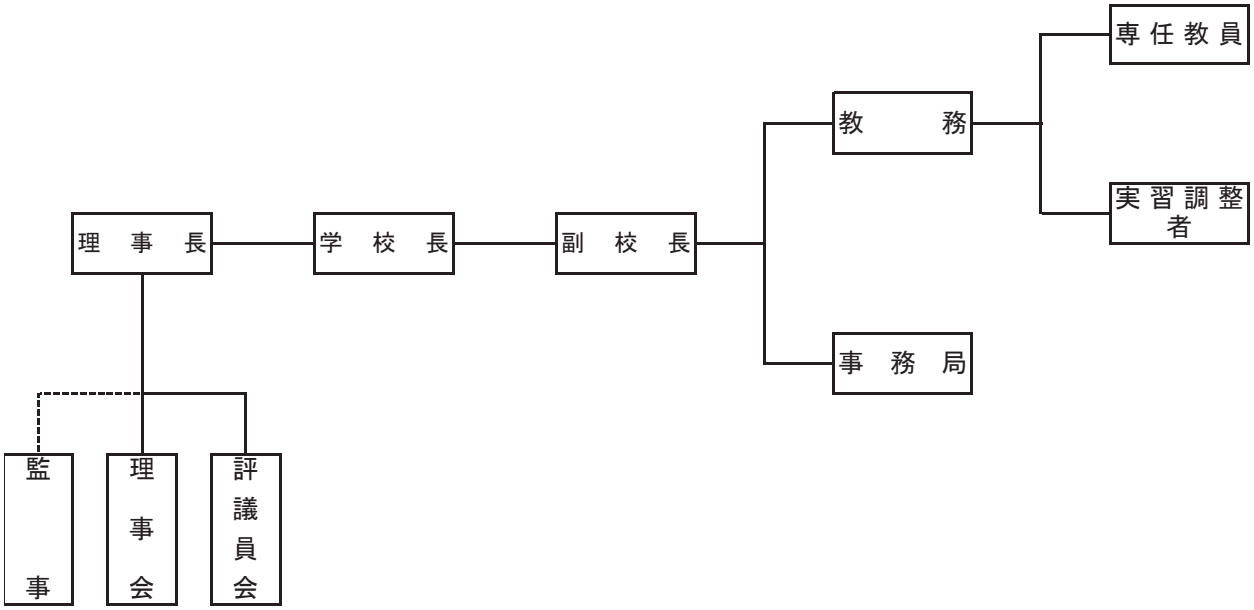
1．博仁会　組織図


理事長
院長
副院長
病院・老健部門
診療部
認知症疾患医療センター
看護介護部
外来科
外来
一般病棟科
一般病棟
回復期リハビリテーション病棟科
回復期リハビリテーション病棟
療養病棟科
療養病棟
緩和ケア病棟科
緩和ケア病棟
地域医療連携センター
在宅医療介護総合相談センター
老健入所科
老健
画像検査科
画像検査センター
リハビリテーション事業部
病院リハビリ科
回復期グループ
一般グループ
外来・療養・緩和ケアグループ
教育研究グループ
・理学療法G
・作業療法G
・言語聴覚療法G
・臨床心理G
生活リハビリ科
老健グループ　入所・通所
訪問リハグループ
サテライトグループ
機能訓練センターフリューゲル
地域リハビリ推進グループ
薬剤科
栄養科
栄養
地域包括ケアサービス部門
コミュニティケアサービス部
大宮エリア科
ケアタウン大宮
大宮デイケア
営繕
SC大宮
SC緒川
SC山方
さくらデイ
御前山デイ
営繕
SC美和
博友会
アシストハウス大宮
水戸エリア科
ケアタウン水戸
フロイデ水戸メディカルプラザ
SC水戸けやき台　つどいの家
SC水戸河和田
ケアタウンひたちなか
SCひたちなか
フロイデひたちなかメディカルプラザ
フロイデグループホームひたちなか
住宅型有料等　新規事業
ケアタウン友部
SC友部
博友会
SC城里
施設長
博友会施設サービスグループ
御前山フロイデガルテン
大宮フロイデドルフ
フロイデグループホーム桂
フロイデグループホーム美和
博友会
障害福祉グループ
フロイデ工房しろさと
フロイデ工房なか
ロッティなか
志村フロイデ地域包括ケアセンター
ケアプランセンター
大宮・山方・ごぜんやま
訪問看護
大宮・水戸・ひたちなか
訪問介護
大宮・ごぜんやま・ひたちなか
博友会
含む
訪問入浴
在宅介護支援センター
大宮・ごぜんやま
地域包括支援センター
大宮・ひたちなか
事務部門
管理部
診療サービス課
医事係
臨床検査担当
管理課
総務係
老健事務係
広報係
営業課
営業係
ソーシャルビジネス係
経理部
経理係
人事部
人事係
理事長室
法人サポート部
経営企画室
人材開発室
まちづくり推進室
博友会
事務サービスグループ
博友会

2．社会福祉法人　博友会　組織図



3．学校法人　志村学園　組織図



4. 各委員会構成表（博仁会）

委員会	委員長	構成員			計	開催日	役割
医局会	鈴木　邦彦	大仲　功一	村瀬　　靖	小山　大輔	19名	第４火曜	院内での医師、コメディカルのコミュニケーションを取る場所。（情報交換）
		佐藤　謙二	西村　雅美	折笠　博之			
		酒匂　恵子	大里　晃弘	石本　　立			
		新堀　耕基	中村　信一	高宮　一枝			
		北見　好宏	月村　澄明	熊谷　淳夫			
		関山　忠孝	山本　浩之	猿田　秀子			
医療介護 安全推進委員会	鈴木　邦彦	大仲　功一	加藤　令子	木戸田　真	23名	第４火曜	医療介護事故の分析及び再発防止などの検討。委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直し。医療介護安全管理のための啓発、教育、広報。
		加藤紀和子	五町　　靖	寺門　　貴			
		高宮　一枝	木村みゆき	河野　高宏			
		小倉十三子	會澤　　崇	並木　道子			
		川﨑　真弓	鈴木三智子	宮川　直彦			
		熊谷　淳夫	井上　美紀	平根むつみ			
		小野　健悦	河野あずさ				
		蓮田　和也	杉田　園美				
院内感染 対策委員会	鈴木　邦彦	新堀　耕基	加藤紀和子	笠井　宏子	58名	第４火曜	院内感染に対して、院内感染の予防と感染症発生時に適切かつ迅速な対応を行う。
		大仲　功一	藤田　敬子	宮川　直彦			
		関山　忠孝	小室　愛美	木村　君子			
		高宮　一枝	岩尾　美樹	高安　理香			
		小倉十三子	成田　直子	小林　　忍			
		梶山　一枝	川﨑　真弓	杉田　園美			
		河井はるみ	浅見　公一	粉川　直之			
		小林　雅美	堂川　裕太	木戸田　真			
		平塚　晴美	寺門　　貴	砂川　恵子			
		鈴木　佳貴	川崎　仁史	若林　康平			
		近藤留美子	高橋　宏太	皆川あゆみ			
		篠根　和樹	中　　恭平	谷口　智也			
		三井　麻代	東山　　滋	酒田　恵美			
		小林なおみ	河野　高宏	鴨志田純子			
		松本幸一郎	鯉淵　忠敬	四倉　幸恵			
		加藤　令子	熊谷　淳夫	興野　寛美			
		井上　美紀	並木　道子	高林　利典			
		寺島　聡子	後藤恵理子	大高　裕美			
		河野あずさ	鈴木三智子	河野　麻希			
接遇向上委員会	鈴木　邦彦	酒匂　恵子	川崎　仁史	金澤　裕子	76名	第３月曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
		折笠　博之	鈴木　明廣	仲田　竜一			
		猿田　秀子	桑名　雅義	野上　宏恵			
		小倉十三子	永山　智之	杉山　　楓			
		秋山はる江	関　　昭子	松本幸一郎			
		広木　　薫	小豆畑　望	宮川　直彦			
		木戸田　真	堀江　花果	木村　洋美			
		國井　崇洋	大和田涼太	平塚　晴美			
		清水　良則	千葉　詩織	蓮田　和也			
		寺門　　貴	鈴木　麻由	佐藤明日香			
		江幡　砂織	浅野　圭亮	渡邊　彩菜			
		河井はるみ	関　　友典	森　　達也			
		久下沼元晶	五位潤さやか	柏　ひかり			
		髙橋　幸大	飯干　圭紀	田口真菜美			
		鹿嶋　宏美	檜山ちづる	漆館　英莉			
		岡山　正人	若林　康平	木村みゆき			
		澤畠　健一	小口　英司	寺門　真希			
		杉田　園美	小野瀬千明	塙　由香里			
		富田　良江	鈴木　　翠	大久保奈々			
		瀬戸谷幸枝	近藤　佳世	岡部　千春			
		村上　　遥	小林　　洸	萩谷えり子			
		渡邊　美佳	石川　綾子	安藤　　瞳			
		菱沼　くみ	關　　正人	大内　和子			
		五十嵐　信	佐藤　恭将	高野　賢二			
		藤枝　弘太	伊藤　拓也	黒澤　貴明			
広報委員会	熊谷　淳夫	田﨑　行子	徳増　　博		6名	随時	広報誌「お元気ですか」の発行
		並木　道子	河井はるみ				
		小野　健悦					
看護・介護教育 委員会	加藤　令子	高宮　一枝	瀬戸谷幸枝		13名	第３水曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進をはかる。
		小倉十三子	川崎　真弓				
		小林　雅美					
		井上　美紀					
		寺島　聡子					
		梶山　一枝					
		加藤紀和子					
		山本　敏臣					
		鈴木三智子					
		田崎　行子					
安全衛生委員会	鈴木　邦彦	鈴木　寿理	猿田　秀子		9名	第２火曜	労働災害の防止、責任体制の明確化、職員の安全と健康を確保、快適な作業環境の形成促進。
		高宮　一枝	梶山　一枝				
		小倉十三子	根本　良子				
		木戸田　真					
		横田美代子					
医療ガス 安全委員会	鈴木　邦彦	高宮　一枝	梶山　一枝		7名	１回／年	保守点検実施責任者に点検を行わせる。 新築、増築、改修工事、及び修理等実施の際の安全確保。 院内各部門への、医療ガスに関する知識の普及、啓発。
		小林　雅美	隠水戸高圧ガスセンター				
		小倉十三子					
		梶山　一枝					
		加藤紀和子					
		根本　良子					
ＮＳＴ	鈴木　邦彦	西村　雅美	片貝　拓也		10名	毎週月曜	ご利用者様のよりよい栄養管理を追及する。
		鈴木　規子					
		木村　洋美					
		森　伊佐武					
		鈴木　佳貴					
		濱野千恵子					
		河野　高宏					
		藤崎亜希子					
褥瘡対策委員会	西村　雅美	大仲　功一	和田美智代	小泉　昌司	44名	第３火曜	院内における褥瘡発生を予防し、褥瘡に対し発症早期より適切なケア・治療を行えるような体制を整える。
		山本　敏臣	清水　槙子	大垣　栄子			
		飯村　誠一	長山　雅美	中山ひろ美			
		森嶋　　仁	五町　春香	富田　良江			
		小林　初美	榎本　春香	舟木　悦子			
		杉山　　楓	荒木　里穂	楠見由美子			
		柏　沙保里	菊島　尚子	綿引智登聖			
		寺島加奈子	小磯　幸子	益子由紀恵			
		近江　桃子	江幡　砂織	齋藤　　剛			
		中郡　享子	清水　花織	四倉　幸恵			
		鈴村しず江	大木亜莉奈	鴨志田純子			
		會澤　　崇	鯉淵　忠敬	中井川和子			
		山﨑まり子	田口真菜美	矢吹かつ子			
		中村　久枝	柏　ひかり				
		鈴木　麻由	小泉　由香				

各委員会構成表（博友会）

委員会	主管	委員長	副委員長	構　成　員		合計	開催日
運営委員会	鈴木　邦彦	鵜藤　正孝	秋山はる江	江幡　和子	宮田　　匠	20名	第３金曜日
				藤田　章宏	佐藤　信也		
				岩間　武寿	黒澤　貴明		
				鈴木　真弓	皆川あゆみ		
				清水　良則	室井　英雄		
				大賀　　譲	清水　良則		
				森　　達也	石本　裕子		
				宮路満智子	井坂　直人		
				桑名　雅義			
感染・褥瘡予防委員会	秋山はる江	宮路満智子	澤幡　弘美	荒井　実香	菱沼　くみ	23名	第１火曜日
				三村ひろみ	高畠みち子		
				菊地千恵子	武川　礼子		
				中井川和子	畑中　洋子		
				大内としゑ	飯塚　妙子		
				石井　人世	小瀧　悦子		
				鈴木　勝行	圷　ちい子		
				海野　智世	小室　和子		
				藤田加奈子	小澤恵理香		
				石川　拓郎	澤田　　歩		
地域交流委員会	森　　達也	田口　　真	阿久津幸子	大賀　　譲	大図　智輝	15名	随時
				堀江　智寛	室井　英雄		
				小瀧　和弥	佐藤　　伸		
				井坂　拓磨	長岡　優太		
				石田　哲嗣	平塚　和枝		
				髙野　賢二	小田部清枝		
食事管理委員会	鈴木　真弓	大畠美由紀	河野奈緒子	小林貴美子	安藤　麻美	16名	第３水曜日（奇数月）
				小松　幸子	大森　眞子		
				木村　末子	桟敷　育代		
				田中　敬子	圷　美津子		
				小澤　裕子	横山　史子		
				長谷川節子	圷　美智子		
				斎藤　倫子	西野　晴美		
				松本久美子			
教育委員会	江幡　和子	藤田　章宏	小薗　靖範	石崎　仁子	小澤　成美	15名	随時
				森田　一枝	井坂　拓磨		
				中野智江子	櫻井　則明		
				小堀　春菜	小島　礼子		
				小薗　麻美	小堀　　翼		
				冨山ひろみ	佐藤　美香		
防災管理委員会	佐藤　信也	深谷　健太	永山　智之	篠田　由香	久保田雄一	13名	年４回 ５月，８月，11月，２月
				金子　　剛	佐藤　　伸		
				白土　　宏	山田　　良		
				鈴木　偲生	大久保洋子		
				石川　健太	桑名　雅義		
サービス向上委員会	清水　良則	関　　昭子	高野　賢二	大内　和子	五十嵐　信	18名	第２火曜日
				安藤　　瞳	相沢　幸恵		
				會澤　祐平	黒澤　貴明		
				小豆畑　望	會澤　裕子		
				檜山　百音	河合　彩月		
				大賀　美咲	関　友典		
				鹿嶋　宏美	伊藤　拓也		
				相田　春美			
リスクマネジメント委員会	岩間　武寿	和知　宏明	五十嵐　信	船橋香緒里	廣木　千春	18名	第３月曜日（奇数月）
				石田　大祐	小野　克摩		
				高村　美保	大谷　悦子		
				高塚　亮輔	平山　龍一		
				関澤　浩司	古田土百代		
				大森さおり	尾島須美子		
				鈴木瑠理子	髙橋　知寿		
				矢口　梓	長岡　孝子		
業務改善委員会	仲田　竜一	三宅　成美	金子　　剛	樋口　朱斗	冨田　照子	16名	随時
				鈴木　真弓	小池　正子		
				直井亜紀子	笹崎　仁美		
				相沢　幸恵	笠井　真弓		
				山田由紀子	髙野　敏行		
				鴫原　優太	吉川　裕子		
				石本　裕子	岩崎　　瞳		
車両安全委員会	宮田　　匠	永山　智之	和知　宏明	栗原美由希	藤田　章宏	11名	第３月曜日
				石川　　愛	雨谷　浩明		
				廣木可奈子	勝村　知也		
				笹崎　圭太	橋本　浩之		

5．年間行事（博仁会）

〔　4　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
平成31年 4月4日	木	サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
4月8日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		食事改善推進プロジェクト
4月9日	火	緩和ケアミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
4月10日	水	法人サポート部ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		看護学校ミーティング
		デイケア•デイサービスミーティング
4月15日	月	相談員ミーティング
4月18日	木	褥瘡対策委員会
4月19日	金	事務ミーティング
		茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
4月22日	月	医局会
		第19回全法人目標成果発表大会
		感染対策小委員会
4月24日	金	広報委員会
		ショップ運営ミーティング

〔　5　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 5月8日	水	デイケア•デイサービスミーティング
5月13日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		食事改善推進プロジェクト
		経営会議（4月分）
		医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（4月分）
		各部門連絡ミーティング（4月分）
5月14日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
5月16日	木	褥瘡対策委員会
5月18日	土	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
5月20日	月	相談員ミーティング
5月22日	水	感染対策小委員会
5月24日	金	看護学校ミーティング
5月25日	土	緩和ケアミーティング
5月27日	月	医局会
		茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		薬剤・DPCミーティング

〔　6　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 6月3日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		経営会議（5月分）
		第91回研修報告会
6月4日	火	事務ミーティング（5月分）
		広報委員会（5月分）
		ショップ運営ミーティング（5月分）
		サービス改善ミーティング（5月分）
		運営ミーティング（5月分）
		医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（5月分）
		各部門連絡ミーティング（5月分）
6月10日	月	食事改善推進プロジェクト
		法人サポート部ミーティング（5・6月分）
		介護福祉学科ミーティング（5・6月分）
6月11日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
6月12日	水	デイケア・デイサービスミーティング
6月13日	木	茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		看護学校ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
6月17日	月	医局会
		緩和ケアミーティング
		相談員ミーティング
6月20日	木	褥瘡対策委員会
6月21日	金	サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
6月22日	土	感染対策小委員会

〔　7　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 7月1日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		経営会議（6月分）
		ショップ運営ミーティング（6月分）
7月3日	水	法人サポートミーティング
		介護福祉学科ミーティング
7月8日	月	食事改善推進プロジェクト
7月9日	火	医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（6月分）
		各部門連絡ミーティング（6月分）
		クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
7月10日	水	デイケア・デイサービスミーティング
7月15日	月	相談員ミーティング
7月16日	火	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
7月18日	木	褥瘡対策委員会
7月22日	月	医局会
		緩和ケアミーティング
7月24日	水	感染対策小委員会
7月25日	木	茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		看護学校ミーティング
7月26日	金	サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
		ショップ運営ミーティング
		経営会議

〔 8 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 8月5日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（7月分）
		各部門連絡ミーティング（7月分）
8月6日	火	クリティカルパス推進委員会
8月14日	水	デイケア•デイサービスミーティング
8月16日	金	地域包括ケアミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
		ショップ運営ミーティング
8月19日	月	食事改善推進プロジェクト
		医局会
		相談員ミーティング
8月20日	火	緩和ケアミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
8月22日	木	茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		褥瘡対策委員会
8月23日	金	経営会議
		看護学校ミーティング
		戦略ミーティング
8月28日	水	感染対策小委員会

〔 9 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 9月2日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（8月分）
		各部門連絡ミーティング（8月分）
		茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		法人サポート部ミーティング(8月分)
		介護福祉学科ミーティング(8月分)
9月3日	火	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
		看護学校ミーティング
9月4日	水	第92回研修報告会
9月9日	月	食事改善推進プロジェクト
9月10日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
9月11日	水	薬剤・DPCミーティング
		茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング（2）
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		デイケア•デイサービスミーティング
9月16日	月	相談員ミーティング
9月19日	木	法人サポート部ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		褥瘡対策委員会
9月21日	金	緩和ケアミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
		ショップ運営ミーティング
9月25日	水	感染対策小委員会
9月30日	月	医局会

〔 10 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 10月 4 日	金	経営会議（9月分）
		法人サポート部ミーティング(9月分)
		介護福祉学科ミーティング(9月分)
		看護学校ミーティング
10月 7 日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（9月分）
		各部門連絡ミーティング（9月分）
10月 8 日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
10月 9 日	水	デイケア•デイサービスミーティング
10月11日	金	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
10月17日	木	褥瘡対策委員会
10月21日	月	食事改善推進プロジェクト
		医局会
		緩和ケアミーティング
		法人サポート部ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		広報委員会
		ショップ運営ミーティング
		相談員ミーティング
10月23日	水	感染対策小委員会
10月24日	木	茨城北西総合リハビリテーション センター運営ミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
10月29日	火	経営会議

〔 11 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 11月 2 日	土	経営会議（10月分）
		事務ミーティング（10月分）
		法人サポート部ミーティング（10 月分）
		介護福祉学科ミーティング(10月分)
11月11日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		食事改善推進プロジェクト
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（10月分）
		各部門連絡ミーティング(10月分)
11月12日	火	医局会
		クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
11月13日	水	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
		デイケア•デイサービスミーティング
11月14日	木	茨城北西総合リハビリテーション センター運営ミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		広報委員会
11月18日	月	呼吸器センターミーティング
		緩和ケアミーティング
		看護学校ミーティング
		法人サポート部ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		相談員ミーティング
11月20日	水	サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		ショップ運営ミーティング
		事務ミーティング
11月21日	木	褥瘡対策委員会
11月27日	水	感染対策小委員会

〔 12 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 12月２日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
12月７日	土	経営会議（11月分）
12月９日	月	食事改善推進プロジェクト
12月10日	火	医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（11月分）
		各部門連絡ミーティング(11月分)
		クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
12月11日	水	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
		茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
		ショップ運営ミーティング
		デイケア•デイサービスミーティング
		第93回研修報告会
12月16日	月	呼吸器センターミーティング
		相談員ミーティング
12月19日	木	褥瘡対策委員会
		フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング
12月24日	火	医局会
		緩和ケアミーティング
		薬剤・DPCミーティング
12月25日	水	感染対策小委員会
12月26日	木	経営会議
		看護学校ミーティング
		法人サポート部ミーティング
		介護福祉学科ミーティング

〔 1 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和２年 １月８日	水	デイケア•デイサービスミーティング
１月11日	土	医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会（12月分）
		各部門連絡ミーティング(12月分)
１月14日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
１月15日	水	緩和ケアミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		看護学校ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
１月16日	木	茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		法人サポート部・ショップ運営ミーティング
		褥瘡対策委員会
１月20日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		呼吸器センターミーティング
		食事改善推進プロジェクト
		相談員ミーティング
１月23日	木	フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング
１月24日	金	広報委員会
１月27日	月	医局会
		認知症連携ミーティング
		経営会議
１月29日	水	感染対策小委員会

〔　2　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和２年 ２月３日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
２月10日	月	医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会
		各部門連絡ミーティング
		食事改善推進プロジェクト
２月12日	水	クリティカルパス推進委員会
		デイケア・デイサービスミーティング
２月18日	月	PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
２月17日	月	医局会
		相談員ミーティング
２月18日	火	呼吸器センターミーティング
		看護学校ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
２月20日	木	茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
		認知症連携ミーティング
		褥瘡対策委員会
２月21日	金	第42回事例検討会
２月25日	火	第94回研修報告会
２月26日	水	経営会議
		法人サポート部・ショップ運営ミーティング
		サービス改善ミーティング
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		広報委員会
		感染対策小委員会
２月27日	木	フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング

〔　3　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和２年 ３月９日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会
		各部門連絡ミーティング
		食事改善推進プロジェクト
３月10日	火	経営会議
		運営ミーティング
		法人サポート部・ショップ運営ミーティング
		医局会
		薬剤・DPCミーティング
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
３月11日	水	事務ミーティング
		広報委員会
		デイケア•デイサービスミーティング
３月16日	月	PSTミーティング
		相談員ミーティング
３月17日	火	クリティカルパス推進委員会
３月25日	水	感染対策小委員会
３月26日	木	褥瘡対策委員会
		水戸メディカルプラザ運営ミーティング
３月27日	金	認知症連携ミーティング
３月30日	月	呼吸器センターミーティング
		看護学校ミーティング
		介護福祉学科ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング

年間行事（博友会）

〔　4　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
平成31年 4月1日	月	志村フロイデグループ入社式
		地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
4月3日	水	医療安全・各部門ミーティング
4月4日	木	運営会議
4月6日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
		在宅サービスグループ通所係ミーティング
4月8日	月	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
4月9日	火	サービス向上委員会
4月10日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
4月11日	木	栄養サービスグループミーティング
4月15日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		2019年度上期理事長面接①
4月16日	火	2019年度上期理事長面接②
		大宮フロイデドルフ運営推進会議
4月17日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
		入所検討委員会
4月19日	金	運営ミーティング
		安全衛生委員会
4月22日	月	入所連携ミーティング
		第19回全法人目標成果発表大会・花見会
4月23日	火	城里運営推進会議
4月24日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
		教育委員会

〔　5　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 5月1日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
5月7日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
5月8日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
5月9日	木	看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
5月11日	土	在宅サービスグループ通所係ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
5月13日	月	経営会議
		医療安全・各部門ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
5月14日	火	ベトナム教育ミーティング
		サービス向上委員会
5月15日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
5月18日	土	運営会議
5月20日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
5月22日	水	フロイデグループホーム桂ミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
5月25日	土	運営ミーティング
		安全衛生委員会
5月27日	月	ごぜんやまヘルパーステーションミーティング
5月28日	火	大宮フロイデドルフミーティング
5月29日	水	事務サービスグループミーティング
		教育委員会

〔　6　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 6月1日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
6月3日	月	経営会議
		ベトナム生活支援ミーティング
6月4日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		医療安全・各部門ミーティング
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
6月5日	水	決算理事会
6月8日	土	在宅サービスグループ通所係ミーティング
6月10日	月	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
6月11日	火	サービス向上委員会
6月12日	水	栄養サービスグループミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
6月15日	土	城里オレンジカフェ
6月17日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		入所連携ミーティング
		入所検討委員会
		運営ミーティング
		安全衛生委員会
6月18日	火	防災管理委員会
		大宮フロイデ運営推進会議
6月19日	水	グループホーム美和ミーティング
6月20日	木	評議委員会
6月21日	金	接遇向上大会
6月25日	火	城里運営推進会議
6月26日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
6月27日	木	ベトナム教育ミーティング
6月28日	金	御前山フロイデガルテン消防訓練

〔　7　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 7月1日	月	経営会議
7月2日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
7月5日	金	栄養サービスグループミーティング
7月6日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
		在宅サービスグループ通所係ミーティング
7月8日	月	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
7月9日	火	医療安全・各部門連絡ミーティング
		ベトナム生活支援ミーティング
		サービス向上委員会
7月10日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
7月11日	木	大宮フロイデドルフ実地指導
7月14日	日	大宮フロイデドルフ家族会
7月15日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
7月16日	火	業務改善委員会
7月17日	水	新規採用職員3ヵ月フォローアップ研修
		グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
7月22日	月	運営ミーティング
		安全衛生委員会
		入所連携ミーティング
7月24日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
		教育委員会
7月30日	火	大宮フロイデドルフミーティング

〔　8　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 8月3日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
8月4日	日	城里健康教室
8月5日	月	医療安全・各部門連絡ミーティング
8月6日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
8月7日	水	栄養サービスグループミーティング
		ベトナム教育ミーティング
8月13日	火	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
8月17日	土	城里オレンジカフェ
		在宅サービスグループ通所係ミーティング
8月19日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		運営ミーティング
		安全衛生委員会
		入所連携ミーティング
8月20日	火	サービス向上委員会
8月21日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
		介護支援グループミーティング
8月23日	金	経営会議
8月24日	土	大宮フロイデドルフ納涼祭
8月26日	月	防災管理委員会
8月27日	火	城里運営推進会議
8月28日	水	グループホーム桂ミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		運営推進会議（常陸大宮地区）
8月29日	木	事務サービスグループミーティング

〔　9　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 9月2日	月	医療安全・各部門連絡ミーティング
9月3日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防ミーティング
		消防用設備保守点検（ドルフ）
		消防用設備保守点検（アシスト大宮）
9月4日	水	消防用設備保守点検（サポートセンター友部）
		第92回志村フロイデグループ研修報告会
9月7日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
		在宅サービスグループ通所係ミーティング
9月10日	火	サービス向上委員会
9月11日	水	消防用設備保守点検（グループホーム桂）
		消防用設備保守点検（サポートセンター美和）
		ベトナム教育ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
9月12日	木	消防用設備保守点検（サポートセンター城里）
9月13日	金	栄養サービスグループミーティング
9月14日	土	御前山フロイデガルテン秋祭り
9月16日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全委員会
9月18日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
9月20日	金	茨城県労働局実態調査
9月21日	土	運営ミーティング
		安全衛生委員会
9月24日	火	入所連携ミーティング
9月25日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
		教育委員会
9月27日	金	大宮フロイデドルフミーティング
9月28日	土	消防用設備保守点検（ガルテン）
		グループホーム桂家族会

〔 10 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 10月１日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防ミーティング
10月４日	金	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
10月５日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
		在宅サービスグループ通所係ミーティング
10月７日	月	医療安全・各部門連絡ミーティング
10月８日	火	サービス向上委員会
10月９日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
10月10日	木	消防訓練（大宮フロイデドルフ）
10月12日	土	城里オレンジカフェ
		栄養サービスグループミーティング
10月15日	火	理事長面接①
10月16日	水	理事長面接②
		グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
		ベトナム教育ミーティング
10月18日	金	安全衛生委員会
		接遇向上委員会
10月21日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		入所連携ミーティング
10月22日	火	運営推進会議（常陸大宮地区）
10月23日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
10月28日	月	防災管理委員会
10月29日	火	運営推進会議（城里地区）
		運営ミーティング
		大宮フロイデドルフミーティング
10月30日	水	教育委員会

〔 11 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 11月５日	火	経営会議
11月７日	木	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
11月９日	土	医療安全・各部門連絡ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
11月12日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
		サービス向上委員会
11月13日	水	技能実習生教育ミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
11月16日	土	フロイデグループ桂ミーティング
		車両安全管理委員会
11月18日	月	食事委員会
		フロイデグループ美和ミーティング
11月20日	水	運営ミーティング
11月22日	金	在宅サービスグループ通所係ミーティング
11月25日	月	大宮フロイデドルフミーティング
		事務サービスグループミーティング
11月26日	火	リスクマネジメント委員会
		御前山フロイデガルテンミーティング
		安全衛生委員会
11月27日	水	ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
11月30日	土	入所連携ミーティング

〔 12 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和元年 12月 3 日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
12月 4 日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
12月 6 日	金	業務改善委員会
12月10日	火	栄養サービスグループミーティング
		フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
		医療安全・各部門ミーティング
		サービス向上委員会
12月11日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
12月15日	日	ごぜんやまチャリティーフェスティバル
12月16日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		入所連携ミーティング
12月17日	土	運営推進会議（城里地区）
12月18日	水	グループホーム美和カンファレンス
		入所検討委員会
		食事委員会
12月19日	木	在宅サービスグループ通所係ミーティング
12月21日	土	城里オレンジカフェ
		志村フロイデグループ忘年会
12月23日	月	防災管理委員会
12月24日	火	運営ミーティング
		安全衛生委員会
		大宮フロイデドルフミーティング
12月25日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
12月26日	木	御前山フロイデガルテンミーティング
12月27日	金	ベトナム教育ミーティング

〔 1 月 〕

年月日（曜日）		行　　事
令和 2 年 1 月 4 日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
1 月 7 日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
1 月 8 日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
1 月 9 日	木	栄養サービスグループミーティング
1 月10日	金	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
1 月11日	土	医療安全・各部門ミーティング
1 月14日	火	サービス向上委員会
1 月15日	水	食事委員会
1 月17日	木	技能実習生生活支援ミーティング
1 月18日	金	グループホーム美和ミーティング
1 月20日	月	入所連携ミーティング
1 月21日	火	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		御前山フロイデガルテンミーティング
1 月22日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
1 月23日	木	安全衛生委員会
1 月24日	金	技能実習生教育ミーティング
1 月27日	月	経営会議
1 月28日	火	大宮フロイデドルフミーティング
1 月29日	水	技能実習生評価試験対策研修会
		博友会業務改善大会

〔　2　月　〕

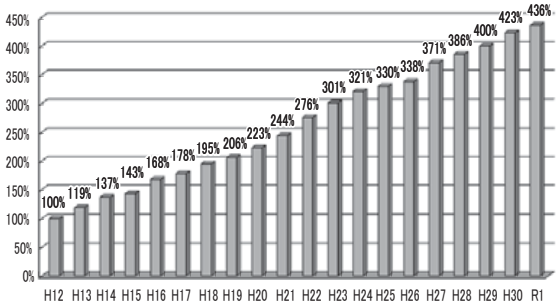
年月日（曜日）		行　　事
令和２年 ２月３日	月	栄養サービスグループミーティング
２月４日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
２月８日	土	フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
２月10日	月	医療安全・各部門連絡ミーティング
２月12日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
２月13日	木	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
		ISOサーベランス審査
２月14日	金	ISOサーベランス審査
２月15日	土	在宅サービスグループ通所係ミーティング
２月17日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		防災管理委員会
		技能実習生生活支援ミーティング
２月18日	火	運営推進会議（常陸大宮地区）
		入所連携ミーティング
		サービス向上委員会
２月19日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
２月22日	土	城里オレンジカフェ
２月25日	火	運営推進会議（城里地区）
		技能実習生評価試験対策
		御前山フロイデガルテンミーティング
２月26日	水	グループホーム桂ミーティング
		運営ミーティング
		安全衛生委員会
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
２月27日	木	事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
２月28日	金	大宮フロイデドルフミーティング
		接遇向上大会

〔　3　月　〕

年月日（曜日）		行　　事
令和２年 ３月３日	火	地域清掃作業
		全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
		栄養サービスグループミーティング
３月４日	水	消防用設備保守点検（グループホーム桂）
		消防用設備保守点検（サポートセンター美和）
３月５日	木	消防用設備保守点検（サポートセンター城里）
		介護技能実習生実地検査
３月７日	土	消防用設備保守点検（ガルテン）
		フロイデ総合在宅サポートセンター美和ミーティング
３月10日	火	サービス向上委員会
３月11日	水	フロイデ総合在宅サポートセンター城里ミーティング
３月12日	木	フロイデ総合在宅サポートセンター友部ミーティング
３月14日	土	大宮フロイデドルフ　消防訓練
３月16日	月	消防用設備保守点検（ドルフ）
		介護技能実習生評価試験
		消防用設備保守点検（アシスト大宮）
		リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
３月18日	水	グループホーム美和ミーティング
		食事委員会
３月19日	木	第17回全法人サービス改善推進大会
３月21日	火	在宅サービスグループ通所係ミーティング
３月23日	月	消防用設備保守点検（アシスト友部）
		消防用設備保守点検（サポートセンター友部）
３月24日	火	御前山フロイデガルテンミーティング
		入所連携ミーティング
３月25日	水	グループホーム桂ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		ごぜんやまケアプランセンターミーティング
		ごぜんやま訪問入浴サービスセンターミーティング
		大宮フロイデドルフミーティング
３月26日	木	第15回全法人学習成果発表大会
３月27日	金	運営ミーティング
		安全衛生委員会
		第33回全法人医療介護安全管理推進大会
３月30日	月	新規採用職員懇親会

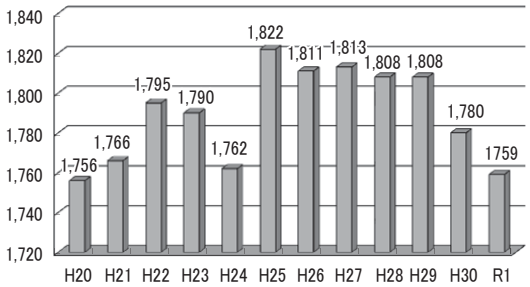
6．博仁会　事業実績

◎全体実績推移



◎一般病棟科の実績

患者数推移



平均在院日数　　目　標：19.0日以下
　　実　績：18.1日

病床利用率の向上　　目　標：21,698床
　　実　績：21,106床
　　達成率：97.3%

メディカルショートスティの受け入れ
　　目　標：18件
　　実　績：12件
　　達成率：66.7%

栄養サポートチーム加算
　　目　標：624件
　　実　績：448件
　　達成率：71.8%

重症度、医療・看護必要度評価加算
　　目　標：324件
　　実　績：471件
　　達成率：145.3%

介護支援連携指導料
　　目　標：168件
　　実　績：101件
　　達成率：60.1%

摂食機能療法加算
　　目　標：360件
　　実　績：115件
　　達成率：31.9%

入退院支援加算１
　　目　標：120件
　　実　績：55件
　　達成率：45.8%

認知症ケア加算１
　　目　標：2,400件
　　実　績：2,866件
　　達成率：119.4%

退院前・後訪問指導料
　　目　標：36件
　　実　績：27件
　　達成率：75.0%

検査　施設入所前検査入院
　　目　標：６件
　　実　績：４件
　　達成率：66.7%

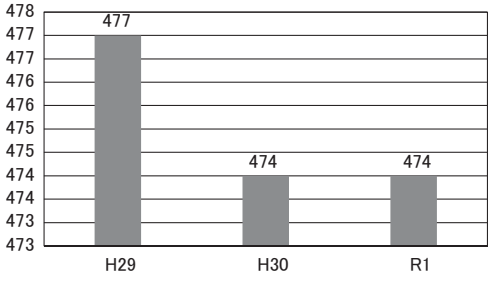
褥瘡院内発生
　　目　標：２件以下
　　実　績：０件

救急・在宅等支援病床、初期加算
　　目　標：336件
　　実　績：190件
　　達成率：56.5%

インシデント・アクシデント件数
（レベル3ｂ以上）　目　標：３件以下
　　実　績：４件

◎緩和ケア病棟科の実績

患者数推移



・緩和ケア対象患者の確保

病床利用数

目　標：222件

実　績：192件

達成率：87.4%

入院患者数の増加

目　標：120名

実　績：96名

達成率：80%

他施設との連携

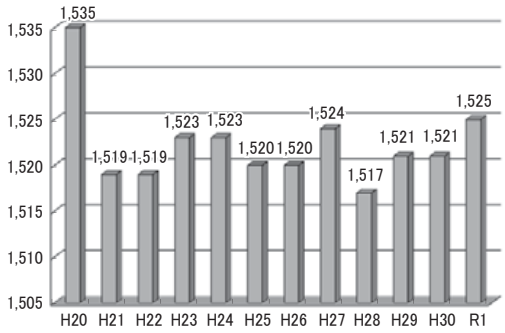
緊急入院初期加算

目　標：３件

実　績：０件

◎回復期リハビリ病棟科の実績

患者数推移



・回復期リハビリテーション病棟入院料１の算定

重症患者比率　目　標：30%以上

実　績：34.8%

重症患者回復比率　目　標：30%以上

実　績：64.5%

在宅復帰率　目　標：90%以上

実　績：91.0%

・病床利用率　目　標：100.0%

実　績：99.3%

・在院日数短縮　目　標：60日以内

実　績：62.2日

・摂食機能療法　目　標：720回以上

実　績：544回

・効果的なADLの向上

目標実績指数：40以上

実績指数：48.5

◎療養病棟科の実績

・病床利用率　目　標：100.0%

実　績：97.4%

・医療区分２・３割合　目　標：85%以上

実　績：89.5%

・栄養サポートチーム加算

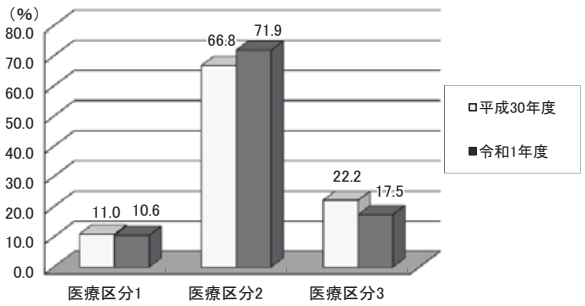
目　標：60件

実　績：74件

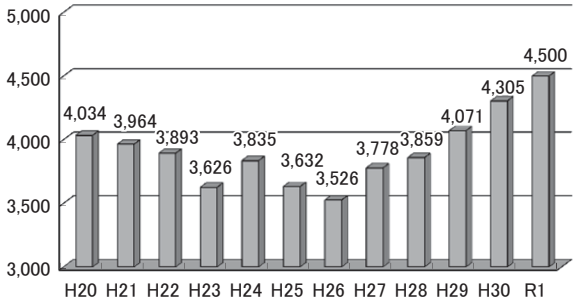
達成率：123.3%

医療区分別割合

	医療区分1	医療区分2	医療区分3
H30年度	11.0	66.8	22.2
R１年度	10.6	71.9	17.5



◎外来科の実績



・外来月平均実人数

目　標：3,000名／月以上

実　績：3,305.3名／月

達成率：110.2%

・健康診断センター件数の増加

目標件数：4,050件

実　績：4,077件

達成率：100.7%

・訪問診療件数の増加

目　標：1,800件

実　績：1,292件

達成率：71.8%

・認知症疾患医療センターからの紹介外来患者数

目　標：186件
実　績：199件
達成率：107.0%

・救急車の受け入れ件数

目　標：120件
実　績：99件
達成率：82.5%

・地域包括診療料１

目　標：30件
実　績：18件

・院内処方箋数

目　標：240件
実　績：212件
達成率：88.2%

・安全な医療サービスの提供
インシデント・アクシデント
レベル３以上の報告

目　標：０件
実　績：２件

・接遇の向上

苦情件数：２件以内
実　績：８件

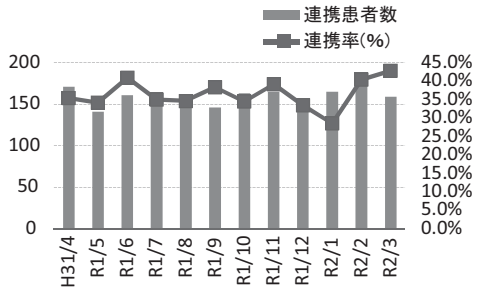
・働き方改革（超過勤務時間）

目　標：13時間以内／月
実　績：11.3時間／月

・外来科　呼吸器センター　開設

◎志村地域医療連携センター

・紹介件数　目　標：1,860件
実　績：1,912件
達成率：102.7%



緩和ケア病棟紹介患者

目　標：120名
実　績：101名
達成率：84.2%

介護支援連携指導料算定

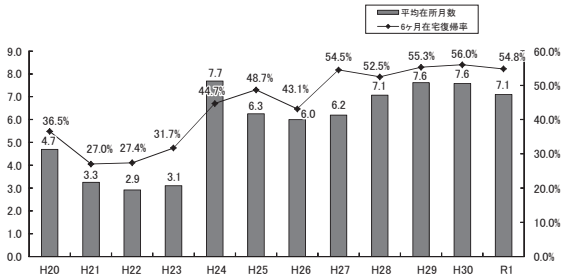
目　標：168件
実　績：102件
達成率：60.7%

入院待機日数の短縮

目　標：13日以下
実　績：15.7日

◎老健入所科の実績

平均在所月数と在宅復帰率推移



・平均在所者数の安定確保

目　標：960名
実　績：953名
達成率：99.3%

・超強化型老健の維持
在宅復帰率・在宅療養支援等指標

目　標：1,020件以上
実　績：1,001件
達成率：98.1%

・初期加算算定者の確保

目　標：2,880件
実　績：3,308件
達成率：114.9%

・排泄支援加算

目　標：120件
実　績：121件
達成率：100.8%

・褥瘡マネジメント加算

目　標：120件
実　績：174件
達成率：145.0%

・外国人技能実習生の受け入れ

◎認知症疾患医療センター実績

・総相談件数

目　標：510件
実　績：571件
達成率112.0%

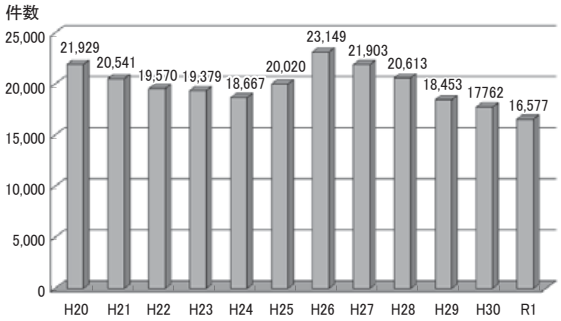
・相談から当院外来受診につながった件数
目　標：180件
実　績：202件
達成率：112.2%
・医療機関からの紹介件数
目　標：72件
実　績：52件
達成率：72.2%
・認知症専門診断管理料１算定数
目　標：36件
実　績：48件
達成率：133.3%
・医療・専門機関との連携数
目　標：216件
実　績：181件
達成率：83.8%
・認知症サポーター養成講座の開催
・他市町村の認知症カフェへの協力
・施設職員との情報交換の実施

◎画像検査センターの実績

・一般撮影件数　目　標：9,250件
実　績：9,863件
達成率：106.6%
・ＣＴ撮影　目　標：1,820件
実　績：1,981件
達成率：108.8%
・ＭＲＩ撮影　目　標：835件
実　績：873件
達成率：104.6%
・MDL（胃部バリウム）
目　標：440件
実　績：519件
達成率：118.0%
・夜間・休日オンコール　13件
対応率　100%　Call～到着　48.5分
・勤務体制の再編成　残業削減　削減率95.0%
・CT・MRI共同利用への取り組み
施設訪問22件　検査依頼６件
・シニア診療放射腺技師　認定　１名

◎おおみやホームヘルパーステーション、ごぜんやまホームヘルパーステーションの実績

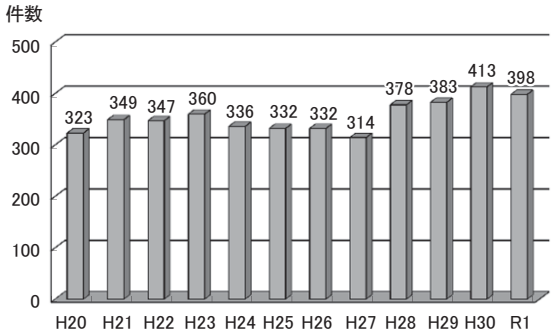
年間訪問件数推移



訪問件数　目　標：19,370件
実　績：16,577件
達成率：85.6%

◎訪問看護ステーションの実績

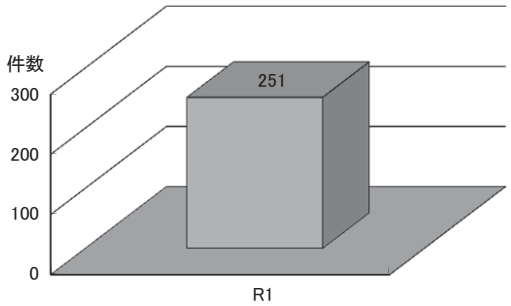
おおみや訪問看護ステーションの実績



利用件数実績　目　標：4,400件
実　績：4,779件
達成率：108.6%
24時間対応・緊急時加算
目　標：940件
実　績：921件
達成率：98.0%

フロイデひたちなか訪問看護ステーションの実績

月平均訪問件数推移



利用件数実績　　目　標：2,780件
実　績：3,012件
達成率：108.3%

◎ケアプランセンターの実績

おおみや総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数
目　標：4,148件
実　績：3,881件
達成率：93.6%

やまがた総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数
目　標：1,428件
実　績：1,420件
達成率：99.4%

みとけやき台総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数
目　標：1,568件
実　績：1,682件
達成率：107.3%

ひたちなか総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数
目　標：1,854件
実　績：1,826件
達成率：98.5%

◎地域包括支援センターの実績

常陸大宮市南部包括支援センターの実績
介護予防プラン作成件数
目　標：1,860件
実　績：1,220件
達成率：113.0%

ひたちなか市北部包括支援センターの実績
介護予防プランの作成件数
目　標：1,080件
実　績：1,014件
達成率：93.9%

◎在宅介護支援センターおおみやの実績

高齢者実態把握件数
目　標：964件
実　績：985件
達成率：102.2%

◎コミュニティケアサービス部の実績

大宮デイケアセンターの実績
利用者数　　目　標：23,864人
実　績：23,766人
達成率：99.6%

志村デイサービスセンターの実績
利用者数　　目　標：3,438人
実　績：3,518人
達成率：102.3%

フロイデ総合在宅サポートセンター緒川の実績
利用者数　　目　標：9,465人
実　績：9,722人
達成率：102.7%

フロイデ総合在宅サポートセンター山方の実績
通所利用者数　　目　標：10,275人
実　績：10,227人
達成率：99.5%
小多機利用者数　　目　標：6,954人
実　績：6,718人
達成率：96.6%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台の実績
通所利用者数　　目　標：10,422人
実　績：10,647人
達成率：102.2%
小規模利用者数　　目　標：10,276人
実　績：9,591人
達成率：93.3%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台つどいの家の実績
利用者数　　目　標：2,808人
実　績：2,570人
達成率：91.5%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田の実績
通所利用者数　　目　標：10,387人
実　績：10,360人
達成率：99.7%
小規模利用者数　　目　標：10,614人
実　績：10,349人
達成率：97.5%

フロイデ水戸メディカルプラザの実績

通所利用者数　目　標：5,579人
　　実　績：1,701人
　　達成率：30.5%

小多機利用者数　目　標：3,163人
　　実　績：2,978人
　　達成率：94.2%

住宅型有料利用者数　目　標：2,828人
　　実　績：2,725人
　　達成率：96.4%

訪問介護利用者数　目　標：3,586人
　　実　績：1,816人
　　達成率：50.6%

訪問看護利用者数　目　標：1,914人
　　実　績：1,114人
　　達成率：58.2%

診療所利用者数　目　標：1,392人
　　実　績：673人
　　達成率：48.3%

カフェ来店客数　目　標：2,070人
　　実　績：3,573人
　　達成率：172.6%

フィットネス登録者数　目　標：300人
　　実　績：114人
　　達成率：38.0%

フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなかの実績

通所利用者数　目　標：21,768人
　　実　績：22,192人
　　達成率：101.9%

認知症デイ　目　標：3,465人
　　実　績：3,462人
　　達成率：99.9%

小規模利用者数　目　標：10,614人
　　実　績：10,254人
　　達成率：96.6%

グループホーム　目　標：6,030人
　　実　績：5,947人
　　達成率：98.6%

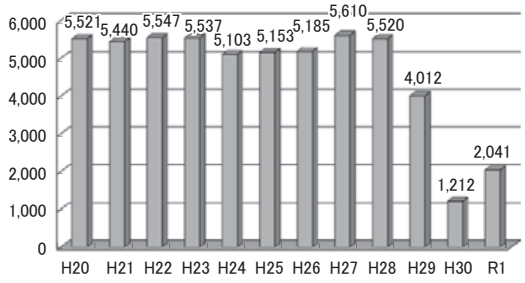
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮の実績

通所利用者数　目　標：10,657人
　　実　績：10,545人
　　達成率：98.9%

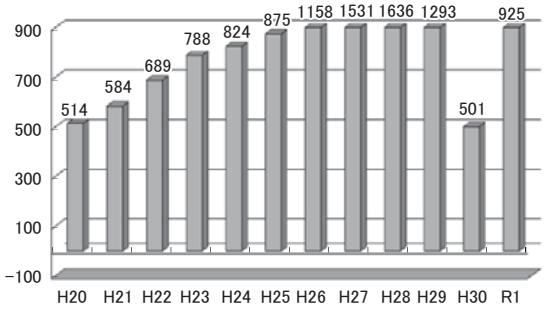
小規模利用者数　目　標：10,614人
　　実　績：10,088人
　　達成率：95.0%

◎薬剤科の実績

薬剤管理指導料推移



訪問薬剤指導回数推移



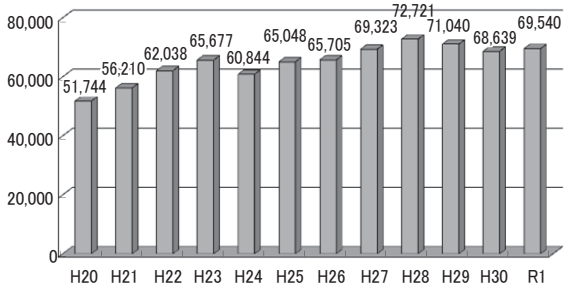
薬剤管理指導　目　標：1200回
　　実　績：2041回
　　達成率：170.0%

訪問薬剤管理指導（個別）
　　目　標：年間420回
　　実　績：年間356回
　　達成率：84.7%

訪問薬剤管理指導（複数名）
　　目　標：年間600回
　　実　績：年間569回
　　達成率：94.8%

◎栄養科の実績

配食件数実績推移



・配食件数
　　目　標： 106,140食

実　績：101,961食
達成率：96.1%

・居宅系入所者・在宅への居宅療養管理指導
目　標：840件
実　績：713件
達成率：84.9%

・栄養指導（個人）
目　標：840件
実　績：660件
達成率：78.6%

・食事改善推進プロジェクト
新メニューの開発・改善　20品
バイキング　6回の実施

・管理栄養士カフェ　11回開催

・食事支援の充実
（選択メニュー、エーデルワイス誕生会、えんげキッチン、経口摂取への移行への取り組みなど）　13回開催

・チーム医療の推進（各病棟、施設ミーティング参加）

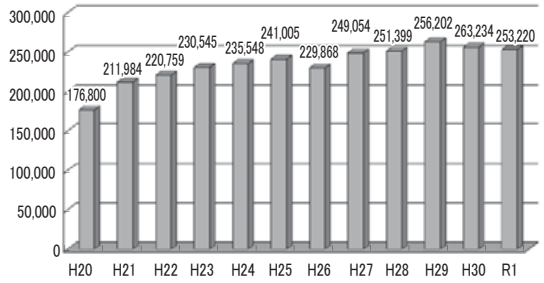
・嗜好調査アンケートの実施
入所・在宅　各1回

・新規事業　フロイデ水戸メディカルプラザ・カフェミッテンバルト開設運営

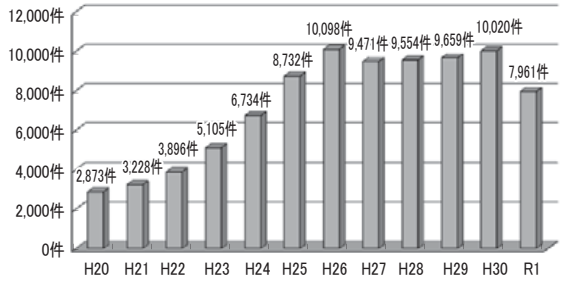
・認定栄養ケア・ステーション申請

◎リハビリテーション事業部の実績

リハビリ訓練単位推移「年間訓練単位」



訪問リハビリ単位推移



病院におけるリハの提供
目標単位数：259,513単位
実　績：253,220単位
達成率：97.6%

訪問リハビリ提供数
目標件数：7,806件
実　績：7,961件
達成率：102.0%

病院リハ
リハ計画の立案
介護保険リハ非利用　　実　績：714件
介護保険リハ利用　　実　績：471件

訪問リハ
訪問リハ計画診療実施者数
実　績：790件

老健入所
短期集中リハ実施加算　　実　績：6951件
認知症短期集中リハ実施加算
実　績：1,005件
個別リハ実施加算　　実　績：1,791件

専門知識・技能の習得
理学療法士協会　新人教育プログラム修了　10名
認定理学療法士取得　1名
茨城県社会リハ専門職　初級　修了1名
3学会合同呼吸療法認定士　2名
大学院修士（保健医療学）　1名

学術活動（全国レベル　8演題）
第10回全国デイ・ケア研究大会
リハ・ケア合同研究大会　金沢2019
第47回日本職業リハビリテーション学会
第53回日本作業療法学会
介護・終末期リハ・ケア研究大会
第7回慢性期リハビリテーション学会

学術活動（茨城県レベル　12演題）
医療圏新人症例発表会（PT）
茨城県理学療法士学会
茨城県作業療法学会

・職能要件書に沿った教育プログラムの実施
新人教育プログラム　55テーマ
新人症例検討会　2回
職種・年数別教育の実施　各職種2テーマ

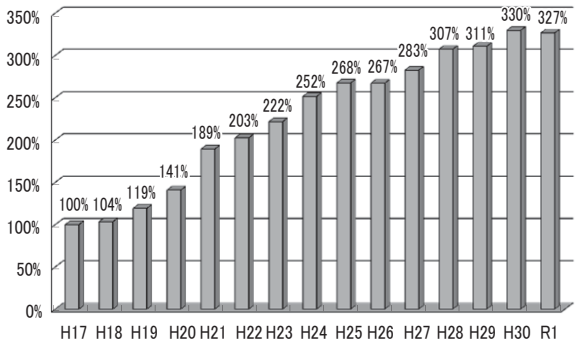
・呼吸リハに関する知識・技術の向上を図る勉

強会　１回
・リーダー・係長の管理能力向上を図る勉強会
１回

◎人事課の実績
・「働き方改革」対応
有給休暇の５日取得推進（９/16一斉付与周知）
時間外労働の上限規制による協定（８/16付協定）
・労務管理、人材活用
処遇改善加算（新規特定）、介護処遇改善加算支給、保育士処遇改善対応
・有期労働契約から無期労働契約転換　９名
・各種助成金制度の活用
特定求職者雇用開発助成金　13件
キャリアアップ助成金　　１件
・労働衛生環境の向上
ストレスチェック実施　11月
衛生管理者職場巡視　４回
職員からの相談対応　19件
SFGメンタルヘルス相談室の開設準備　３月
こそだて支援アンケート実施・集計　２～３月
・人材育成
中途採用者の接遇就業規則研修会　２月

◎診療サービス課の実績
・DPCの収益維持
DPC期間内の早期退院調整（入院期間Ⅰ・Ⅱ）52.3%
病院情報の公表、適切なコーディングと委員会の開催、SFG入退院調整MT参加
・外来患者数の増加
健診センター活性化・特殊健診・オプション検査の拡充による健診患者増
H30　3,725件
R１　4,077件
9.4%
日本総合健診医学会　認定　精度管理調査の実施（年4回）
・無料送迎バス利用者増と、維持・確保
目標：１日平均60名　年間17,580名
実績：11,395名　64.8%
・接遇・サービス改善
コンシェルジュと一体となったきめ細かいサービスの提供
接遇インストラクター養成　施設利用案内作成

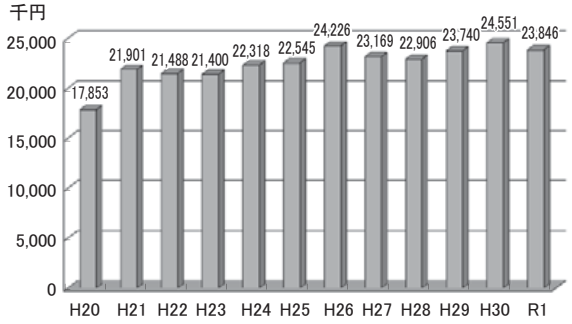
◎営業の実績
いばらき総合介護サービス収入推移



いばらき総合介護サービス売上高
目　標：242,478千円
実　績：231,307千円
達成率：95.4%
いばらき総合介護サービス収益
目　標：9,028千円
実　績：8,536千円
達成率：94.6%
介護事業部売上高
173,273千円
94.0%
カフェ事業部売上高
16,413千円
94.5%
アパート事業部売上高
7,371千円
102.4%
売店事業部売上高　34,249千円
101.9%
住宅改修件数
実　績：91件
達成率：86.7%
レンタル利用者数
実　績：6,812人
達成率：106.2%
レンタル新規利用者数
実　績：150人
達成率：89.3%
介護ショップリフォーム／テクノエイドセンター開設
各事業のプロモーション活動の徹底
ブランド化委員会の開催

◎管理部の実績

年間コスト削減実績



・コスト低減の強化　　目　標：24,000千円
　　実　績：23,846千円
　　達成率：99.4%
　ダスキンマット単価見直し、臨床検査委託費単価見直し、水道料金削減
・志村クリニックごぜんやまの増収・増益
　台風19号の影響により令和元年10月13日より休止。災害助成金申請
・情報システム整備と情報発信
　新設施設（テクノエイドセンター、グループホームひたちなか、フロイデ水戸メディカルプラザ）のICTインフラ構築
　ホームページコンテンツの充実
　スマートデバイス導入（訪問系サービス）
　電子カルテ、ＷＩＮＣＡＲＥ運用管理
　市民健康教室　（毎月開催）
　広報誌「おげんきですか」2回発行
　介護職員初任者研修講座（5月・8月・1月）
　介護福祉士実務者研修講座（6月）
・施設整備推進
　チロル館給水・給湯設備更新
　MRI（1.5テスラ・超電導）導入
　あんしん介護プラザ、テクノエイドセンター、みんなの休憩所整備
・院内保育所「フロイデキンダーガルテン」
　病児、病後児保育対応
　保育士確保
・企業健診、職員2次健診　の推進
　（企業健診1,526件、職員2時健診受診率51.8%）
・交通事故の低減
　10件、交通安全講習会の開催
・病院の個別指導・適時調査対応、保健所立入検査、病院定時報告、病床機能報告
・研修医受入　　水戸医療センター2名
　筑波大学生3名実習受入
・研修協力施設申請
　（筑波大学附属病院・県立中央病院・ひたちなか総合病院・水戸医療センター）

◎経理部の実績

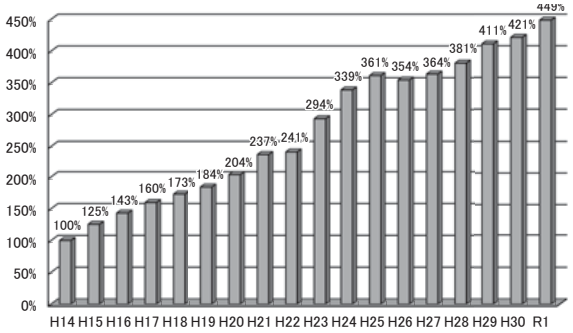
・シミュレーション等経営判断資料の作成
　各シミュレーション資料や経営判断資料を作成。
・負債勘定残高の抑制
　借入金限度額50億円に変更。水戸メディカルプラザ建築借入金以外のその他負債残高を抑制。
・資金繰状況の管理
　年間を通した資金繰予定表を作成し、毎月早期に資金繰り状況の検証を実施し、預金残高が減少しないよう注力。

◎法人サポート部

・新規事業開設の支援
　フロイデ水戸メディカルプラザ　開設申請等（クリニック・訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護・住宅型有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護・就労移行支援・就労継続支援A型）
　フロイデグループホームひたちなか　開設に関する各種申請
　茨城北西看護専門学校　介護福祉士養成校開設準備　（講師確保2名）（令和2年4月開校）
・人材の確保
　中途採用115名（グループ合計）
　新規採用32名（グループ合計）
　ベトナム技能実習生の受入準備（現地訪問・面接・住まいの確保・申請等）
・病院を中心としたまちづくり
　茨城北西まちづくり研究会4回開催
　行政、商店街との先進地域視察
・第1回日本地域包括ケア学会開催

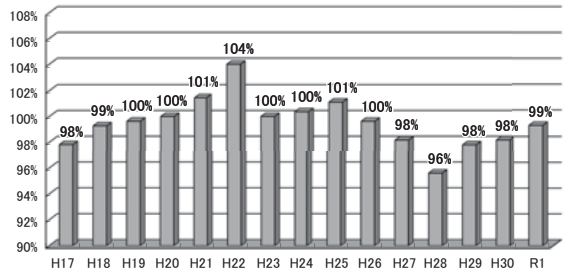
7．博友会　事業実績

◎全体実績



◎御前山フロイデガルテンの実績

御前山フロイデガルテンの収入推移



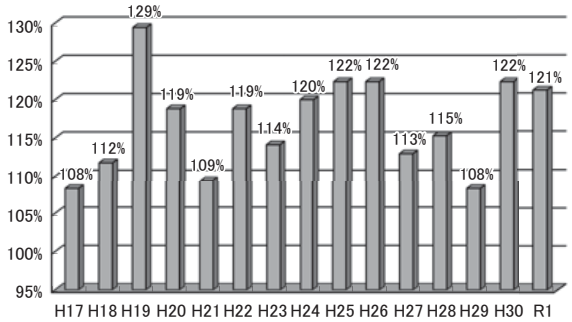
利用率（60床）　　目　標：21,960件
　　実　績：21,616件／年
　　達成率：98.4%

家族面談　　医師を交えた家族面談　17回／年
終末期ケアの充実　　看取り介護　２名／年
（医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施）

外国人技能実習生の受入　　１名／年

◎御前山デイサービスセンターの実績

御前山デイサービスセンターの収入推移



サービス提供件数　　目　標：10,597件
　　実　績：10,743件
　　達成率：101.4%

年間新規者数　　目　標：47名
　　実　績：42名
　　達成率：89.4%

個別機能訓練加算Ⅰ　目　標：6,416件
　　実　績：6,304件
　　達成率：98.3%

個別機能訓練加算Ⅱ　目　標：9,054件
　　実　績：8,919件
　　達成率：98.5%

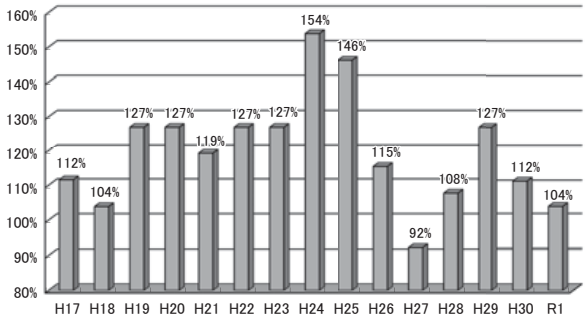
地域包括ケア推進の取組
　　地域見守り協力隊
　　５件／年（新規）
　　御前山女子クラブ販売会
　　５回／年実施

地域密着を考えた施設運営
　　御前山フロイデガルテン
　　秋祭り
　　9／14実施
　　御前山チャリティーフェスティバル
　　12／15実施

顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

◎ごぜんやまホームヘルパーステーションの実績

ごぜんやまホームヘルパーステーションの収入推移

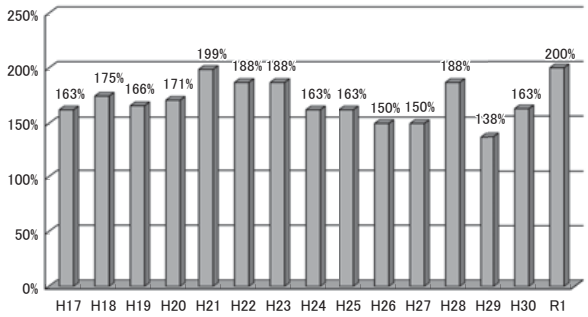


サービス提供件数　　目　標：9,900件
　　実　績：7,595件
　　達成率：76.7%

顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

◎ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの実績

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの収入推移



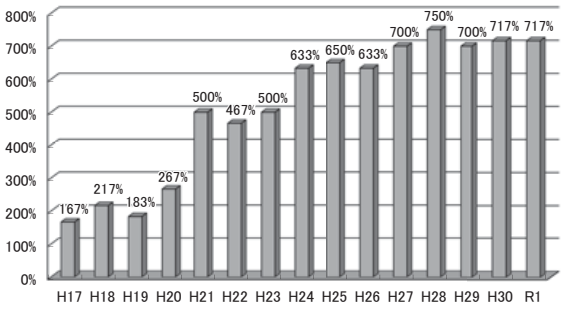
サービス提供件数　　目　標：1,040件
　　実　績：1,153件
　　達成率：110.9%

新規利用者獲得　　目　標：36件
　　実　績：26件
　　達成率：72.2%

顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

◎ごぜんやま総合ケアプランセンターの実績

ごぜんやま総合ケアプランセンターの収入推移



ケアプラン作成件数　目　標：3,050件
　　実　績：3,037件
　　達成率：95.8%

入院時情報連絡加算　目　標：72件
　　実　績：69件
　　達成率：95.8%

退院・退所加算　　目　標：38件
　　実　績：10件
　　達成率：26.3%

特定事業所加算　　目　標：2,681件
　　実　績：2,688件
　　達成率：100.3%

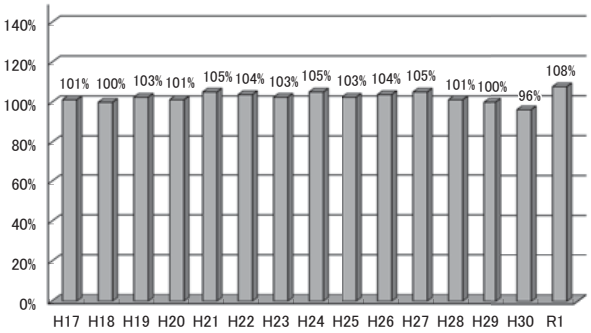
顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

関係機関との連携　　介護支援専門員連絡協議会参加意見交換
　　常陸大宮市・城里町・那須烏山市にて参加

地域との連携の推進　地域ケア会議への参加
　　常陸大宮市地区会参加

◎フロイデグループホーム桂の実績

フロイデグループホーム桂の収入推移



利用率（18床）　　目　標：6,570件
　　実　績：6,495件
　　達成率：98.9%

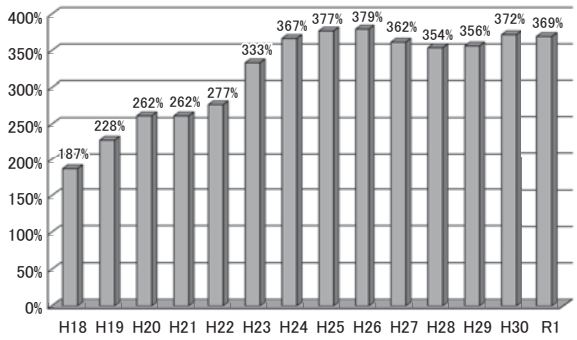
顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

地域密着を考えた施設運営
（地域イベント等参加）
　　沢山小学校運動会参加
　　５／19参加
　　敬老会
　　９／28実施
　　城里町民祭り
　　11／9参加

家族面談
（医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施）
　　家族会
　　９／28実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター美和の実績

フロイデ総合在宅サポートセンター美和の収入推移



サービス提供件数
認知症対応型共同生活介護
　　目　標：3,294件
　　実　績：3,288件
　　達成率：99.8%

通所介護　　目　標：10,387件
　　実　績：10,459件
　　達成率：100.7%

個別機能訓練加算Ⅰ　目　標：6,960件
　　実　績：6,611件
　　達成率：95.0%

個別機能訓練加算Ⅱ　目　標：8,700件
　　実　績：7301件
　　達成率：83.9%

地域密着促進活動　　運営推進会議実施
　　６回／年

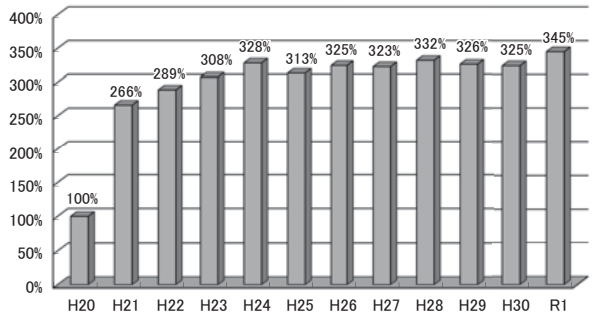
地域密着を考えた施設運営
（地域イベント等参加・事業所PR）
　　鷲子福祉ボランティア総会
　　４／１参加
　　美和文化祭
　　11／２参加
　　地域住民参加型交流イベント
　　３回／年実施
　　家族会
　　９／15実施

地域住民参加型消防訓練の実施

顧客満足度調査　　接遇アンケート実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター城里の実績

フロイデ総合在宅サポートセンター城里の収入推移

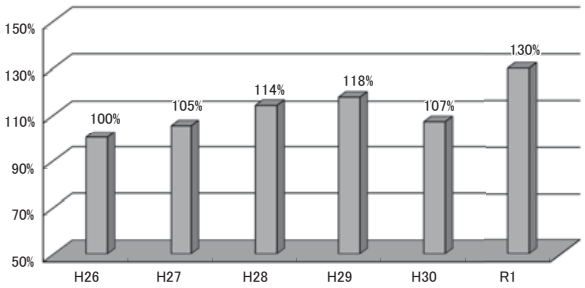


サービス提供件数

通所介護	目　標：10,387件	
	実　績：10,187件	
	達成率：98.1%	
個別機能訓練加算Ⅰ	目　標：6,255件	
	実　績：5,048件	
	達成率：80.7%	
個別機能訓練加算Ⅱ	目　標：8,438件	
	実　績：7,350件	
	達成率：87.1%	
小規模	目　標：10,614件	
	実　績：10,078件	
	達成率：95.0%	
配食	目　標：3,660件	
	実　績：3,839件	
	達成率：104.9%	
地域密着推進活動	城里町民祭り 11／9参加 地域向け認知症サポート講座 4回／年	
顧客満足度の向上	アンケート調査実施	

◎障害者支援（フロイデ工房・フロイデ工房なか・ロッティなか）の実績

障害者支援収入推移

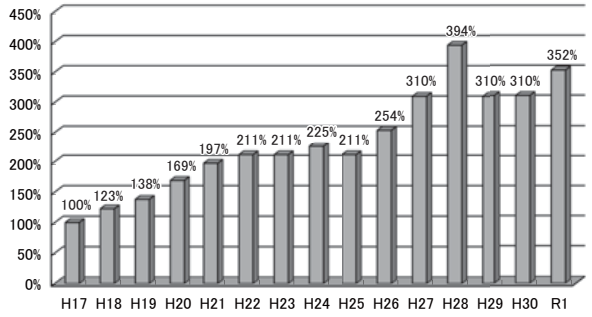


サービス提供件数

就労支援（城里）	目　標：4,562件
	実　績：3,766件
	達成率：82.6%
就労支援（那珂）	目　標：1,890件
	実　績：2,348件
	達成率：124.2%
児童発達支援	目　標：902件
	実　績：1,086件
	達成率：120.4%
顧客満足度調査	接遇アンケート実施
就労支援実績	面接会参加5名
障害者支援事業充実化	放課後等デイサービス開設

◎栄養サービスグループの実績

栄養サービスグループの収入推移



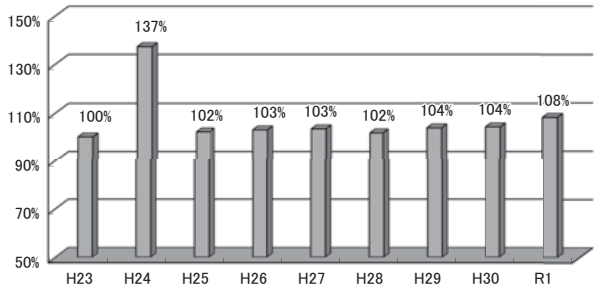
配食提供　　目　標：32,941食／年
　　実　績：33,091食／年
　　達成率：100.5%

栄養ケアの充実（個人の状態に合わせた栄養ケア計画、食の支援）
　　バイキングの実施
　　嗜好調査の実施

顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

◎大宮フロイデドルフの実績

大宮フロイデドルフの収入推移



利用率（49床）　　目　標：17,934件
　　実　績：17,736件
　　達成率：98.9%

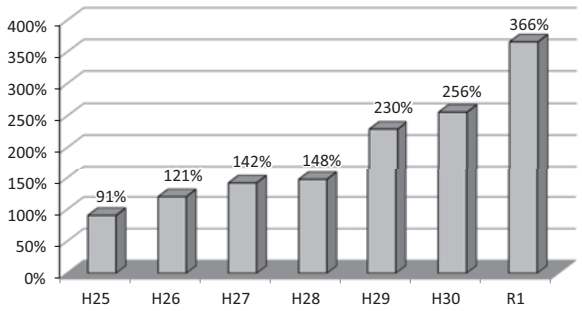
地域密着を考えた施設運営
（地域イベント等参加）
　　家族会　7／14実施
　　ドルフ秋祭り　8／24実施
　　敬老会　9／18実施

家族面談　　52件実施
（医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施）

外国人技能実習生の受入　1名／年

◎フロイデ総合在宅サポートセンター友部

フロイデ総合在宅サポートセンター友部の収入推移



サービス提供件数

通所介護　　目　標：10,387件
　　実　績：10,846件
　　達成率：104.4%

看護小規模　　目　標：10,614件
　　実　績：9,710件
　　達成率：91.5%

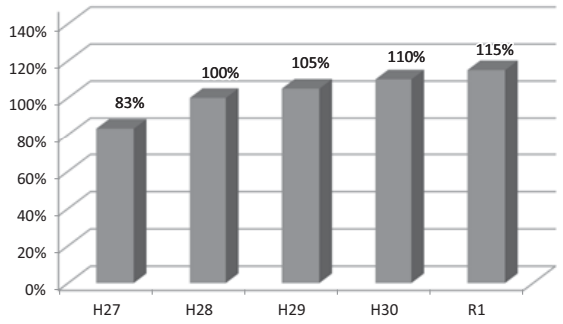
訪問看護　　目　標：806件
　　実　績：3,058件
　　達成率：379.4%

高齢住宅　　目　標：7,320件
　　実　績：7,213件
　　達成率：98.5%

顧客満足度の向上　アンケート調査実施

医療・介護連携　　地域ケア会議参加
　　地域連携パス
　　笠間市福祉施設協働事業連絡会参加

◎アシストハウス大宮の実績



サービス提供件数　　目　標：8,045件
　　実　績：7,862件
　　達成率：97.7%

地域住民参加型の防災訓練の実施　　2回／年

顧客満足度の向上　　アンケート調査実施

◎事務サービスグループの実績

未収金の確実な回収

3月末回収率　　目　標：0％　0名
　　実　績：1.34%　5名

スタッフ問題意識向上
　　目　標：業務改善年間60件以上
　　手引書の作成年間16件以上
　　実　績：業務改善年間49件報告
　　手引書の作成年間20件報告

職員満足の向上　　目　標：担当業務部門内勉強会10件以上
　　実　績：担当業務部門内勉強会10件実施

働きやすい職場環境作り
　　離職率10.10%

技能実習生受入
　　完了

ISO・Pマーク統合内部監査の実施

8．博仁会　部門別実績報告

看護・介護部

部長　高宮　一枝

昨年刷新された病院理念、それに基づく看護・介護部理念に沿い、なお一層地域住民に愛され頼りにされる病院ならびに看護介護部になれるようこころざし新たに努力してまいりました。

今年度の目標は、引き続き地域を視野に「質の高い看護・介護の提供　～効率的な時間活用・質の高い業務遂行・地域活動への参加～」としました。

業務効率を上げるための業務の見直しからブラッシュアップをかけ、質の高い業務遂行に繋げ、家族ニーズを捉えた関わりが持て本来あるべき生活の場・地域へ、患者から生活者へと送り出しができるよう、関係各所と連携をはかりました。

また、認知症、摂食嚥下、排尿自立サポートチームの活動目標を「サポートチームシステムの構築と推進　～体制見直しにより質の向上をはかり加算取得にチームとして貢献できる～」とし、地域で元気に生活できるために入院中から準備を行なえるよう取り組みました。

活動目標

1.　病床管理の充実　（法人内情報共有連携）

- 病床利用率の向上・法人間連携の充実：SFG連携ミーティングの実施
- 「小規模多機能・看多機空き情報」の共有
- 入退院支援機能の強化
- ベッドコントロールの充実

2.　安心な医療の提供

感染防止対策加算Ⅱ：毎週のICTラウンドの実施と充実
：サテライトの報告体制整備およびラウンドの実施

3.　安全な医療の提供

医療安全対策地域連携加算・加算1病院との連携実施

4.　メディカルショートステイの受け入れ

5.　水戸メディカルプラザからの迅速な入院の受け入れ・ナースカーでの送迎

6.　仕事と子育て介護両立支援センター開設・アンケート実施

7.　茨城北西看護専門学校実習生の受け入れ実施

：実習部署の調整
実習指導者の養成・研修調整

8.　卒後看護師5ヵ年研修の支援

：研修調整

9.　まちづくりへの参画

：病院祭、楽市、ふれあい広場、市民健康教室への参加

（一般病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟・緩和ケア病棟・老人保健施設）

教育の充実（資格・研修）

1.　摂食嚥下認定看護師研修推進

2.　特定行為研修推進

3.　介護福祉士資格取得推進

4.　介護支援専門員資格取得

サポートチーム実績

1.　摂食嚥下チーム

- VE実施患者数　37名（一般病棟・回復期リハビリ病棟）
- 摂食機能療法算定件数　657件（一般病棟95件・回復期リビリ病棟45件）
- 食事開始手順の定着　看護師主体での運用開始

2.　認知症ケアチーム

- 認知症チームラウンドの実施　976回
（一般病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟・緩和ケア病棟）

・認知症ケア加算１　5953件（一般病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟）
・全体研修年２回実施

3.　排尿ケアチーム

・チームラウンドの実施　976回（一般病棟・回復期リハビリ病棟・緩和ケア病棟）
・排尿自立加算算定　２件（一般病棟）
・ コンチネンスパスの運用　844件　（一般病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟）
・TENAマイスター取得　83%

今年度は年号がかわるという慌しい一年でした。ますます進む少子高齢化社会。志村大宮病院が地域の皆さんと良い関係を築き、健康と生活に関わっていけるよう努力してまいります。

病院理念にもうたわれている「全世代・全対象者に提供する地域包括ケアの構築」と「まちづくり」への参画に、看護・介護部も地域包括ケア構築の一端として積極的に関わり、地域に貢献していきたいと考えます。

在宅退院が推奨され、当院の担う急性期から回復期、生活期、終末期の一連の経過を実践すべく取り組みました。病院から退院支援を行う上で充実した在宅サービスへのシフトは、当院の強みです。各部門との連携強化に努めました。

また、今年度は、病院理念が新しくなりなお一層、地域包括ケアを支える病院としての立ち位置が明確に示されました。益々進む少子高齢化社会に向け、リハビリ・緩和ケア・認知症を中心とした、かかりつけ医機能と専門医療を全世代・全対象者に提供する地域包括ケアの構築に向け、法人が行う「まちづくり」に参画してきました。地域住民が元気で生活するための健康維持と疾病予防が看護介護部の役割です。今後も、患者様・ご家族様のためのチーム医療と安全・安心な医療・看護・介護、リハビリの提供に努めてまいります。

一般病棟科

科長代理　小林　雅美

一般病棟は法人内での医療機能の要となるべく高度超急性期病院、介護施設や在宅支援サービス等と常に連携を図り、令和元年度は以下の目標を設定し、地域包括ケアの一環として治し支える治療と良質なケアの提供に努めています。

【令和元年度部門目標】

①医療安全・感染対策・褥瘡予防等への職員意識を向上させ、安全で安心なケアサービスを提供する
②施設･在宅サービスとの連携、入退院の調整、支援に努め、地域包括ケアシステムの中での病院の役割を果たす。
③研修等での知識の習得、振り返りにより、ケアの質の向上を図る。

【取り組みと実績】

ケアの質向上においては医療安全や感染対策、褥瘡対策等の各委員会や栄養、認知症、排尿自立等の各サポートチームの活動と、それらに関する職員教育の取り組みを継続しました。忙しい業務の中、誰もがそれぞれの委員としての役割を果たしています。認知症ケア加算１を取得しており、増加傾向にある認知症患者様に対してより良いケアができるよう対応しております。私達は入院されると同時に退院に向けてのプラン作成やアドバンスケアプランニングについての説明をさせていただいており、地域包括ケアシステムの中でシームレスなケアを提供することに努めました。一般病棟は地域包括病床が４床でしたが12月より８床へ増床しています。地域で求められる在宅医療を支える体制作りに励んでいます。入院時には施設や在宅スタッフから情報を取得し、在宅に戻るにおいてはケアマネージャーをはじめ訪問看護や訪問介護、デイサービス等の在宅サービスのスタッフと連携を図り、状態に合わせて退院後のサービスを検討。医療に依存することが多い患者様に対しては、退院後、必要に応じて病棟看護師が訪問

し、指導や問題点の対応をすることもより強化しました。どのような状況でも地域の患者様のために病棟職員はケアの提供を惜しみません。それらの結果、令和元年度は月平均で平均在院日数18.07日、看護必要度39.2%、年間での病床利用率は97.3%でした。アンケートでは多くのご協力をいただき、様々なご意見と励ましや温かい言葉を多くいただきました。ご意見は真摯に受けとめ改善対応させていただきました。

今後も、地域住民の方々が安心して暮らしていただくための地域包括システムの構築に貢献できるよう、安心で安全なケアを提供してまいります。

緩和ケア「エーデルワイス」病棟科

科長　加藤　令子

【令和元年度部門目標】

1．ACPに基づいた療養場所へスムーズに移行します。
2．専門性を高め根拠に基づいた援助を提供します。
3．患者さま・ご家族さまの思いに寄り添い温もりのある援助を提供します。

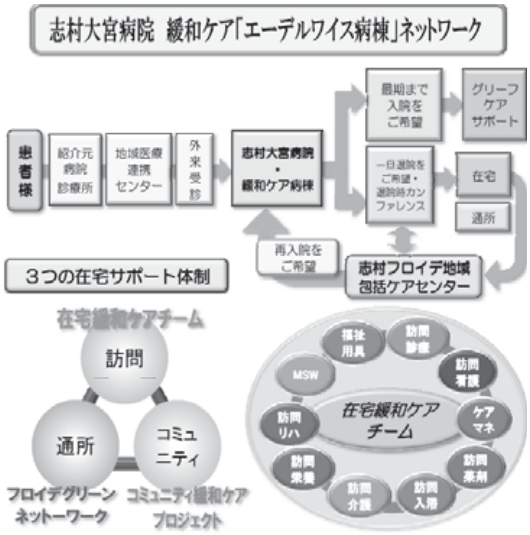
【実績報告】

1．ACPに基づく療養場所へスムーズに移行します。

在宅復帰率（緩和ケア入院料1:15%以上）	18.9%
自宅退院	16人
施設退院	3人
待機期間（緩和ケア入院料1：14日以内）	9.6日

エーデルワイス病棟は入院される患者様の9割以上が急性期病院からのご紹介がご縁となる緩和ケア病棟です。そして大多数の方が「自宅退院は難しい」と判断された後の入院となります。しかし、意思決定支援に力を入れ、患者様の思いとご家族様の思いをリンクさせながら浮かび上がった問題を「エーデルワイスネットワーク」を活用する事で解決し、ご自宅へ退院する方が増加しています。勿論、一度退院した後も密に連絡をとり、体調が悪い時・レスパイト等、患者様・ご家族様の状況に合わせていつでも入院できるようにお部屋のコントロールをしています。

エーデルワイス病棟では、患者様とご家族様が過ごす大切な時間を、温もりある穏やかな時となるようにお手伝いさせて頂いています。



2．専門性を高め根拠に基づいた援助を提供します。

緩和ケアは、全人的苦痛に対する支援を展開し、ご家族様を含めたケアを提供するために多職種連携が必須です。特に看護師はケアの実践者であり、また患者様・ご家族様の一番近くにいる医療従事者として代弁者となり思いを伝える役割りを担う事もあります。その役割を果たすことや専門性を発揮することが質の向上と繋がります。したがって令和元年度はELNEC-J（患者の権利の尊重、家族への代理意思決定支援とともに、より良い生を支援するための苦痛緩和などのケアを充実させる看護師教育プログラム）の受講や患者様の思いを繋ぐ「聞き書き」の研修、「全人的苦痛を抱えた患者への寄り添い方とケアのポイント」その他、積極的に外部研修に参加し

スタッフ間で共有しながら緩和ケアに関する知識の向上に努めました。しかし患者様・ご家族様の思いは図り知れず、時に知識よりも人間的な温もりを必要とする方もいます。今後も知識のみならず人として成長し人間対人間の看護ができる教育を目指します。

3．患者さま・ご家族さまの思いに寄り添い温もりのある援助を提供します。

季節のイベント・飾り付け					
4月	お花見	8月	病院祭	12月	クリスマス会
5月	端午の節句	9月	お月見	1月	新年会
6月	雨の歌大会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕パーティ	11月	エーデルワイスの会	3月	雛祭り

上記以外、ピアノコンサートやブリザーブドフラワー、その他のボランティアの協力により日常生活に彩りを添えています。また、患者様のご要望によりDVDやメッセージカードを作成しご家族様へ思いを繋ぐ支援もしています。ご好評を頂いている酸素使用中の方や体動困難な方の外出のお手伝い等、今後も多職種の力を駆使し患者様やご家族様のご要望に応じた支援をさせて頂きます。

外来科

科長　小倉　十三子

令和元年度部門方針

①医院・クリニックおよび在宅、施設との連携促進と訪問診療件数の増加

②呼吸器センター開設にともなう、看護師個々の知識向上

③外来看護記録の充実

以上の項目を目標に立案し取り組みました。

実績

①近隣医院・クリニック・施設との連携を大切に挨拶訪問をさせて頂き、顔の見える連携を第一に考え地域の先生方との情報交換、情報共有をおこないました。訪問件数年／60件、地域の医師から外来科への紹介件数年／537件と84.9%でした。さらに、訪問診療件数に繋がるように訪問診療パンフレット見直し作成、外来患者家族に配布、説明に努めましたが増やすことはできませんでした。

②10月より、呼吸器センター開設に向けて医師、管理部、看護師、薬剤師、栄養科、リハビリ科、放射線科とミーティングをおこない、検査項目選択、内科診療と呼吸器診療の患者選択、医療機器の準備等を重ねました。また、看護師教育として内科医師が中心になり勉強会をおこない疾患について学び、内視鏡検査担当看護師が研修へ参加しました。結果、呼吸器患者は6か月/609名でした。

③前年度より患者情報は、スタッフ全員電子カルテ入力ができるまでになり、記録の妥当性、一貫性、信頼性の記録評価、監査は行えませんでした。

取り組み

医院・クリニック・施設の挨拶訪問は、ご紹介患者が減少する前月に意識的におこない、当院からご紹介元に戻られて通院できているのか、生活に支障はないか、当院への問題はないか等、医師から伺いました。また、県北の台風災害の状況、困りごとがないか直接訪問し伺ってきました。忙しい環境の中で対応してくださった先生方には感謝しております。

訪問診療パンフレットは、今回見やすくわかりやすく、文字は少なめに作成し直しました。在宅看護にてお困りの家族に利用していただくために、外来待ち時間の合間に声をかけ説明した結果、新規の利用者獲得が図れるようになりました。

新しく専門外来診療として、4月から整形外科外来が月曜～金曜まで診療しております。まだ外来患者数の安定は図れません。また、呼吸器内科外来が新たに開設され地域の方への需要

を増やしてまいります。

外来科の内視鏡検査においては、７月から経鼻内視鏡検査が導入され、業者協力のもと経鼻用前処置方法、介助の方法、洗浄の方法等の勉強会をしました。医師は、職員が練習患者となり実践をおこないました。今後、患者が増える検査であると考えます。

外来科看護記録は、電子カルテに記入した内容が経時記録か、SOAPか、記録の評価が出来てないことについて次年度の繰り越し課題となりました。

今年度は、講話の回数が多く、外来スタッフで計５回おこないました。地域の方へ当院の専門外来を知って頂くよい機会を得て、スタッフ自身の知識向上にもつなげられたと感じます。

次年度の課題

- 整形外来科、泌尿器科（訪問診療開始）、呼吸器内科の患者数を増やす
- 外来科オンライン診療をおこなう
- 訪問診療件数を増やす
- 呼吸器センターはがん化学療法室準備
- 外来看護記録の評価・監査をおこなう

以上を次年度の繰り越し課題となります。今年度は、下期後半に新型コロナウィルス感染症の対応に時間が取られ、今後も、緊急事態宣言解除を目標に院内・地域内の発症がないように病院全職員と協力し抑制できればと考えます。地域の皆様に信頼される医療や看護サービスを提供できる病院として職員一同努めてまいります。

回復期リハビリテーション病棟科

科長　井上　美紀

回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）は、脳血管疾患や運動器疾患の急性期を脱した患者様が、住み慣れた地域に安心して戻れるよう集中的にリハビリを行う病棟です。当病棟の疾患別割合は脳血管疾患後が80％と高くなっています。また、「回復期リハビリテーション病棟入院料１」を算定し、病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能Ver.3.0）も取得しており常に質の高い病棟であるよう努力しております。

令和元年度は以下の目標を設定し活動しました。

(1) 良質で効果的なリハビリ看護・介護ケアの提供～次年度診療報酬改定を見据えた回復期リハビリ病棟入院料１の維持～

(2) リハビリ科等との協働による一人一人のADLの拡大～「できるADL」と「しているADL」の格差の縮小～

(3) 学び進化する組織風土の定着

令和元年度「回復期リハビリテーション入院料１」の算定要件の年間平均実績は、重症患者30％以上のところ34.8％、重症患者回復比率30％以上のところ実績値64.5％、在宅復帰率70％以上のところ91.1％と余裕をもって達成することができました。今年度も医師を含めた各職種が「強み」と発揮し連携した結果だと自負しております。

患者様がリハビリで行っている「できるADL」を生活場面で安全に「しているADL」にするためには病棟生活での繰り返しの練習が重要です。今年度は、リハビリ科とともにSSP（Swiss　Self-determined　Program）を構築し、患者様の「できるようになりたい」思いを最優先に考え、病棟スタッフと繰り返し練習する取り組みを開始しました。患者様と若いスタッフがリハビリとは別に一緒に笑顔で活動するほほえましい姿が見られております。身体の改善だけでなく病により一度は傷ついた心の改善にも役に立てていると感じております。

学び進化する病棟作りといたしまして今年度も教育に力を入れ活動しました。経験年数３年以下の看護師が約半数を占める当病棟では看護の質を保つための教育は急務です。今年度はホワイトボードを活用し誰がいつどこで何の業務をしているかを「見える化」しました。助言や指導しやすい環境作りにより新人を一人にしないよう努めました。また、介護職は介護福祉士が５名在籍し、

入浴業務を中心に患者様の心に寄り添うべく活動しております。FIM研修や回リハ病棟看護・介護リーダー研修への参加者を輩出できましたが、新型コロナウイルスの影響で予定していた学会が中止となり発表の機会を得ないままとなっていることが残念でなりません。今年度も「いちご会（脳卒中・退院者友の会）」は開催できました。

回リハ病棟は、今後ますます実績が問われます。安定した実績と多職種連携による質の向上に努め、地域の患者様に選ばれる病棟であり続けるよう次年度も研鑽を積んでまいります。

医療療養病棟科（チロル館）

科長　加藤　紀和子

令和元年度の部門目標は

1. 安全な医療ケアを提供し、医療療養病棟としての役割を担う
   ～事故防止・感染予防に努めたケアの実践～
2. 看護・介護による質の高いケアの提供
   ～エビデンスに基づく看護・介護ケアの展開～
3. 患者・家族の意向に沿った支援・ケアの展開
   （アドバンス　ケア　プランニング見直し・推進）

でした。

入院基本料１を維持するため、医療区分Ⅱ、Ⅲの割合85％目標に対し、月平均89.5％と達成することができました。医療療養となり１年が経過し、重症度が高い患者様を多く受け入れてきました。年間を通して目標に掲げた大きな事故や感染等おこさず安全な医療ケアの提供ができました。医療依存度が高い区分は中心静脈栄養管理、気管切開・酸素療法などの呼吸管理、褥瘡ケア、昨年度は難病疾患のある方の受け入れも行っています。また、短期間の急性期治療を行った患者様の直入院での受け入れを行いました。

11月より看取りが多くなり空床が目立ちました。病棟の患者様の変化点として、食事を摂取される方が増え、その逆で食事摂取困難な患者様の転帰先で検討が必要なケースも増え、区分１、ＡＤＬの幅が広がり現在新たな課題となっております。重度の患者様が多い中、また区分１のケースに対して、在宅系への退院支援も引き続き担っております。リハビリカンファレンスの充実を図る為に、各職種での勉強会を行いリハビリへの知識を高めました。リハビリカンファレンスでは、議論したことを業務、看護計画に反映できるように少しずつ変化しております。

また今年度は、年度末に発生したコロナウイルス感染にて面会制限が余儀なくされました。重症度が高く、長期療養が続くなかで、感染対策を強化し、患者様・ご家族様への面会対応を実施しております。

継続している毎月の誕生会、年４回の職員による季節を感じていただくイベントの開催は、患者様、ご家族様に好評であり、イベントごとの患者様の反応や言動は、職員ひとりひとりに響いております。いつもは表情に乏しい患者様、看取りの患者様も、よい表情がうかがえます。参加できる患者様は限られてしまいますが、心をこめて行っている意味のある行事の取り組みです。今後も計画、実践継続していきたいと考えております。

職員教育、スキルアップに関しては、看護師、介護福祉士ともそれぞれ看護協会主催、茨城県介護福祉士会主催の研修会参加等、ひとりひとり医療に対して、また専門職としての意識を高めることができました。そして医療療養としての役割を再認識し、新たな業務や共通認識できる業務の整理に少しずつ取り組んでおります。

急性期からの治療継続、リハビリ、長期療養に関して、幅広いニーズの方が入院される中、私達職員は常に患者様の立場を考え意思決定の支援をし、来年度も医療療養としての機能と在宅復帰率向上を努力目標に役割を担っていきたいと考えます。

志村地域医療連携センター

センター長　川﨑　真弓

令和元年度の地域医療連携センターの活動目標は

① 法人内・法人外との医療介護の連携の強化

② 入退院支援体制の強化(法人内連携の強化・退院支援のスキル向上)

③ 一般病棟　在院患者数の安定

以上の3項目を目標に活動いたしました。

病院での退院支援においては、介護との連携は重要です。法人内の介護施設はもとより、法人外の介護施設との連携がなければ退院支援・調整は困難をきわめます。近年、退院困難事例が増えてきています。家族間の問題、金銭面での問題、病状の問題、介護力の問題など様々な問題があり、自宅退院が困難な場合は、介護サービスの利用や、施設入所・入居などを提案させていただき、支援しております。ご家族に情報を提供するためには、様々な施設の情報が必要です。施設を訪問させていただいたり、来ていただいたりと情報を共有させていただいております。各施設からの空床情報をFAXでいただく事が多くなり、タイムリーに相談することができ、相談員同士の繋がりも深まっているように感じます。お互いの病院、施設の強み・弱みを理解しながら患者・家族が安心して生活できるよう地域の資源を活かし支援していくこと、そして自分たちが提供できるものは何かを考え、地域での役割を明確にする事が必要だと思います。

病棟の在院患者数の安定において重要なのは、外来からの入院数の増加、紹介患者数の増加、早期受け入れ体制の強化がありますが、最も重要なのはベッドコントロールであると考えます。各病棟の状況を把握し、入退院情報を共有し、協力しながらコントロールしていくことが必要です。

今年度「呼吸器センター」を開設いたしました。呼吸器疾患の患者様の紹介受け入れを増やしていきたいと考えております。

今年度、紹介頂いた件数は外来、一般病棟、回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟を含め1217件でした。今後も病院・クリニック・介護施設等との連携を強めていきたいと考えております。

病院リハビリテーション科

科長　川﨑　仁史

1．令和元年度部門方針

① 外部要因等（制度改正等）への順応を考慮して内部環境の整備に努め質の高いリハビリテーションサービスを心掛ける

② 各職能のアイデンティティ確立を意識した業務遂行を心掛ける

③ 業務の見直し・効率化によるワークライフバランスの推進

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管疾患等リハ	15,385	15,970	16,012	14,931	15,224	14,867	12,624	12,941	13,152	13,142	11,223	11,749	167,220
廃用症候群リハ	1,891	1,779	1,254	1,860	2,409	1,967	2,048	1,582	1,905	2,448	1,613	1,554	22,310
運動器リハ	2,893	3,186	3,549	4,400	3,611	3,090	4,025	3,939	4,518	3,860	4,366	5,558	46,995
呼吸器リハ	469	1,054	661	1,064	645	480	697	1,387	1,770	1,887	2,206	1,650	13,970
がんリハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	20,638	21,989	21,476	22,255	21,889	20,404	19,394	19,849	21,345	21,337	19,408	20,511	250,495

【表1　疾患別の個別リハ提供単位数（出来高算定分）】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT	12,731	13,466	13,305	13,742	13,056	12,272	12,234	12,173	13,198	13,355	11,922	12,697	154,151
OT	6,669	7,201	6,710	6,917	6,898	6,352	5,813	6,483	6,967	6,911	6,319	6,608	79,848
ST	1,238	1,322	1,461	1,596	1,935	1,780	1,347	1,193	1,180	1,071	1,167	1,206	16,496
計	20,638	21,989	21,476	22,255	21,889	20,404	19,394	19,849	21,345	21,337	19,408	20,511	250,495

【表2　PT/OT/ST別の提供単位数（出来高算定分）】

2．事業内容

1）リハビリテーションの提供について

疾患別リハビリテーションの提供実績は、出来高算定とはならない地域包括ケア病床および緩和ケア病棟での提供を含めると年間で253,330単位であった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおける疾患別の内訳は表1の通りであった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおけるPT/OT/ST別の内訳は表2の通りであった。

理学療法においては、特にロボットスーツHALを用いた医師主導治験への協力に注力した。作業療法においては、特に自動車運転再開支援の取組に注力した。言語聴覚療法においては、特に摂食嚥下障害改善への取組に注力した。

2）業務内容について

回復期リハビリテーション病棟においては、看護師および介護士との協働に注力し、療法士による個別リハビリテーション以外の時間を活用して患者様が主体的にトレーニングを実施する体制の構築に努めた。その結果、リハビリテーション実績指数は年間平均で48となった。

一般病棟においては、医師および看護師との連携に注力し、嚥下内視鏡検査の実施体制を確立した。さらに、呼吸器センターの開設に合わせて呼吸リハビリテーションの実施体制を確立した。

病院リハビリテーション科全体としては、働き方改革への対応の一環として業務の効率化に注力し、結果として職員の超過勤務を大きく削減することができた。

3）人材育成について

①認定資格等取得者

日本理学療法士協会新人教育プログラム修了　10名
認定理学療法士取得　3名
茨城県社会リハビリテーション専門職人材育成研修（初級）修了　1名
3学会合同呼吸療法認定士取得　2名
保健医療学修士　1名
臨床実習指導者資格取得　4名

②学術活動

第40回全国デイ・ケア研究大会　2演題発表
リハビリテーション・ケア合同研究大会in金沢　2演題発表
第47回日本職業リハビリテーション学会　1演題発表
第53回日本作業療法学会　1演題発表
全国介護・終末期リハ・ケア研究会研究大会　1演題発表
第7回日本慢性期リハビリテーション学 会　1演題発表
茨城県理学療法士会常陸太田・ひたちなか医療圏新人症例発表会　7演題発表
茨城県理学療法士学会　3演題発表
茨城県作業療法学会　2演題発表

3．次年度に向けて

令和2年度は診療報酬改定の年となっている。近年、改定のたびにより高いアウトカムが求められる傾向にある。より良いアウトカムに繋げるため、今一度プロセスから見直しを図っていくことが必要となる。また、継続的に人材育成に注力し、職員全体のレベルアップを図るとともに、組織として成果を残すことができるよう、マネジメント体制も充実させていく必要がある。さらに、内部だけに目を向けるのではなく、前方および後方の両面において連携体制を強化し、より多くの患者様に我々のサービスを提供できるよう努めていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症により厳しい状況が続くと考えられるため、サービス提供体制の担保や職員教育の方法に関する検討も行っていく必要がある。

画像検査センター

浅見　公一

＜令和元年度部門方針＞

① 健康診断増加に伴うMDL検査の対応強化
② 夜間休日オンコール体制管理
③ 効率的な人員配置による残務削減の維持

令和元年度は上記３つの取り組みを部門方針とした。まず、健康診断に伴うMDL検査（胃バリウム検査）は平成29年度の協会けんぽ登録依頼、検査件数が増加傾向にある。登録以前は年間50件程度であったが、平成29年度は233件、平成30年度370件、令和元年度は519件の実績となっている。検査増加に伴い、MDL未収得技師の教育をOJT、Off-JTと行い、現在は常時対応可能としている。

健康診断の検査は、MDLの技術面はもちろん必要とされるが、接遇面についても配慮が必要となる。健康診断は（人間ドックも含め）保険診療ではない。個人や企業負担で行う検査であり、疾患を有しない場合が多い。患者様ではなく受診者様であり、症状がなく心理的不安を持たない。受診者様のなかには企業に指示され渋々受診している場合もあり、待ち時間や検査自体にストレスを感じやすい心理的背景が潜む。対応者は疾患を抱える患者様に対する温かみある接遇というよりは、よりホテリエの様なホスピタリティを意識した接遇が必要となる。

検査時間は10分程度だが、検査中は双方向のコミュニケーションはとれないため、受診者様との双方向のコミュニケーションは検査説明時の１～２分程度であり、そこでの対応が受診者様の受ける印象となる。MDLの検査は受診者に身体的負荷が大きい検査であるが、ここでは快適に検査ができた、気持ちよく受診できた、との印象を持っていただければ継続的な受診につながる。

「メラビアンの法則」では初対面の６～７秒で相手を判断するとあり、その内訳は「視覚（表情・動作・態度）55％」「聴覚（語調・声の大きさ）38％」「内容（話・言葉の内容）７％」。第一印象の93％は表情とみだしなみと声のトーンで決まる。

現在はCOVID-19対策としてマスク着用が必須となり、表情が伝わりにくい状況下であるが、だからこそ、笑顔、挨拶、アイコンタクト、身だしなみにより力を入れての対応が必要と考える。

より快適な健康診断受診のため今後も技術面、接遇面ともに研鑽する。また、それが持続的な受診につながるということを理解し、関係部署と綿密に連携し取り組んでいく。

令和元年度の夜間・休日オンコール実績は14件。100％対応したが、コールから病院到着までの平均時間は48.5分であり、平成30年度の35.2分から13.3分増加してしまった。「オンコール対応規定」では、対応者は自宅より遠距離の外出をせず、迅速に対応できるよう態勢を整えておくとしている。それは遵守されているため、これはオンコール対応者の通勤距離に大きく幅があることに依存する。さらなるきめ細やかな対応を検討したい。

効率的な人員配置による残務削減の維持では、平成28年度の残業時間をベースとしている。平成27年度の残業時間は465.5時間であった。平成28年度に残業時間削減に取り組み、192時間と59％の削減に成功し、その削減した体制を維持することを方針としている。令和元年度の残業時間は185.25時間であり、体制は維持できているといえる。現在法人では各部署10％の残業削減を目標としている。今後も働き方改革を念頭にさらなる削減に取り組んでいきたい。

最後に時事として令和元年度はMRI装置の更新を行った。この更新により、検査の迅速化、効率化はもちろん、脳萎縮の定量評価VSRADによる認知症診断、急性期脳梗塞の迅速診断など検査クオリティが大幅に上昇した。また、二次医療圏における高額医療機器の共同利用の動向にも充分に対応できるスペックとなり、MRI装置を持たない周辺医療施設へのPRも継続的に取り組んでいきたい。

志村大宮病院認知症疾患医療センター

大和　雄太

当部門は志村大宮病院における認知症支援の専門部門として、日々、認知症相談への対応や、認知症の鑑別診断や治療、地域住民への認知症に関する啓発活動を行っております。

令和元年度は、部門目標として『認知症診療・支援の質の向上』、『医療圏内の認知症支援に関する資源の把握・連携』、『地域への広報活動の充実』の3つを挙げ、活動してまいりました。

『認知症診療・支援の質の向上』については、当センター職員の若年性認知症コーディネーター研修の受講や、認知症サポーターキャラバンにおけるキャラバンメイトの取得を通して、若年性認知症への支援や、地域への啓発活動の内容の充実を目指しました。キャラバンメイトについては、今年度は資格取得職員を中心に、当部門で行っている認知症予防カフェ参加者や病院職員を対象とした認知症サポータ養成講座を計画、開催致しました。その他の取り組みとして、支援の充実や、診療時の受診患者やその付き添い者の負担軽減を目指し、当院受診に関しての近隣の施設職員との意見交換を行いました。この取り組みでは、施設職員の方が利用者を受診させる際に日々感じていることや要望を知ることができたため、それらを今後の取り組みを検討する上での参考にしたいと考えております。

『医療圏内の認知症支援に関する資源の把握・連携』については、これまでは当センター自身が地域に対して様々な取り組みを発信することが主な役割として考えておりましたが、一方で認知症の診断がおりた方を適切な地域資源へつなぐ役割センターとしての大切な役割であることが分かってきました。そのような役割に応えるための取り組みとして、今年度は担当医療圏における認知症カフェの把握を行い、認知症と診断された方に適切に情報提供できるよう情報収集を行いました。また昨年に引き続き、那珂市で新たに立ち上がった認知症カフェの支援や、認知症カフェへの講師派遣といった形で、地域の認知症カフェとの間に協力体制を構築しました。

『地域への広報活動』については、今年度、当院のホームページに当部門のページを開設しました。こちらでは当部門の概要説明の他、各種催し、当部門で年２回程度発行している認知症疾患医療センター新聞のダウンロードが行えるようになっております。その他として、近隣市町村の広報誌に広告を掲載し、常陸大宮市内に限らず、近隣市町村の方にも当センターを知っていただくよう取り組みを行いました。

令和２年度は部門目標として『認知症疾患医療センター業務の拡充』、『医療圏内の認知症に関する資源の活性化（連携強化）』『地域への広報活動の充実』の３つを挙げております。今年度は、認知症疾患医療センターの取り組みとして新たに、診断から介護保険を利用するまでの認知症当事者やご家族を支援する日常生活支援業務が加わりました。また、当事者の声を反映した認知症支援や、認知症予防の充実が求められている現状を受け、今年度当センターは、当事者同士の集いの場の提供や、認知症進行予防をテーマとした新しい取り組みの開始を目指して活動していきます。

機能訓練センター フリューゲル

管理者　寺門　貴

１．令和元年度部門方針

①時代の変遷に応じて最適解を追求し持続可能

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数	12	12	12	15	15	15	16	18	19	21	21	21	197	16.4
延べ人数	144	148	139	170	161	156	165	197	219	235	224	226	2,184	182.0
1日平均利用者数	6.86	6.48	6.95	7.39	7.31	7.4	7.2	8.6	9.59	10	10.2	9.4		8.1
新規	0	0	0	3	0	0	3	0	1	2	0	0	9.0	0.8
終了	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	2	8.0	0.7

令和元年度　利用者数

な事業所運営体制を構築する
②顧客の生活課題に対して当事者意識を持ち安心して暮らせる支援を心がける
③業務課題から自己のスキルアップにつなげる

2. 事業内容

令和元年度の収益について、年間収入は２千万円台と前年に比べ大幅に伸びてきた。利用者増に伴い人件費、経費も向上したことから黒字化は叶わなかった。しかし、年間を通して広報・営業を強化したことにより、11月以降は安定的に利用者が増えていったことにより、単月単位で黒字化になることもあった。

年間の新規契約目標11件に対して12件となり、達成率109.1％であった。上期（４月～９月）５名、下期（10月～３月）７名という数字からも、後半にかけて広報・営業活動の効果が表れてきたと考えられる。また、１日あたりの平均利用者数10名以上という目標を明確に掲げたことにより、翌月あるいは翌々月に何名の契約が必要か計画的な契約を意識することで、より広報・営業活動の強化につながったと考えられる。年間延べ利用者数は2,183名、月平均181.9名であった。

一般就労につながったケースはなかったが、就労継続支援B型につながるケースが出てきた。利用者層は脳血管疾患の利用者が多いのは前年度から変わりないが、脊髄損傷者の相談が増えてきた印象がある。脊髄損傷者のニーズは機能改善や自動車運転再開が強く、より対象者に見合ったサービス（支援方法）が提供できるような体制をつくる必要がある。また、脳血管疾患や難病、脊髄損傷など多様な障害を有する方々が利用することでリスクマネジメントをより強化する必要性がでてきた。職員間においても情報共有を朝、夕に行い、最適なサービスを安全に提供できるように心がけた。利用者が安全に訓練に集中できる環境も重要であり、今年度のインシデント・アクシデント件数は、レベル１：１件、レベル２：６件であった。昨年度はレベル3aが１件発生したが、今年度レベル３以上のアクシデントは０件であった。

業務プロセスの観点から、総合的なリハビリテーションが提供できる事業所であることから、単に機能訓練を行うだけでなく健康管理（健康教育）や金銭管理など、利用者が自立（律）した生活が送れるように、多様な支援方法を模索しながら行った一年であった。高次脳機能障害や精神障害者に対しては、とくに生活訓練の要素が大きく、生活に必要な技能を再獲得する必要があり、よりきめ細かな支援が必要になってくる。この反省点を次年度にも活かしながら、あらゆる障害に対応できるように事業所のスキルを向上させていきたい。また、当事者への支援にとどまらず、家族支援の視点の難しさも痛感した一年であった。利用者の社会背景等を考慮しながら支援するにあたり、利用者同様に家族に対する支援の重要性や難しさを感じることができた。利用者の社会参加に向けて、利用者を取り巻く環境にも注視しながら、最適解を見つけ出し、誰もが安心して暮らせる共生社会の構築が急務になる。そのために、医療や福祉に限らずあらゆる機関が共通理念を持ちながら協働体制を構築することが必要になる。

このような社会課題を解決していくためにも人材育成は重要になり、事業所内での勉強会も8回開催することができた。サービスの標準化を図るための品質マネジメントやPマーク、そして専門的な技能向上のために高次脳機能障害者への支援方法や意思疎通など行った。

障害者総合支援法に位置づけられている自立訓練（機能訓練）は、まだまだ認知度は低く、有効なサービスであるということを県民および関係者に知っていただくことが、何よりも重要な課題であると感じる。制度設計上、社会リハビリテーションに焦点を当てているので総合的なリハビリテーションを行うことができることを強みとして、継続的に広報・営業活動を行っていきたい。

老健入所科

科長　鈴木　三智子

令和元年度の老健入所科の目標は

①超強化型老健の維持を図り、地域に根差した施設として活動する。

②重症者でも在宅復帰ができる在宅支援を行なっていく。

③質の高い看護・介護の知識、技術を提供する。

を全体目標としてあげました。

前年度から継続して在宅復帰強化型施設として算定しておりましたので、平成30年度の介護保険改定から１年が経過しましたが、超強化型老健としての算定は維持しております。算定要件の10項目のひとつである前６ヶ月在宅復帰率は平均54.8％と高い値を示しています。重症者に関しまして、入所としての受け入れは積極的に行なっていますが、ショート・ステイでも重症者が増加の傾向にあります。医師や看護職・介護職など医療チームケアが提供できますので、経管栄養・在宅酸素、褥瘡処置等重症者に対応が可能です。在宅で重症者を看ている家族の方のレスパイトケアとして老健はなくてはならない支援施設だと改めて感じております。ショート・ステイ利用者は理学療法士による身体リハ、作業療法士による認知リハ、言語聴覚士による言語・摂食嚥下リハなど毎日でも実施可能です。

令和元年は大雨の影響で自宅が浸水してしまった方が、自宅の改修終了まで緊急ショートステイで受け入れをしました。また、令和２年３月～４月にかけては、新型コロナウィルスの感染予防のため感染拡大地域から帰省する家族様との接触を避けるため、緊急ショートステイの受け入れもしています。職員教育・施設の面会制限など感染予防に関しては徹底して行なってきました。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、スカイプを利用した面会も行なっていますので是非ご活用いただきたいと思います。

令和元年介護現場には、７月からベトナムより介護技能実習生が２人配属になりました。日本で技術等を学び母国の経済発展に貢献する事が彼らの目的です。日本語検定試験はN3を取得していますので、少しずつではありますが利用者とのコミュニケーションも図ることができています。私自身も８月初めにベトナムに視察・見学・実習のために訪問し、ベトナムの文化に触れ、実際の介護現場を体験してきました。昨年度は当施設の中堅職員である介護福祉士２名がベトナムでの介護を実習し体験をして来ましたので、教育・生活ともに指導に生かす事ができていると考えています。また、入所科介護のリーダーが人道支援のためにモンゴルを訪問してきています。外国人技能実習生受け入れ体制としましては、介護の実習指導責任者１名・生活指導者２名・教育指導者５名の研修も修了しております。「介護技能実習評価試験の評価者養成講座」にも３名参加しており、実習生を評価する立場の役割も担うことができます。令和２年度も現時点ではベトナムから２名、モンゴルから２名の技能実習生の受け入れを予定しておりますので、更に安心して学べる体制を整えていきたいと考えております。

おおみやホームヘルパーステーション

皆川　あゆみ

おおみやヘルパーステーションでは、高齢者や障害者が、住み慣れた地域で、末永く在宅で自分らしい生活を送ることができるよう訪問介護サービスを適切に提供することにより、ご利用者様がその有する能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営むことが出来るように努めて参りました。

昨年度は「在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービスの提供」「関係機関との連携強化によるニーズの把握」「職員の資質向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供」を目標として取り組んでまいりました。

在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービ

スの提供については、在宅サポートサービス（介護保険外の自費サービス）を行いご利用者様やご家族に喜んでいただけることができました。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスも開始しました。ご利用者も徐々に増えてまいりましたが、まだサービスに対する認知不足があると共に、複数回の訪問介護を必要とするような重要介護者が居宅生活を続けているケースは少なく、地域の特徴として施設に比較的入所しやすいという背景があると思います。しかし、国の在宅重視、推進の方向性に変更はないことから、様々なニーズに応えられる体制の強化PR活動は継続していきたいと考えています。

関係機関との連携強化によるニーズの把握については、近隣居宅介護支援事業所を中心とし、関係機関との連携を密にご利用者様の、日々の状態や変化等を細かく連絡しあいながら、関係を深めることができました。ご利用者様・ご家族様が、在宅にて安心・安全に生活が出来るように、日常的な支援で得たご利用者様の些細な声にも耳を傾け、ニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスが提供出来るよう、職員一人一人努めてまいりました。ご利用者様の日々の様子や状態の変化等には、十分に気を配り、些細な変化も見逃さず、１日でも長く、心安らぐ在宅生活が継続できるようサービスの提供を行うことができました。また、社会福祉法人ごぜんやまヘルパーステーションとの一元管理により、担当地域を明確にし、地域のニーズにの把握にも努めることにより、業務の効率化にもつながり新規利用者の獲得にも繋げることができました。

職員の資質向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供ついては、ご利用者のニーズも多様化しており、それに応えられる職員の育成が急務であると認識し、事業所内での定期的な勉強会、法人内の研修会への積極的な参加等職員教育に力を入れてきました。しかし、その一方で訪問介護（ヘルパー）を志望する人は少なく、マンパワー不足から求められるタイムリーなサービス提供に応じきれない場合もあり、職員の確保が現時点の最重要課題といえます。

今年度においては「在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービスの提供」「柔軟な対応と質の高いケアの提供」「ニーズに対応する個別ケアの充実」を目標としています。タブレット導入による在宅サービス間の連携がさらに強化されることや医療と介護の情報連携の強化が期待されることと思います。ご利用や様の声をサービスに活かし、自立した生活が送れるよう支援していきます。ご利用者様の笑顔がスタッフ一同の喜びとなるようなサービスを行っていきたいと思います。

おおみや訪問看護ステーション

杉田　園美

訪問看護は、何らかの疾病をかかえながらも、住み慣れた地域・自宅で自分らしく暮らしていきたい…という、ご利用者様・ご家族様の想いに少しでも寄り添えるようなサービスを提供しています。

ご利用者様は医療依存度の高い方が増加しています。自宅で生活されているご利用者様・ご家族様に安心して在宅での療養生活を続けて頂ける様、365日•24時間連絡のとれる体制•他職種との協働•連携をとりながらフットワークの良いステーションをモットーに業務に取り組みました。地域包括ケアセンターによるワンストップサービスの強みをいかす事で新規獲得にも繋がっています。

令和元度の科内目標として、

① ご利用者様、ご家族様が自宅で安心して療養生活が出来るよう質の高いサービスの提供。
② 訪問件数増での収益の確保。
③ 依頼のある医療機関・居宅支援事業所との顔の見える関係。

訪問実績は4,779件で、年間目標の4,400件を達成する事が出来ました。

指示書を頂いている医療機関は30か所以上あり、母体病院はもとより、さまざまな病院、クリニッ

クより紹介を受ける事が出来ました。依頼を断らないという事も訪問件数増に繋がったと考えます。

ご自宅での看取りを希望されるご利用者様、ご家族様への支援の結果、在宅で多数の方の看取りをさせて頂きました。ご家族様の満足度の高いケアを提供出来ていると考えます。又、紹介して頂いた病院へご利用者様の経過を報告し、連携室の方との関係作りとなっています。

当ステーションは、精神疾患を有する利用者が現在10名以上おり、年々増加傾向にあります。精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修へ参加し精神科訪問看護の質の高いケアの提供を目指します。

高齢化が進んでいる、北富田地区へコミュニティーナースとして説明会を行いました。又、病院祭に参加し地域の方へアロママッサージを提供し訪問看護を知って頂く機会をもちました。

来年度も、積極的に看護学生や看護協会主催の潜在看護師の研修受け入れを行い、訪問看護の魅力を知って頂き、訪問看護スタッフの増加に繋げたいと考えます。今後更に訪問看護に対する期待は大きい為、スタッフの更なるスキルアップを目指し、質の高いケアの提供が出来るよう努力致します。

フロイデひたちなか訪問看護ステーション

管理者　鈴木　俊三

フロイデひたちなか訪問看護ステーションは，開設３年目となりました。令和元年度は、延べ訪問件数の目標2,780件に対して、実績3,012件、達成率108.3%、月平均251件となり、この１年間で着実に実績を伸ばすことができました。

疾患別では，脳血管疾患，心疾患，呼吸器疾患，神経難病，がん末期、認知症などで、点滴、胃瘻、膀胱瘻、膀胱留置カテーテルの管理、在宅酸素療法、褥瘡処置、血糖管理、その他療養生活全般の支援等についてサービスを提供させていただきました。高度な処置を要する特別管理加算の利用率は40%で推移し、看護体制強化加算の要件の１つ（30%以上）を満たすこととなりました。しかし、もう１つの要件であるターミナル加算については、実績なしとなりました。これは、ターミナル期に該当したものの、最終的に入院を選択されたり、訪問の日数やタイミングが要件を満たさないことが原因でした。

訪問看護指示書依頼先 (主治医)は25医療機関に及び、市内外の総合病院、専門病院から開業医、在宅診療医まで多岐にわたります。特定の医療機関に偏ることなく、幅広い医療機関との連携があることが特徴となっています。

保険別では，医療保険が８～17%にとどまり、介護保険が８割以上となりました。中でも、要支援や要介護１～２の軽度者の割合が５～６割を占めており、これは、リハビリテーションとの併用や、高齢化率の高いひたちなか市東部から、認知症を中心とした困難ケースの依頼を受けることが多かったためと思われます。これからも、地域特性に合わせ、事業所の強みを活かした営業活動を行い、依頼を断らない受け入れ姿勢を維持するともに、退院直後やターミナル期など、医療機関との連携がより一層求められる利用者の受け入れも拡充できるよう、職員のスキルアップと営業活動を推進していきたいと思います。

人員体制は、常勤看護師４人の確保により、交代での夜間待機 (オンコール)が可能となり、月平均６件の緊急時訪問対応を行いました。緊急時及び24時間訪問看護加算の利用率は75%で推移し、看護体制強化加算の要件の１つ（50%以上）を満たすこととなりました。症状の急性増悪や外傷に対する応急処置、主治医連携、入退院支援のほか、独居や高齢者の２人暮らし等、精神面や介護力環境に課題がある利用者からの相談も増加しており、24時間365日切れ間ない体制の重要性は増しています。

超高齢化社会を迎え、多種多様な地域の課題やニーズが生まれる中、今後の地域包括ケアを推進していく上で訪問看護の役割は非常に重要である

といえます。住み慣れた地域で安心して最期まで暮らしていただくための一助となれるよう、今後も努力してまいります。

ケアプランセンター

志村フロイデ地域包括ケアセンター長
木戸田　真

令和元年11月に水戸市堀町に医療・介護・リハビリ・予防・生活の地域共生多機能拠点である「フロイデ水戸メディカルプラザ」がオープンしました。それに伴い、フロイデ水戸けやき台総合ケアプランセンターの事務所をフロイデ水戸メディカルプラザに移転し、訪問診療や訪問看護、訪問介護、訪問リハビリと一体となって在宅サービスを提供することができるようになりました。

ケアプランセンターは①ご利用者の状態に応じたサービスの提供②ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践③障害者福祉サービスの拡大の３つを部門方針として取り組んでまいりました。

① ご利用者の状態に応じたサービスの提供
法人内サービスの連携を強化し、病院、在宅、施設、サ高住等、状態に合わせた柔軟なサービスが提供できる体制づくり

② ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践
タブレット導入による在宅サービス間の連携強化
医療⇔介護の情報連携体制の整備

③ 障害者福祉サービスの拡大

ケアプラン作成件数は、おおみや総合ケアプランセンターが月平均目標345件のところ、実績は323件、やまがた総合ケアプランセンターは目標119件のところ、実績は118件、みと総合ケアプランセンターは目標130件のところ実績は140件、ひたちなか総合ケアプランセンターは目標154件のところ、実績は152件、ごぜんやま総合ケアプランセンターは目標254件のところ、実績は252件でした。全事業所合計で98.3%の目標達成率でした。

■特定事業所加算の算定・集中減算回避

おおみや総合ケアプランセンター	加算Ⅰの算定継続、集中減算回避
やまがた総合ケアプランセンター	加算Ⅲの算定継続、集中減算回避
みとけやき台総合ケアプランセンター	加算Ⅲ⇒Ⅱの算定変更、集中減算回避
ひたちなか総合ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避
ごぜんやま総合ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避

先日、社会保障審議会 介護給付費分科会が開催され、令和３年度の介護報酬改定に向けて、スケジュールと主な論点案が提示されました。平成30年度の介護報酬改定時の審議で今後の課題となった項目や、昨年12月末に介護保険部会でまとめられた「介護保険制度の見直しに関する意見」、「認知症施策推進大綱」等を踏まえて、以下のテーマについて議論するという案が示されました。

●地域包括ケアシステムの推進
●自立支援・重度化防止の推進
●介護人材の確保・介護現場の革新
●制度の安定性・持続可能性の確保

今後介護報酬改定の最新情報を収集しながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて医療･介護･福祉の要として期待されている職能をしっかり果たしていきたいと思います。

常陸大宮市南部地域包括支援センター

係長　根本　良子

少子高齢化が進展し、認知症・独居高齢者が増加する中、住み慣れた地域で尊厳を保持し自分らしく安心した生活が継続できるよう、地域包括ケア推進の中核的な機関として地域包括支援センターが設置され13年が経過いたしました。

令和元年の地域包括支援センターは、

1） 生活整備体制事業の充実
2） 認知症の予防、普及啓発
3） 総合相談の充実

を部門方針として活動して参りました。

生活整備体制事業は平成30年度からの実施をめざし、29年度10月より活動を開始しています。昨年第一層協議体がようやく立ち上がり、生活支援コーディネーターも配置され紆余曲折を経ながらも、今は地域ごとに協議体での話し合いを進め、地域を支える体制作りを協議しています。ゆっくりではありますが、各地域にサロンが誕生し活動が始まっています。

各地域のコミュニティが活性し、住民主体で地域での支え合い活動が積極的に出来るよう、これからも関わっていく所存です。

認知症の予防、普及啓発活動は、認知症地域推進員を軸に、「認知症家族の集いカフェ」の開催6回、「認知症予防カフェ」への協力、「認知症サポーター養成講座」への協力、認知症の相談や見守り訪問、必要なサービスや専門医療機関への紹介など多岐にわたっています。認知症初期集中支援チームも発足して2年目を迎え、包括スタッフがチーム員として加わり、積極的にアウトリーチし対応策を考えるチーム員会議等に参加しています。高齢化率は年々上昇し、フレイルや認知症の方たちが増えてきています。これから支え手が減少していく中、介護予防が重要となってきます。介護にならないよう、なっても重度化しない様、今後も継続して認知症予防・介護予防の普及啓発活動に力を入れて行きます。

総合相談の充実として、当センターは断らない相談支援をめざして、相談活動を日々実践しています。昨年の相談は749件と年々増加しています。一つの世帯で複合的な課題を抱えている事案も少なく無いため、地域包括支援センターだけで解決することは難しく、障がい者相談センターや、子育て支援センター、生活困窮相談センターなどと連携を図っていくことが必要とされています。そのためにまずお互いの業務の理解を深め、日ごろから情報交換ができる関係性を作り、さらには支援に関わる他職種だけでなく、地域住民や町内会・自治会、民生委員・児童委員等の地域の多様な関係者との連携も必然と考えています。今後増々複雑化・多様化した課題を含んだ相談が増えると予測されます。そのような相談を制度の狭間に落とさず、サポートできるようスタッフ全員が、主体性と責任制を持ち業務に励んでいきたいと思います。

ひたちなか市北部地域包括支援センター

秋山　伸江

令和元年度はこれまでの活動を振り返りながら、「今できる事」に着目し、業務を行ってまいりました。

開設から丸4年が経過した事から、より効率的な周知活動や地域課題発掘の為、過去の総合相談データを集計し分析、地域アセスメントを実施しました。集計したデータは今後も取り続けながら、地域作りや周知活動に役立てたいと考えています。

地域住民の自助力、互助力を高める事、地域との連携強化する事を目的に、健康○×クイズや、モニタリング時に健康・時事情報の発信を行い、自助力、地域力の向上を目指しました。北部で始めた健康○×クイズは他の包括やひたちなか市からも評価され、令和2年度からは、認知症地域支援推進員のミニ講座と協働した「つながる1歩目講座」として、ひたちなか市の取り組みに発展しました。

市内外の介護支援専門員と「心理的距離」を近づけ、業務における相互協力体制をより円滑にする事を目標に、平成30年度から接遇の向上や、独自の広報紙発行をしています。令和元年度も取り組みを継続した事により、取り組み前と比べ「心理的距離」が近づいた介護支援専門員が増えてきていると実感しています。

平成29年度に立ち上がったひたちなか市在宅医療・介護連携事業では入退院情報共有ルールやさ

さえあいシートの作成、電子連絡帳の導入、医療・介護・市民向けの研修会開催などの事業を展開してきました。令和元年度はACPの推進を軸に周知活動を行いました。

ひたちなか市は、認知症施策にも力を入れており、認知症地域支援推進員が県内でも先進的な取り組みを行っています。認知症カフェ、認知症家族の集い、認知症サポーター養成講座およびサポーターと連携した思い出話ボランティア事業を始めとし、令和元年度は「注文を間違える料理店」の取組みを参照した活動を、市内の事業所らと協力し「注文を間違えるお店」「ごじゃっぺカフェ」として開催しました。市内のイベントで運営し、当事者と一緒に接客等を行う事で、周りも楽しみながら「認知症でもポジティブ」なイメージが広がっていくよう来年度も取り組んでいきます。

地域包括支援センターに課せられた業務を推進する為、総合相談のデータ分析、健康○×クイズ、モニタリングの工夫、介護支援専門員を含めた地域との関係作りなど、北部包括独自の視点とアプローチを展開しており、市内の関係各所からも一定の評価を頂いております。今後も知恵と工夫を出し合い、チームワークと独自性を持って基本業務を遂行してまいります。

コミュニティケアサービス

宮川　直彦

Ⅰ.令和元年度　部門目標

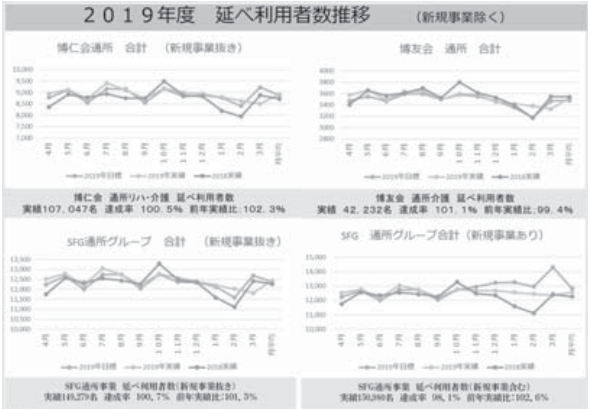
① ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進
～居場所と役割のあるコミュニティづくり～
※常陸大宮市においては旧町村ごとに

② 新規事業の早期立ち上げと新たな挑戦
～新たな事業モデルへ～

③ 業務の効率化と人材育成

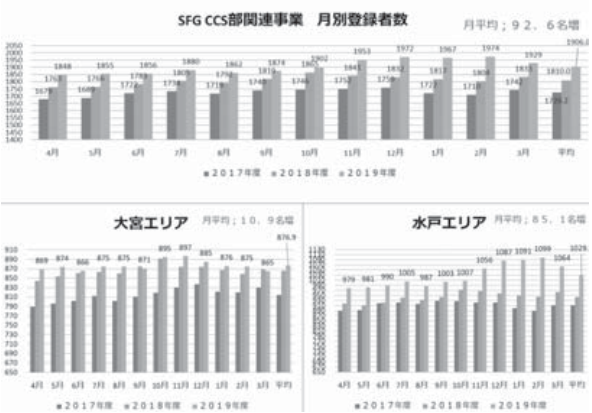
Ⅱ. 業成果

1. 通所利用実績

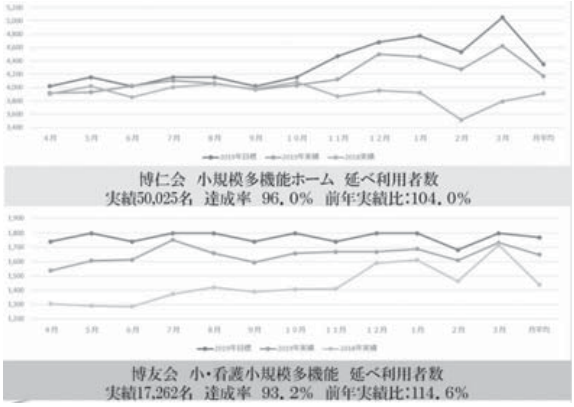


博仁会通所リハビリ及び通所介護延べ利用者数は、新規事業含めて実績107,047名、目標比率100.5%であった。前年実績比率は102.3%と前年を上回る延べ実績であった。

博友会通所介護延べ利用者数は、実績42,232名達成率101.1%であった。前年実績比率は、99.4%であった。今期は、冬の影響も少なく、年間通して利用率が維持できた。例年３月は、もう少し利用率が高いが、新型コロナウイルスの影響により３月後半から利用控えが多くあった為、例年の伸び率はなかった。



前年を上回った要因としては、大宮エリアで前年を大きく上回る登録者数を行えたこと。年間通して事業の安定が図られたことである。大宮エリアで、月平均10.9名の登録者増が大きな要因であった。



小規模多機能事業では、(目標値は定員数)博仁会は、延べ50,025名、達成率（年間稼働率)96.0%。前年実績比率104%と通所事業に続き前年を上回る稼働であった。

博友会小規模多機能及び看護小規模多機能事業は、延べ17,262名、達成率93.2%。前年実績比率114.6%であった。看護小規模多機能の利用者様の入れ替わりが早いことから安定した運営が課題であったが、訪問看護の機能強化を行い、重度の方の受け入れが可能になったことから、昨年よりも安定した紹介をいただけるようになり、実績に結び付いた。

2．具体的な業務内容について

31年度は、当グループとして新たな拠点を開設した。１つ目は、５月に開設しました、医療法人では、初めての認知症対応型共同生活介護をひたちなか市に開設。２つ目は、水戸市に３つ目の拠点となる、医療・介護・リハビリ・予防・生活の地域共生多機能拠点として水戸メディカルプラザを開設。コンセプトに、健康な時から通う施設として「健院」の考えで開設を行った。１階は、在宅医療を中心とするクリニック、短時間型の通所リハビリテーション、コミュニティカフェ（就労支援A型)、在宅を支える、訪問系サービス(訪問看護・介護・リハビリ)、そして、居宅介護支援事業所。２階は、小規模多機能型居宅介護、メディカルフィットネスセンター。３階に、重度ケアが外付けサービスで付けられる、住宅型有料老人ホームと地域交流スペースとなる。地域の皆様の安心と信頼される事業運営を行って参ります。

また、次年度はひたちなかGHの共生型通所介護をグループ初めて開設予定（令和２年５月に開設)。さらに、水戸市におきまして、定期巡回型訪問介護･看護の運営を4月に開設予定。在宅系サービスの強化を行い、いつまでも安心して暮らせるまちづくりの担い手を目指します。

来期は、引き続き新型コロナウイルスに対応した、運営と生活支援の強化を実施して参ります。安全に、安心してご利用いただけるような、病院と同じ対策を各介護事業所及び住まい系サービスで実施して参ります。

水戸メディカルプラザ

コミュニティ・カフェ　ミッテンヴァルト

在宅介護支援センターおおみや

小野瀬　美幸

在宅介護支援センターでは、昨年同様常陸大宮

市からの委託事業を以下の通り実施致しました。①高齢者福祉総合相談②緊急通報システム事業では、緊急通報システムの設置立ち合い、毎月の安否確認の訪問③介護予防把握事業、高齢者見守り安否確認事業では「独居、高齢者世帯の訪問」④介護予防普及啓発事業では、運動、口腔機能、栄養改善の総合的な介護予防を目的とした「お達者教室」の開催、高齢者クラブでの「介護予防教室」の開催（常陸大宮市の介護予防事業のPR）⑤地域介護予防活動支援事業では、「地域のサロンの活動支援」⑦生活支援体制整備事業では「第２層、第１層の協議体で資源開発やネットワークの構築」

活動実績としては①相談件数57件②緊急通報システム設置世帯数65件③高齢者実態把握年間延べ件数985件④お達者教室14回実施（延べ参加者数152名)⑤高齢者クラブでの転倒予防教室６クラブ実施⑥サロンの活動支援６回⑦生活支援体制整備事業（第２層茶話会７回、第１層協議体会議１回、研究会１回）以上の業務を遂行致しました。

昨年の10月には台風の影響を受け、担当エリアの世喜地区では、水害の影響を受けられた方がたくさんいらっしゃいました。心配な方のお宅を訪問させて頂き、断水で給水所まで水を取りに行く事が困難な方には、給水所から水を届けさせて頂きました。

介護予防普及啓発事業では、在宅介護支援センターおおみや独自に担当地域の高齢者クラブに介護予防教室のご案内をさせて頂き、前年度の健康運動実践指導者による転倒予防教室に加えて、管理栄養士による講話も実施させて頂きました。また、法人の移動販売車のプラスワンも一緒に伺い、実際に見て頂き、広く知って頂く事ができました。

12月には、３年に１回の民生委員の改選があり、担当エリアの民生委員が変わった地域も多く、担当エリアの民生委員21名の方のお宅を訪問し、ご挨拶をさせて頂きました。在宅介護支援センターの紹介をさせて頂き、地域の方の情報交換をさせて頂くと共に、志村大宮病院の認知症疾患医療センターのリーフレットを配布し、紹介をさせて頂きました。約半分の民生委員さんが新しく変わり、新たに関係性を築いていきたいと思っております。

今後も地域に寄り添い、関連機関との連携を深め、地域の方から信頼されるセンターとなるよう、努めて参ります。

栄養科

係長　並木　道子

今年度、栄養科では①栄養ケアの充実②地域包括システム構築のための取り組み③在宅支援の栄養サポートを目標に取り組んでまいりました。

「栄養ケアの充実」としては、病棟、施設ごとに担当管理栄養士が、栄養サポートチームや多職種でのミーティングに参加し、食事摂取に問題のある方や低栄養リスクの高い方に対し、より良い食事提供方法を計画したり在宅退院に向けての栄養指導等を行いました。患者様、ご利用者様の状態や機能に合わせ嗜好等にも配慮した食事提供ができるようきめの細かい食のサポートを目指しました。

「地域包括システムへの取り組み」としては、大宮地区では、管理栄養士カフェを開催し、献立作成や調理実習等を行いました。また、地域の高齢者クラブでの講話も担当させていただきました。水戸やひたちなかのサテライト施設においても、それぞれの地域のご利用者様への食事提供を行っていますが、今年度は新たに、水戸堀町にフロイデ水戸メディカルプラザがオープンとなりました。そして、施設ご利用者様への食事提供のほか、カフェミッテンバルトの運営が始まりました。地域の皆さまに親しみをもって来ていただける空間づくりを目指していきたいと思います。

「在宅支援の栄養サポート」としては、配食サービスとして、今年度は65,031食、１日平均約180食を提供しました。１年365日１日３食の提供で、地域の皆さまが安心してご自宅で生活できるよう今後も継続していきたいと思います。来年度から

は、より地域に密着し栄養ケアに携わることができる「おおみや認定栄養ケア・ステーション」を開設致します。地域の皆様が、日常の食事で困っていることなどを気軽に相談できる窓口となり、個別の栄養食事相談やご自宅へ訪問しての食事支援も行って参ります。

生きていく上で食事は欠かせないものであり、楽しみのひとつでもありますが、体調面での不安があったり、食事をつくることが難しかったり、また、自分の事だけでなく家族のことなど様々な悩みをかかえている方がいらっしゃると思います。住み慣れた地域で安心して生活していけるよう充実した食の支援、栄養サポートを心掛け、職員一同力を合わせて取り組んで参ります。

薬剤科

科長　河野　高宏

令和元年度、薬剤科は人員が総代わりして体制の刷新となった年でした。

医療安全の向上と業務の効率化を目指して与薬カートの全病棟導入、発注システムの電子化、質の高い薬剤採用などシステム面からの改善に取組みました。

以前の配薬方法は毎日薬剤科から箱にセットして病棟に払出していましたが、臨時薬の付け忘れ、中止薬剤の漏れ、誤飲する可能性があるホッチキスの使用など問題が多くあり医療安全の低さが目立つ状況でありました。これらを改善するために与薬カートを導入し、薬剤１週間分のセットを行うこととしました。カート導入に併せて一包化された包装紙に薬剤名の印字も行い誤薬防止に寄与できていると考えております。同時に全病棟へ与薬カートを導入したことでセット方法も統一でき、薬剤科も毎日のセット作業が無くなり業務の効率化が図れています。

薬剤発注においては目視で発注し欠品が多く発生している状況でした。そこで医薬品卸から無償で貸与されるiPadを用いた発注システムを導入しました。以前の包装単位は500錠や1000錠包装など大きな包装単位で購入しその包装箱を破棄していた為、使用しなくなった薬剤を返品できない、医薬品メーカー回収があった際にロット番号が不明、医薬品そのものの使用期限も不明という状況で問題もあるのと、包装が大きい故に医薬品購入金額が多くなり経営的にも好ましくない状態の為100錠の最小単位で購入することとし、空箱のバーコードをiPadで読み込む簡易発注方式に切り替えました。発注方式を変更したことにより欠品と発注ミスが減り、ロット管理が可能となりました。また電子化したことにより発注履歴の管理もiPadで素早く行うことが出来るようになり、科内職員全員で情報の共有が可能となりました。

薬剤採用についても見直しを行いました。当院はDPC病院でありながら包括となる薬剤採用のほとんどが薬価の高い先発医薬品のままで後発医薬品使用体制加算の算定がやっと区分３を取り始めた状態でした。先発医薬品の使用が多いと病院全体の利益が減少するため、早急な改善が必要でした。また、採用医薬品も同一成分の重複採用や同効薬の種類も多く効率化を図る必要があったため、質が高く、安全で、他職種にも簡単に刻印で識別できる後発医薬品採用を推進し、不要薬剤の削除処理を行いました。後発医薬品は先発医薬品に比べて改良されているものも多く、刻印に製品名が印字されていたり錠剤の大きさが小さくなっていたりと製剤設計が工夫されている製剤を積極的に採用することで、医療過誤や飲み間違いを防止する措置をとりました。病棟の総使用金額も減少傾向にあります。

今後も医療および薬物療法における安心・安全の担い手として病院の発展と医療へ貢献できるよう尽力したいと考えております。

診療サービス課

熊谷　淳夫

【令和元年度診療サービス課の目標】

①病院情報の公表　②健診センター利用者の増加　③オンライン診療の導入　④退院サマリー作成率の向上　⑤医師事務作業補助者の体制強化　⑥病院送迎バスの充実

【主な実績】

1）「病院情報」の公表

病院情報公表とは、ＤＰＣデータから全国統一の定義と形式に基づき医療機関自ら作成し、市民向けに情報公開を進め、病院の様々な機能や診療状況などを数値化し、時間的変化を評価・分析することにより、医療の質の向上に役立てることを目的としています。

使用するデータは、ＤＰＣ様式１（カルテからの情報）、様式４（医科保険診療以外のある症例調査票）、Ｄファイル（包括診療明細情報）のデータを使用し算出しています。

【公表内容】

①　年齢階級別退院患者数

②　診療科別症例数の多いものから３つ

③　初発の５大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

④　成人市中肺炎の重症度別患者数等

⑤　脳梗塞のＩＣＤ10別患者数

⑥　診療科別主要手術の術前、術後日数症例数の多いものから３つ

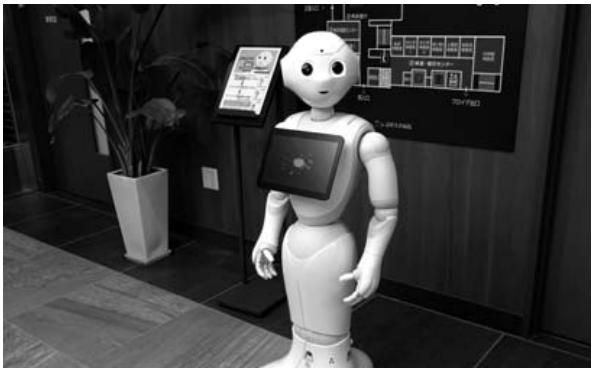
⑦その他（ＤＩＣの請求率等）

2）健診センター利用者の増加

志村検査・健診センターの利用者増のため、企業健診受診者の増加のため企業への宣伝強化、半日人間ドック、簡易人間ドック、オプション検査設定など受診者のための新たなサービスの提供、協会けんぽ生活習慣病予防健診指定の更新を行いました。

令和元年度には、健康診断の質の向上のため、一般社団法人日本総合健診医学会と公益社団法人日本人間ドック学会に入会いたしました。

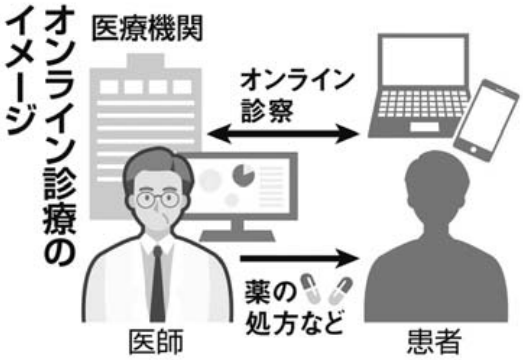
「検査・健診センター」



「世界初の感情認識ロボット ペッパー」

3）オンライン診療の導入

当院では、オンライン診療の導入を検討しています。オンライン診療とは、遠隔診療とも呼ばれ、予約から診察、会計まですべてお手持ちのスマートフォンやパソコンなどインターネット回線に接続している機器でできる診察方法です。



4）厚生労働省「令和元度度医療の質の評価・公表等推進事業」への参加

本事業は、国民の関心の高い特定の医療分野について、医療の質の評価・公表等を実施し、その結果を踏まえた分析・改善策の検討をおこなうことで、医療の質の向上及び質の

情報の公表を推進することを目的としています。当院は全日本病院協会の依頼を受け本調査に協力いたしました。

【事業内容】

① 特定の医療分野について、評価・公表等を行う具体的な臨床指標を選定する。

② 関連する複数の医療機関から臨床データを集計・分析し、具体的な臨床指標の作成を行い、ホームページ等を通じて国民に対して公表する。

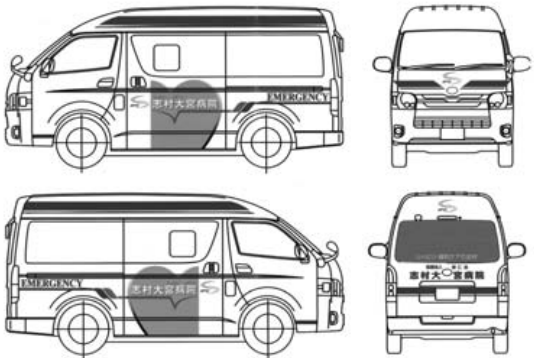
③ 臨床データ提供のあった医療機関の関係者等による委員会を開催し、国民に有用な臨床指標の公表のあり方等に関する諸問題について分析・改善策の検討を行う。

④ 本事業終了後は、上記①、②の実施状況、その実施の際に生じた問題点、③の分析・改善策の検討結果等を整理し、厚生労働省に報告する。

※本調査の結果は、全日病のホームページに掲載されています。

5）病院送迎バスの充実（ナースカーの運行管理）

当院では、病院送迎バスの充実の一環として、「ナースカー」の運行を開始いたしました。ナースカーは、入院患者さんの送迎と、外来で通院困難な患者さんの送迎を行う専用の車両です。



管理部

管理部　熊谷　淳夫

【令和元年度の管理部の目標（グループ全体の3カ年目標達成のための活動の推進）】

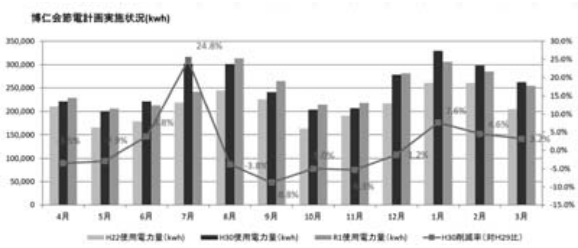
①利益率向上に向けたコスト削減の強化　②施設整備の推進　③情報発信の強化　④健康経営優良法人取得に向けた取組み　⑤1.5T超電導型MRI装置導入

【実績】

① コスト削減強化

コスト削減強化では、前年度に行った、新電力採用、電気料の削減に続いて、更なる削減のため競合他社との比較により電気料金の削減を実現しました。

結果、令和元年度は対前年比で1.3%の電気使用量の削減になりました。令和元年9月のフロイデ水戸メディカルプラザの開設による電力使用量の増加分を入れての減少になりました。



【フロイデ水戸メディカルプラザ】

【フロイデ水戸メディカルプラザ】

② 3施設整備の推進

1） みんなの休憩所開設工事（地域交流スペース）

2）テクノエイドセンター、介護ショップ改修工事

3）屋上庭園の花の植え替え

【みんなの休憩所改修後】

【改修前】

ドイツ館・スイス館・フロイデハイム屋上リハビリ庭園の春・秋2度の植え替えを行いました。一年を通じて花と緑の絶えないリハビリ庭園をご利用者の皆様に提供致します。ドイツ館の開設に合わせ、中庭のライトアップを現在も行っています。

【病院中庭庭園】ライトアップ

【スイス館屋上リハビリ庭園】

【フロイデハイム屋上リハビリ庭園】

【エーデルワイス病棟屋上庭園】

③ 情報の配信では広報誌『お元気ですか』の発行、情報システムの整備による効率化と情報の共有化を図るため、グループウェア サイ

ボウズによる情報の共有化を引き続き進めています。医療と介護の連携ルールとしてグループウェア サイボウズは、拠点数の増加、職員の増加により巨大化･広域化したＳＦＧ（志村フロイデグループ）の情報共有・意思伝達手段として非常に有効なツールとなっています。また、電子カルテについては、医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必須ツールとして医療・介護双方向からの活用を行っています。

④　健康経営有料法人に向けた取組

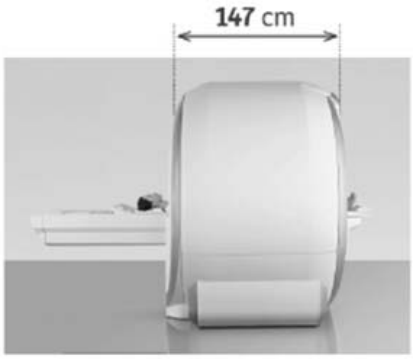
志村フロイデグループでは、健康経営に取組む企業として経済産業省「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けた取組を平成30年度より行っています。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上につながるとされています。

令和元年度は、健康経営優良法人（大規模法人部門）に認定されました。来年度にむけて「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けさらに活動を行っていきます。

2020
健康経営優良法人
Health and productivity

⑤　1.5T磁気共鳴断層撮影装置（MRI）導入



当院では、機械の老巧化に伴い、旧MRI装置を入れ替えシーメンス社製高性能MRIを導入いたしました。従来の装置と比べると検査時間の大幅な短縮や画質の向上、動作時の騒音低減により、患者様への負担の少ない撮像が可能となりました。

①　装置の小型化

装置が従来よりも小さくなったため、圧迫感が減少し、閉所が苦手な方でも安心して検査が行えます。

②　検査時の騒音低減

従来の装置では検査時の騒音が気になっていましたが、この装置では画質を保ちながら騒音が小さくなりました。

③　検査時間の短縮

従来装置ではコイルや、セッテイングなどを含めると30分超かかっていた撮像時間が、セッテイングの簡略化、装置の高速化などにより検査に占める時間が短くなりました。

経理部

課長　帯施　雅信

1．令和元年度決算概況

令和元年度決算では、医業収益が53億５千万円（前期比１億３千万円増､2.7％増）と増収になりました。水戸メディカルプラザが11月に、グループホームひたちなかが５月に開設したことが増収要因となっております。

ただ新規事業開設に伴い、人件費が36億９千万円と前年比２億６千万円増加したこと、減価償却費・地代家賃・リース料など設備関係費が６億７千万円と前年比５千万円増加したこと等により医業費用54億円と医業損益が△４千万円となりました。新規事業は開設して間もないため、稼働率が未だ低く医業収益が先行投資分以上には伸びていないのが要因と考えられます。また台風19号によりクリニックごぜんやまが被災し休業となったことも医業収益が伸び悩んだ一因と思われます。

託児所助成金や補助金など雑収入１億６千万円（前年比２千万円）と医業外収益を計上したので、支払利息など医業外費用を差し引いても経常利益は６千万円、当期純利益は４千万円と黒字を確保しました。

病院の専門外来が増えたので外来患者数は順調に伸びており、今後もさらに病院の医業収益を伸ばしていくこと、また水戸メディカルプラザなど新規事業の稼働率を上げて医業収益を伸ばしていくことで、翌期以降の業績を伸ばしていきたいと考えております。

次に貸借対照表をみますと、水戸メディカルプラザ建物など固定資産が増加したことにより、総資産額が68億円と前年比３億２千万円増加しました。負債も借入金やリース債務が増加したことにより42億円と前年比２億８千万円増加しました。自己資本比率は37.5％と財務安定性は維持できました。

2．経理部の活動内容

経理部の活動として、預金残高の推移に注力し、資金繰り安定化を図ってまいりました。特に新規事業に伴う物品支払いが多額となったこと、役員退任による役員退職金支払いなど、今期は支払が多かった期になりました。そのため現預金残高が減少しましたが、通常業務に支障ない範囲で資金繰りを回すことが出来ました。

来期には新管理会計を導入し、細かくセグメント部門に分け、部門ごとに収支を見直し利益を増加させることを予定しております。各部門で人件費を含めた経費管理をしていく体制になりますので、経理部としてサポートしていきたいと考えております。

今後、新型コロナウィルス感染症の拡大により、想定外の出費が予想されるので、預金残高をみての資金繰り状況には一層注力してまいりたいと思います。

人事課

斎藤　常司

令和元年の目標は「働き方改革」の実現に向けての施策を昨年度から継続し、更なる労働環境の向上への取り組みを行ってきました。

1．「働き方改革」への施策

①有給休暇5日取得義務

休暇付与時に年間5日間の取得義務があることを職員に周知し経過を観察しながら毎月取得状況を各部門長へ報告し、計画的な取得の環境づくりに努めました。また、医師の有給休暇カードを新たに発行し休暇管理を開始しております。

②上限規制による時間外労働協定の締結

新しい基準による協定として各部門長から１年間の時間外労働時間の見込みをヒアリングして協定しました。また、医師の時間外労働

協定を新たに締結しました。
協定後の時間外労働管理として、毎月残業の多い部門へ実績時間を報告し限度時間の超過防止を図ってきました。

2．労働環境向上への施策

①メンタルヘルス相談室開設へ
職員のメンタル不調の未然防止から支援までの対応として、相談室の創設に向け情報収集し、活動内容の検討を重ね令和2年度の運用開始を目指し活動展開してきました。
３月には名称を「ＳＦＧメンタルヘルス相談室」とし、産業医、公認心理師、人事課の連携による運用開始として職員に周知しました。

②職員からの相談対応
職員からよろず悩み相談を受け、年間19件の相談に応じ解決に向け取り組み相談者の支えとなりました。
特に休業者の復帰前に上司を交えての面談は、スムーズな職場復帰に繋がることから職場転換、勤務時間短縮等の提案により職場復帰しやすい環境を提供し復帰後もサポートしています。

③小集団交流支援活動の推進
職員間のコミュニケーション、就業意欲の高揚を目的として会食等の費用の一部を支援する本制度の利用は、件数・利用者数も増加し昨年度は22件、260人が利用しました。
職員間交流の一助として本制度が定着し利用者から好評を得ております。

3．人材の活用・研修の施策

①定年職員の再雇用
定年を迎える職員７名に定年後再雇用制度の説明を行い、全員が再雇用を希望し継続勤務しております。
雇用の安定また、経験豊富な労働力の確保に繋がりました。

②外国人技能実習生の受け入れ
令和元年７月に志村フロイデグループとして初の外国人技能実習生（介護職）２名を受け入れ、その後９月に４名を受け入れました。
生活環境の異なる当地においての支援として、住居の確保から私生活のサポートを含め、技能習得へ向けての支援活動を行ってきました。
また、休日には観光地、冬はスキーに同伴し一緒に楽しむなど交流を図りました。

③中途採用者フォローアップ研修の実施
中途採用者に対し、接遇を中心とした研修を２月に（41名）実施しました。
ご利用者様に接する際のマナー向上に繋がりました。

④人材の確保
志村フロイデグループを支える医療・介護人材の採用活動に邁進してきました。
医療法人博仁会・社会福祉法人博友会の二つの法人の採用実績は、新卒採用32名、中途採用115名を迎えました。
今後も人材確保の採用環境は厳しくなっていきますが、運営事業が円滑に進められるよう丁寧な採用を行っていきます。

法人サポート部

副部長　小野　健悦

令和元年度は、志村フロイデグループの新規事業として、医療・介護・リハビリ・予防・生活の多世代地域交流拠点「フロイデ水戸メディカルプラザ」の開設準備をすすめてまいりました。医療・介護・障害福祉・高齢者の住まい、それぞれの指定に関わる手続きを行い、地域包括ケアを担う、複合的な機能をもつ拠点として、開設まで支援をすることができました。

また全国的に介護人材が枯渇するなか、新しい人材確保の手段としてベトナム人技能実習生の受け入れを開始いたしました。法人サポート部では入国の際の各種手続きや、住まいの確保、さらに生活支援を行いました。

人材開発室としては、医療法人博仁会・社会福祉法人博友会、合わせて中途採用職員を115名採用し、32名の新卒職員の確保をいたしました。今後さらに人材採用の環境が厳しくなることが予想されますが、既存事業・新規事業が円滑に運営できるように丁寧な採用を行っていきます。

また令和２年度の新規事業として「定期巡回随時対応型訪問介護・看護（水戸市）」及び「共用型認知症対応型通所介護（ひたちなか市）」を予定しております。滞りなく開設できるように準備をすすめてまいります。

さらに学校法人志村学園においては、令和３年度中に、ベトナム人留学生を対象とした日本語学科の開校を予定しております。開設準備室を設置し、茨城県庁や各種教育機関、外国人の受入機関等と連携し準備をすすめてまいります。

法人サポート部は、各部門の支援をすることを目的としております。今後も志村フロイデグループが職員の皆様にとって、働きやすい職場となるよう全力でサポートをしていきます。

志村学園実績報告

茨城北西看護専門学校

吉原　ます子

令和元年度は、1年生が39名(休学1名含)、2年生42名(休学5名含)、3年生が34名(休学2名含)、全学年115名でスタートしました。令和元年度の部門方針を前年度と同じく①「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」②「国家試験『全員合格!』を達成する」③「学校運営の安定を図る」④「教育の質向上に向け専門職者として自己研鑽する」の4点としました。この4点について報告します。

1.「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」について

前年度の学生確保の反省から、受験生120名の目標を立て優秀学生の確保を図るため、前年度に引き続き、集団討議面接を取り入れました。そして、広報活動の充実に力を入れました。高校訪問は昨年どおり5月より開始しました。また、オープンキャンパスの内容充実と年間10回の実施を計画しました。参加者は201名、受験対象者は145名で前年度より倍増しました。受験生総数は64名であり、前年より10%増となりました。しかし、前年度同様今年度の入学生は38名であり、定員割れをしてしまいました。

2.「国家試験『全員合格！』を達成する」について

今年度も8回目の国家試験の100%の合格をめざし、学生を指導してまいりました。入学当初より、学生の自己学習能力の向上を目指し、学生自身で問題解決していけるように、PBLによるグループ学習を組み入れてきました。3年生はすべての実習が終了した12月より本格的に国家試験対策に取り組みました。

昨年6回生の合格率100%でしたので、今年度もそれに続けと寸暇を惜しみ集中しました。結果5名の不合格者を出してしまい、合格率83.9%でした。

3月8日には第8回卒業証書授与式が行なわれました。コロナ禍にて、来賓、在校生なしの卒業式でしたが、地域医療に貢献すべく30名が巣立っていきました。

3.「学校運営の安定を図る」について

学校運営の安定を図るため、まず、入学者の確保と学生を減らさないのという目標の下、学年担任制をとり早めに対応し、必要に応じ本人・保護者との面談を実施することやカウンセラーにてメンタルヘルスサポートの実施をしてまいりました。しかし、休学者2名、退学者7名になりました。

つぎに、寄付金・後援会会費の確保をすることを目標に上げました。後援会費は56万円の実績でした。看護師養成施設が増加し、医療施設側も看護師確保については以前より苦労しなくなったのが現状としてあります。こういう中、近隣の医療施設に協力を呼びかけてはいるのですが、目標値には程遠い状態です。

学校管理における経費の削減目標に対しては、講師タクシー代やコピー代の削減を目標どおり達成できました。

4.「教育の質向上に向け専門職者として自己研鑽する」について

積極的な学会・研修会への参加とともに、定期的に勉強会(授業方法、学生能力を評価する方法、看護過程の展開など)を行ってきました。また他校の良い方法はどんどん取り入れるように茨城県看護教員連絡会にも加入のもと地域の看護教員の連携も図ってきました。

開学して10年目、今年度は115名の学生の指導をしてまいりましたが、他校が不合格だったから入学してきたという学生もおり、入学生の学力のなさに驚き、教員一同どう教育したらいいのかと悩む毎日でした。教員自身徒労感だけで達成感が得られない状況にもなっています。定員割れは起こしたくない。だからといって入学させたくないとの狭間での決断を迫られながら、学校運営のためには、目をつぶり合格を出している現状もあります。このような中で教育に携わることで、私どもも成長させていただいた10年間でもありました。

入学を許可したからには卒業まで学校の責任とも考えています。今年度開始早々コロナ禍にて、授業方法・実習方法の変更にも迫られていますが、学生の学力低下を引き起こさないよう、９回生の「国家試験全員合格!」を目指し、教職員一丸となって支援してまいります。

博友会　部門別実績報告

令和元年度博友会事業実績報告

博友会　鵜藤　正孝

令和元年度の博友会の実績について以下の通りご報告申し上げます。

博友会の業績につきましては、例年通り法人の目標である「経営理念を達成するための収益の確保」をモットーに、今年度も職員一同全力を挙げて取り組んで参りました。

結果と致しまして、純資産額で2,133,873千円(平成30年度比　101,166千円、4,97％の増)、資金収支計算書における事業活動収入で、計画には－9,507千円と僅かに及びませんでしたが、1,518,797千円（平成30年度比90,689千円、6,35％の増）を確保致しました。収入面で目標未達成に終わりまし原因は、主に就労支援事業の稼働率の低迷によるものです。令和２年度は令和元年度のマイナスを挽回して、次に繋げる伸長を期して取り組んで行きたいと考えております。

加えて、地域包括ケア体制構築の進展に合わせて、我々も地盤とする旧御前山村地区の方々が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただける地域づくりに微力ながらその担い手の一員として覚悟をもって活動を続けて行きたいと考えております。

また、一人でも多くの方に福)博友会のご支援者になって頂くよう努力をしてまいります。

さて、社会福祉法人博友会令和元年度の事業運営につきましては

1：社会福祉法人として地域の社会資源としての役割を認識し、地域課題解決に向けた取り組みを推進する

2：事業継続できる法人運営の為の収益確保と事業継続計画の策定

3：ご利用者様の個別ケアの提供とQOLの質の向上、終末期ケアの対応を図る

4：一人ひとりの生産性向上を図り、働き方改革を推進する

5：スタッフの自己成長を応援する

以上５点を法人全体の共通目標として、お客様に対する接遇、及び職場環境の改善等に努力して参りました。それぞれの項目が１年単位で完結するものではなく今後とも継続的な取り組みを続けて行きたいと考えております。

1：は、社会福祉法人としての役割を今まで以上に認識して地域に役立つそして貢献できる法人を目指します。

2：は、従来から収益の確保については法人継続の条件として取り組んでおり、今後ともなお一層の注力を重ねて参ります。

3：についても、従来からの法人全体の行動目標でもあり、また、ご利用者様顧客満足度達成の為にも職員一丸となって取り組んで参ります。

4：は、一般社会における働き方改革推進と歩調を合わせて取り組み、個々の健康管理にも十分な配慮をしていきたいと考えます。

5：については、法人としての当然の義務であり、また、一人一人の職員が自らのキャリアアップを実現することが法人の成長にも繋がるものと確信をして取り組んでまいります。

以上、述べて参りましたように令和２年度博友会の運営につきましては、収入については僅かながら計画を下回る結果となりましたが、今後につきましては母体であります医療法人博人会を中心としたSFGの一員として、ご利用者様が『住み慣れた地域での在宅生活』を安心・安全の上に送って頂けるよう、また、地域と共に発展していけるよう職員一同努力を重ねて参ります。

事務サービスグループ

部長　江幡　和子

平成29年度開設し、昨年度も不振事業であった友部の新規事業と障害者事業に対し、年間を通じてコンサルタント指導を受けました。その結果、友部看多機、訪問看護は大幅に収入を伸ばすことができ、就労支援事業は、年度末には黒字化を達成することができました。ロッティの障害児支援事業ももう一歩のところまで来ています。また、昨年度、利用者確保に苦労したGH桂も令和元年度は常陸大宮市からの受入れが許可され、利用者を確保することができ事業所単独で黒字決算を迎えることができました。

令和元年度、サービス活動収益計1,492,790,559円、サービス活動費用計1,377,207,446円、サービス活動増減差額115,583,113円、サービス活動外増減差額4,892,315円を加え、経常増減差額120,475,428円の益を確保することができました。（ともに内部取引消去後の額）次期繰越活動増減差額は1,353,198,166円となりました。資産合計額3,286,318,789円、負債合計額1,152,445,713円、純資産は2,133,873,076円で令和元年度決算を終了しました。

令和２年度はもう一歩まできている、「ロッティなか」の黒字化を目指していきます。

事務サービスグループにおいては、「働き方改革に即した職員意識の変革」「業務複数体制による生産性の向上と対応力の強化」「経営意識及び事務職員としての課題解決能力の向上」の３点を目標に掲げ業務に取り組んでまいりました。法人全体の令和元年度年間離職率は全職種あわせて10.10%、25名の離職（転籍者除く）でした。働き方改革に合わせ、有給取得率の向上、時間外勤務の削減もあわせて推進してまいりました。また、業務改善提案年間、49件、手順書・手引書作成、見直し20件を通じて、業務の平準化と共有化、課題解決能力の向上に努めてきました。個人の固有業務をなくすことで、生産性の向上と対応力の強化、チームでの事務処理を心がけてきました。

また、ベトナムからの介護技能実習生１期生、４名を９月に受け入れ、送り出し機関であるベトナムの仁愛国際株式会社と管理組合であるみらい協同組合との連携のもと技能実習生の教育にも力を入れてきました。約半年の実習期間が終了し、ガルテン・ドルフでの業務も実習生はもとより受け入れる側のスタッフ、ご利用者様も慣れてきた気がします。３年間の実習期間が終了した時、志村フロイデグループに就職して良かった、また日本に来たいと言ってもらえるよう受入担当部門として対応してまいります。

令和２年度は、外国人介護技能実習生２期生の受入と人材の確保・定着・育成、Pマークの新規格への移行、えるぼしマークの取得、事業継続計画（BCP）の策定、働き方改革への対応に邁進します。そして平成30年度振るわなかった障害者事業及び友部の新規事業の黒字化を目指すと共に、社会福祉法人として地域包括ケアシステム実現のために貢献してまいります。

栄養サービスグループ

鈴木　真弓

栄養サービスグループでは、

「各関係機関との連携により新規利用者確保による収入・利益の安定を図る」

「365日３食、個人対応での食事の提供およびご利用者様ご家族様との信頼関係の構築」

「サービスの質の向上のために職員の資質の向上に努める」

の３つを部門目標に掲げ、目標達成に努めてまいりました。

令和元年度の博友会全体の食事提供数は、283,920食で１日平均776食でした。

目標達成に向けての取り組みとしまして、年２回の嗜好調査を毎年継続して行っており、嗜好調査の結果をもとに、食材の切り方の変更や調理方

法の検討や味付けの好みなどを科内や多職種の方々と検討し、常に食の質の向上に努めてまいりました。また、毎月１回、歯科医師・歯科衛生士・介護士・看護師やその他職種の方々と一緒にミールラウンドを実施しました。ミールラウンドでは、多職種でご利用者様の昼食の摂取状況を確認しながら、嚥下の確認、義歯の確認をすることで、食事摂取の方法を変更したり、食事形態をアップすることができたりと、より多くご利用者様の希望を取り入れることができました。

月１回のバイキングは、ご利用者様も楽しみにされており、食事委員会にてリクエスト献立を調査し、ご利用者様が望まれたメニューを提供することが出来ました。その他、季節の行事に沿ったバイキングを実施し、食事から季節を感じていただくことも出来ました。ご利用者様へのバースデーケーキ、バースデーカードの提供は、毎年恒例となり、楽しい食事のひとつとして実施しております。

在宅支援の栄養サポートとしては、御前山フロイデガルテンから常陸大宮市と那須烏山市の委託事業による配食サービスを実施しており、常陸大宮市以外の地域への配食サービスも行っております。サポートセンター城里からは、城里町への配食サービスを提供しております。令和元年度配食提供数は、御前山・城里合計36,929食で１日平均101食の食事をご自宅へ届けていることになります。また、運転手と連携をとり配達時に安否確認を実施しています。遠方にすむご家族様が安否確認を電話ですることもできますが、配食サービスでは、直接会って会話をして確認することができますので、普段との様子の違いや、体調不良等にも気づくことができました。不在の際や体調不良の際など、離れていてすぐに確認ができないご家族様へ情報を提供することで、早急な対応をすることができ、ご家族様からも感謝の言葉をいただきました。お一人暮らしのかたでも、ご家族様が安心して暮らしていけるよう、地域の方々の栄養サポートとして治療食にも力を入れ、ＱＯＬの向上、安否確認につとめ、今後もケアマネージャー、地域包括支援センター、在宅介護支援センターと協力しより多くの方に配食サービスを利用して頂きたいと考えております。

今後も、姉妹法人である医療法人博仁会と情報交換・連携を強化していきながら、栄養SG職員一同一丸となってご利用者様一人ひとりに合った栄養満点のおいしい食事を提供できるよう努めていきたいと思います。

令和元年度　バイキング実施報告書

	テーマ	内　　容
4月	お花見バイキング	たけのこごはん、はちみつ味噌チキン、菜の花と帆立の白ワインソテー、新玉ねぎと新じゃがのポテトサラダ、かぶの桜漬け、春キャベツとベーコンのスープ、さわらの南蛮漬け、いちごのパンナコッタ
5月	韓国バイキング	ビビンバ、チヂミ、チョレギサラダ、カクテキ、きくらげと青梗菜のスープ、魚の野菜あんかけ、ごま団子
6月	美和リクエストバイキング	炊きこみおこわ、天ぷら、野菜炒め、ポテトサラダ、かぼちゃの甘煮、具沢山汁、野菜切り漬け、プリンアラモード
7月	七夕バイキング	七夕そうめん、とり天梅ソースかけ、かにと枝豆の茶わん蒸し、茄子と大葉のみそ炒め、夏野菜サラダ、フルーツポンチ
8月	夏祭りバイキング	塩焼きそば、イカフライ、夏野菜のチーズ焼き、なすといんげんの胡麻和え、梅とオクラの冷スープ、散らし寿司、フレンチサラダ、アイス
9月	お月見バイキング	栗五目御飯、さんまの香味揚げ、豆腐のきのこあんかけ、根菜のマヨサラダ、かぶのゆず漬け、すいとんさつま汁、月見つくね、月見ゼリー
10月	秋の紅葉バイキング	きのこそば、魚のもみじ焼き、筍としいたけの煮物、クルミサラダ、なすの和え物、スイートパンプキン、巨峰
11月	関西味めぐりバイキング	たこめし、関西風すき焼き、里芋のみそソースかけ、きのこと海藻のサラダ、抹茶水ようかん、京野菜の天ぷら
12月	ドルフリクエストバイキング	彩ちらしずし、エビフライ＆コロッケ、マカロニサラダ、かぼちゃの甘煮、キュウリの塩漬け、しじみ風すまし汁、ロールケーキ
1月	迎春バイキング	サーモンといくらの散らし寿司、豚の角煮、えびしんじょうのあんかけ、明太子ポテトサラダ、紅白なます、あさりの清まし汁、栗羊羹
2月	節分バイキング	太巻き、稲荷寿司、いわしのパン粉焼き梅しそタルタルソース、鶏肉とカシューナッツの炒め、カラフルまめサラダ、おでん、白菜のゆず漬け、赤みそ汁、いちごミルクゼリー
3月	ひなまつりバイキング	かにちらし、アスパラサラダ、牛肉と筍のソース炒め、かぶの塩こんぶ漬け、はまぐりときのこの清まし汁、ポテトコロッケ、白桃ケーキ

御前山フロイデガルテン

石本　裕子

令和元年度、御前山フロイデガルテンでは、「多様化するニーズに対応するサービス（ケア）提供体制の確立」「人材（人財）育成の為の環境整備と研修機能の強化・推進」「地域における公益的な取り組みの実践」の目標を掲げ、その達成に向け努めて参りました。

原則、要介護度３以上のご利用者様を受け入れる当施設では近年身体的障害、認知症が共に重度化の傾向にあります。それらのご利用者様に適切なケアを提供するために職員が知識・技術の向上に努めました。まず、医療的ケアの強化の為に経管・喀痰吸引の外部研修に昨年度から引き続き受講し、看護職員が不在となる夜間を中心に体制強化を図りました。

認知症ケアに対しては、今年度も外部研修である認知症実践者研修に職員が参加し、より専門性の高いケアの知識と技術を学びそれを施設で水平展開することで、各職員の認知症ケアのスキルアップを図りました。

その他にも医師を交えた家族面談を定期的に実施し、ご利用者様及びご家族様の今後の意向の確認と要望の汲み取りといった個々のご利用者様のＱＯＬ向上への取り組みも昨年度に引き続き実施致しました。

職場環境の整備に関しましては、定期的に施設の設備のメンテナンスの実施、マットレスをはじめとした備品の補充、修繕を行いハード面からご利用者様が安心・安全な日々を過ごせる環境、職員の働きやすい環境の提供に努めました。

地域における社会福祉法人として当施設の在り方を示す取り組みでは、継続的に実施している地域イベントへの参加、当施設での地域に開かれたイベントの開催で、地域の方々へ当法人の有する社会資源の内容周知とその有効活用を促す活動を行いました。また、今年度は秋に襲来した台風被害から復興支援として、チャリティーフェスティバルと銘打って支援を後押しするイベントを開催することで地域との関係性をより強固にする機会を得ることができました。

施設各ユニット・ショートステイユニットの取り組みでは、昨年度導入した電子媒体の記録システムC-repoの記録を活用し、ご利用者様の排泄ケアの見直し、食事、水分の摂取状況から状況分析し脱水予防等の体調管理を行うなどケアの改善に繋げ、その機能を有効活用することができました。

また、今年度はベトナムからの技能実習生の受け入れが開始し、実習生の受け入れユニットでは、実習生の技術が確実に身につく為に、法人で作成した介護マニュアル（ひらがな版）を活用しながらマンツーマンでの指導を行い、生活面でも異国の地での不自由がないよう担当職員がバックアップしていく形で、受け入れ態勢を整えました。

今後も加速していく高齢化の中で、当施設に対するニーズも多種多様になると考えられます。それらに柔軟かつ適切に対応できるように、施設の設備改修等のハード面、職員のスキルアップ等のソフト面での両方の改善を行い、今まで以上に地域に必要とされる施設を目指して来年度以降も取り組んで参ります。

御前山デイサービスセンター

森　達也

令和元年度の御前山デイサービスセンターは、「リハビリ機能強化型デイサービス」としての運営を行い、登録者約100名の方々の身体機能や生活機能の向上を行う事で、住み慣れた地域、在宅での生活をできるだけ長く続けて頂けるよう支援して参りました。また、昨年度開始された「常陸大宮市　介護予防・日常生活支援総合事業」では、介護予防対象者の登録者約10名の方の介護予防を図り介護が必要にならない体づくりを目指し、これまでに蓄積したリハビリ機能強化型デイのノウ

ハウを活かして常陸大宮市の介護予防事業運営への生きがいづくり・仕掛けづくり準備にも注力してまいりました。令和元年度の部門目標は、10,597件で部門実績が、10,743件。達成率は、101,4%となっております。

人財育成の部分では、リーダー・生活相談員に求められる必要な知識の研修策定を行い、介護保険関連やリーダースキルの向上等の各種研修への参加に力を入れ、1名、生活相談員へ就任しております。

地域活動では先述した「地域包括ケア拠点化」を目標に67回目を迎えた伝統の長倉七夕まつり、フロイデガルテン秋祭りなど地域住民との参画で賑わい、交流を深めてまいりました。しかし、令和元年度は、台風19号が上陸し、御前山地区に浸水被害が出るなど甚大な被害をもたらしました。その影響で例年行われているごぜんやままつり2019が中止となってしまった為、チャリティーイベントとして、御前山フロイデガルテン初となる「御前山チャリティーフェスティバル」を開催致しました。イベントを開催する事の難しさを痛感すると共に、様々な地域の方々とのネットワークを広げられた機会だったと考えます。今後、このネットワークを強固なものにしていくと共に、そのネットワークから派生し、より細やかな人脈構成を作れるよう取り組んでいく所存でございます。

社会保障制度や社会情勢が変化し、また、来年度には介護報酬改定が控えておりますので、正確な情報をいち早くキャッチし、適切な対策・情報を共有することで市場構造の変化に柔軟に対応できる強固な事業所を目指し、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様から選ばれるサービスと安心して暮らせる地域づくりを目標に今後も取り組んでまいります。

ごぜんやまホームヘルパーステーション

皆川　あゆみ

ごぜんやまホームヘルパーステーションでは、ご利用者様並びにご家族様が、住み慣れた地域でいつまでも安心して、自分らしい生活を継続することができるよう、日々の在宅サービスに努めてまいりました。私たち訪問介護サービスは在宅生活を続けるためには不可欠な存在であることを自覚し、目標に向け取り組んでまいりました

昨年度は、以下の3点を部門目標に掲げ、目標を達成すべく、日々職員同士で意見を出し合い、試行錯誤してまいりました。

① 在宅福祉のサービスと地域密着のサービスの提供

ご利用者様が、住み慣れた自宅での生活を続けられるよう、在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービスを目指してまいりました。在宅サポートサービス（介護保険外自費サービス）を開始しご利用者様・ご家族様に喜んでいただくことができました。高齢化率が高く、独居や高齢者世帯が多い常陸大宮市や近隣地域において、訪問介護は在宅生活を支える最も身近なサービスと言えます。身体介護、生活支援サービスの提供により、要支援・要介護状態にあるご利用者様が、安心して生活が送ることができ、ご家族様からも介護による身体的・精神的負担が軽減できたと、高い評価をいただくことができました。

② 関係機関との連携の強化によるニーズの把握

ご利用者様の訪問時の様子や、些細な変化等があった際は、職員間で申し送りをし、尚且つケアマネージャーへタイムリーに報告を行なうことで、密な情報の共有ができました。また、ご利用者様やご家族様のニーズを素早く理解し、専門的な知識や技術して、迅速な対応が出来たことにより、

より一層信頼していただける関係を構築することができました。また、医療法人博仁会　おおみやヘルパーステーションの一元管理により、担当地域を明確にし、地域のニーズにの把握にも努めることにより、業務の効率化にもつながることができました。

③　職員資質の向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供

日常的な支援で得たご利用者様やご家族様のニーズを的確に把握し、適切なケアにつなげるサービスを行ってまいりました。また、カンファレンス等で、ご利用者様個々の症例を通してコミュニケーション能力やケア技術の向上を図るための研修会や勉強会を積極的に行い、個別ケアの充実を図ることができました。

今年度においては「在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービスの提供」「柔軟な対応と質の高いケアの提供」「ニーズに対応する個別ケアの充実」を目標としています。タブレット導入による在宅サービス間の連携がさらに強化されることや医療と介護の情報連携の強化が期待されることと思います。ご利用者様の声をサービスに活かし、自立した生活が送れるよう支援していきます。ご利用者様の笑顔がスタッフ一同の喜びとなるようなサービスを行っていきたいと思います。

ごぜんやま訪問入浴サービスセンター

笹崎　圭太

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターでは、常陸大宮市を中心に在宅で生活される方に対し健康促進、清潔保持を目的とし安心して在宅生活が送れるよう支援して参りました。訪問時にはご利用者様お一人おひとりの身体状況確認を行い入浴支援、医療処置が必要な方には処置等の対応を行っております。また訪問入浴サービス提供にあたり地域の介護支援専門員や医療機関など関係機関との連携を強化し、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と、ご本人様やご家族様の強いご希望であるターミナルケアのひとつとして『体のケア』だけでなく精神的負担の軽減が少しでも図れるよう『心のケア』も重視したサービスを提供して参りました。

令和元年度の訪問利用者件数は1152件で、目標達成比率は111％という結果となりました。今後も令和元年度以上にエリアを配慮した予定の管理を徹底し、ニーズのあるご利用者様の受入れを行って参ります。また、ご利用者様の介護度をみてみると、要介護４、要介護５が80％近くとなっており在宅生活者にとって訪問入浴の役割は重要な位置を占めています。（資料１）

また地域別でみてみると県内は常陸大宮市、城里町を中心に栃木県は那須烏山市、那珂川町と栃木県南東部までとサービスエリアを展開し、地域別訪問予定調整を行い、効率よくサービスを提供出来るように努めてきました。（資料２）

引き続きお一人おひとりにあった介護サービスを提供し、介護者される方の身体的・精神的負担の軽減が図れるように、また、身体の清潔保持、心身機能及びQOLの維持・向上を図るためにも、介護技術と質の向上を図ることにより、選ばれる事業所となれるよう日々の業務に取り組んで参ります。

また今後も介護支援専門員を中心とした他職種間との連携を図り、ご利用者様やご家族様が引き続き住み慣れた環境で安心して生活できるよう支援して参ります。

（資料１）要介護度別利用者数

介護度	件数
要介護１	12件
要介護２	35件
要介護３	106件
要介護４	530件
要介護５	469件
要支援	0件
合計	1152件

（資料２）地域別利用者数

市町村名	件数
常陸大宮市	736件
城里町	125件
水戸市	6件
日立市	16件
常陸太田市	20件
那須烏山市	219件
那珂川町	29件
小美玉市	1件
合計	1152件

ごぜんやま総合ケアプランセンター

佐藤　信也

在宅介護支援センターでは、昨年同様、常陸大宮市からの委託事業として、一般介護予防事業と包括的支援事業を以下の通り実施致しました。また、令和元年度より新たに高齢者福祉事業が追加されました。

事業内容と活動実績として、一般介護予防事業は、①介護予防把握事業(独居・高齢者世帯、予防事業対象者等の実態把握)、実人数117名(述べ件数170件)②介護予防普及啓発事業(リーフレット配付、イベントへ参加しPR活動)、実施回数５回③お達者教室(運動・口腔・栄養に係る介護予防教室)、参加実人数16名(参加延人数185名)④地域介護予防活動支援事業(地域サロンの立ち上げ、運営支援)、運営支援地域４地域。

包括的支援事業は、①総合相談、実件数93件(介護保険関連24件、緊急通報関連24件、生活支援16件、実態把握11件、その他18件)②緊急通報システム管理、設置件数56件③申請代行手続き、実件数73件(介護保険関連９件、配食サービス２件、タクシー関連11件、ファミリーサポート３件、緊急通報関連47件、その他１件)④生活支援体制整備事業(協議体活動への参加、情報交換)、実施回数13回。

高齢者福祉事業は、①緊急通報システム事業(新規設置立ち会い、電池交換、故障修理立ち会い)、実件数８件②高齢者見守り安否確認事業(見守り・安否確認)、実人数117名(述べ件数1070件)。

以上の業務を遂行致しました。今後も、地域に寄り添い、関連機関との連携を深め業務遂行していくと共に、地域包括ケアシステム構築に向け、支援センターの機能向上に努めて参ります。

ごぜんやま総合ケアプランセンターでは、介護保険に関するサービスの相談や事業所の紹介、調整、ケアプランの作成等を行っています。

今年度の事業目標と活動報告は下記の通りです。

① 医療と介護の連携強化

② 自立支援に資するケアマネジメントの実践。

③ ケアマネジャーとしての地域連携・資質の向上

利用者総数は3,036件、年間目標達成率は99.5%と目標未達成となりました。原因として、４月～９月にかけて利用者の安定した確保が出来ず月単位の目標に届かかった事が原因となっております。特定事業所加算Ⅱの算定を継続し利用者確保に努めました。医療と介護の連携強化に関しましては、入院先に対し速やかに情報を作成し提出を行い電話での情報提供を行い、医療機関との関係性を強化してまいりました。

各地域の介護支援専門員連絡協議会研修や法人内・外の研修に参加することで知識を高め、ケアマネジメントに関する質の向上を図りました。今期は主任介護支援専門員資格を１名取得し事業所の全体の質の向上が図れるよう指導をして頂いております。課題整理総括表を活かし、アセスメントを行い利用者の理解を深め自立支援に向けた居宅サービス計画書を作成できるよう努めてまいりました。

行政機関及び医療機関、常陸大宮市北部・南部地域包括支援センターと円滑な業務が図れるよう努力して参りました。

常陸大宮介護支援専門員地区活動では、勉強会を企画して事業運営を行っています。今年度も地域ケア会議に出席することで、多職種との顔の見える関係づくりを行い、多職種連携をより具体化することで、サービスの質の向上ができ地域包括ケアが推進できるように取り組んできました。

認知症サポーター養成講座講師として参加し地域貢献に努める事が出来ました。地域包括ケアシステム構築に関しては介護支援専門の役割も重要になっております。ケアマネジメント以外の知識も今後向上できるよう各種研修に参加し努力していきます。

フロイデグループホーム桂

桑名　雅義

令和元年度のグループホーム桂は、管理者が変わって新体制での１年となりました。

開設16年目となり、地域住民の皆様や城里町行政、地域包括支援センター、関係各所の皆様のご協力を頂きながら、城里町唯一のグループホームとして運営して参りました。１年間安定した運営をできたのは、ひとえに地域の皆様のご理解とご助力のおかげであると思います。感謝申し上げます。

令和元年９月９日の台風にてグループホーム桂の北側外壁が全て崩れてしまい、修繕しております。また、エアコンや居室等経年劣化により故障や不具合が生じてきているため、来年度、空調設備の工事を行う予定です。その際には入所されているご利用者様、ご家族様に不憫な思いをさせてしまうかもしれませんが、安心快適な生活ができるために対応させて頂きますので、ご協力お願い致します。

次に地域のニーズの把握として運営推進会議を開催し、城里町行政、地域包括支援センター、地域住民代表、ご家族様代表、小規模多機能ホーム城里と積極的に意見交換を行いました。２月には地域の方より要望のあった新しく開設した水戸メディカルプラザへ、施設見学を実施しております。

また、例年同様に沢山小学校の運動会へご招待いただき、ご利用者様と参加させて頂きました。年々少子化が進み地域の子供の声が減っていく中、小学校の運動会という活気ある場所にご招待いただくのは、ご利用者様だけでなく職員も元気を分けて頂いたように思います。11月には、しろさと町民まつりに参加し、サポートセンター城里と協力し模擬店を出店させて頂きました。例年に比べ気温も高く晴天に恵まれ、ご来場された方々へパンフレットや案内の配布をすることができ、地域の皆様に再度認知頂けるとてもいい機会となりました。事業所としてのイベントも毎月開催し、屋外活動としてドライブや散歩など、外出の機会を得ることが増えました。９月に実施した家族会では、利用者様と家族様で食事をされ楽しい時間を提供できたと感じております。令和２年度も利用者様が楽しく喜んでいただけるようなイベントを計画・開催したいと考えております。

最後に地域における認知症介護の専門施設として役割を果たすために職員教育にも力を入れております。利用者様の緊急時備えるため特定行為従事者研修に２名が参加され資格取得。認知症実践者研修に１名参加資格取得しております。看取り介護についても、知識と役割りを学ぶため事業所内にて勉強会を開催しました。次年度は、看取り介護について体制構築と準備をすすめていきたいと考えております。実績としましては達成率98.6％となりました。来年度は目標達成できるように努力して参ります。

ご利用者様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らして頂くため、グループホーム桂全職員で認知症ケアの知識・技術の向上・質の向上を図っていきたいと考えております。

フロイデ総合在宅サポートセンター美和

宮田　匠

フロイデ総合在宅サポートセンター美和は、平成17年７月に開設し、日頃から地域の皆様に支えられながら無事15年目を迎えることができ、感謝しております。これからも鷲子地区において必要とされる施設そして地域の皆様に愛される施設を目指して今後も取り組んでいく所存であります。

美和デイサービスセンターでは、令和元年度の目標として、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにをモットーに、利用者様一人一人のニーズに合わせたサービス内容を立案し、提供して参りました。職員の接遇、スキルアップに関しましては、法人主催の接遇研修への参加及び、部門内での疾患別勉強会などを他職種間で知識を

共有し質の高いサービス提供に努めました。また、自立支援、自己決定能力の向上の為、様々なアクティビティー活動を提供し、地域の文化祭へ出展、成果を出すことが出来ました。これらの活動は生きがい作りの一環として、毎年度継続していく所存であります。

グループホーム美和では、地域密着型施設として地域住民の方や地域包括支援センター、常陸大宮市社会福祉協議会、居宅支援事業所との連携強化を図って参りました。隔月で開催される運営推進会議におきましても、地域行政、地域住民代表、地域包括支援センター等と積極的に情報・意見交換を行う事ができ、認知症対応型施設としての役割を果たすことができました。また、火災、地震、風水害などの非常時に備える為、大宮西消防署、地域の鷲子福祉ボランティアのご協力を頂き、施設内消防訓練時には参加をお願いし、協力体制の確立も図ってまいりました。また、常陸大宮市グループホーム連絡協議会へ参加し、同市内のグループホームとの意見交換などを行い、認知症対応型施設として常にスキルアップを図り地域における認知症への理解度向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりました。

令和元年度の目標達成状況としてデイサービス達成率は100.7%、グループホーム美和達成率は99.8%に留まりました。この結果を重く受け止め次年度は病院との入退院連携を密に図り目標達成に向けて取り組んでまいります。

最後に、来年度は積極的に地域行事へ参加し、地域の皆様にご利用頂きやすく、安心して大切なご家族様を任せていただける施設を目指し、ＰＤＣＡサイクルを活用した一人一人が自分らしく日常生活を送っていただける場所の確立に努力していく所存です。

フロイデ総合在宅サポートセンター城里

黒澤　貴明

令和元年度フロイデ総合在宅サポートセンター城里は『ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進』『新規事業の準備と開設～新たな事業モデルへ～』『次世代育成の教育と体制づくり』という部門方針のもと取り組みを行いました。

地域包括ケアシステムへの取り組みとしまして、地域住民を対象としたオレンジカフェ（認知症カフェ）の開催や高齢者体操教室「いきいきヘルスどんぐり」へ健康運動実践指導者の派遣を実施した他、令和元年度は新たに地域住民を対象とした「しろさと健康教室」を開始し地域の方との関係構築に努めました。

人材育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、介護福祉士実習指導者研修や喀痰吸引研修など各種研修へ積極的に参加し、専門職としての知識・技術の向上を図りました。

城里デイサービスセンターではサービス面においてリハビリ機能に特化し、作業療法士や健康運動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートにつながる活動を行って参りました。年間利用者総数10,187名（達成率98.1%）の実績でした。

小規模多機能ホーム城里のサービス面ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなくご家族の皆様とも連携を図り、一人ひとりに合ったサービスの提供を行いました。地域の医療機関や城里町の地域包括支援センターなどへ広報活動を行い、小規模多機能の通い・泊まり・訪問の３つを組み合わせた在宅復帰・在宅支援サービスについて改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は10,078名（達成率95.0%）でした。

しろさと配食センターの年間配食数は、3,838件(達成率104.9%)でした。今後もご利用者様一人ひとりの食事形態に合わせた食事を提供し、ご自宅

でいつまでも安心して過ごしていただけるように、栄養満点のおいしい食事を届けていけるよう努めて参ります。

今年度も目標達成に向けて事業所全体の質の向上への取り組みと地域包括ケアシステムの推進に努めて参ります。

フロイデ工房しろさと

清水　良則

令和元年度も就労支援施設として、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業を提供しました。

就労移行支援事業においては、就職の実現を最大の目標に、就労に必要なスキル獲得に向けた様々な作業活動を実施しました。またハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど関係機関との連携も図りながら、就職に関する情報の収集に努めました。就労に向けたスキル獲得の支援活動の一環として実施している作業活動については、これまで同様法人内部からの委託作業を中心に、ラスクの生産販売や一般企業から内職作業、官庁から環境美化作業を受注し実施しました。作業の種類を増やすことで御利用される方のスキルに合わせて作業活動実施することができ、職業準備性を高めております。

就労継続支援B型事業においてもご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、事業者にはより多くの工賃の支払いと、一般就労が困難な方の働く場所の提供も大きな役割として求められております。このため作業内容や作業量の確保も重要な課題であり内部作業だけでなく外部委託作業の受注にも努めました。企業から求められる精度や量、納期限など安定した作業を実施したことにより、取引先からの信頼を獲得し作業委託量を増やし作業収入の増額を実現しております。

新規利用者の内訳としましては精神疾患をお持ちの方の割合が多くなってきております。今後も増加が予想されます。また、高次脳機能障がい者を受け入れている施設が少ない現状があります。これまでの支援実績を踏まえ、専門性をさらに向上させ高次脳機能障がい者への質の高い就労支援サービスの提供に努めます。

報酬改定により、就労移行支援については前年度の就職者数、継続支援については前年度の平均工賃のそれぞれの実績が事業所の収入に直接反映されており、障がい者支援事業は非常に厳しい運営状況となっていますが、安定した御利用をいただき、就職者の輩出、新規利用の増加、外注作業の増加により少しでも補えるよう引き続いて努めて参りたいと思います。

地域密着型介護老人福祉施設　大宮フロイデドルフ

入所課長代理　藤田　章宏

大宮フロイデドルフは開設から８年目を迎えて様々な分野でチャレンジの１年となりました。今年度は９月にベトナム人介護技能実習生の第一期生の受け入れを開始しております。１年前より教育・環境体制などを検討し、受け入れの準備を行ってまいりました。大宮フロイデドルフでは初年度３名の技能実習生を受け入れております。日本の介護技術を学び、将来的には母国にて介護技術の移転を目標としている技能実習制度に対して法人はもとより受け入れ施設としての介護教育に対する責任と使命をもって取り組まなければいけないと感じました。日本の介護は世界一とされている彼らの認識を損なわないように職員全体で指導をおこなっています。受け入れに関しては、法人独自の介護技術マニュアルの作成を主導し、受け入れまでに完成させています。

技能実習生に指導する側となる日本人介護職員への教育としてはサービス提供の基本となる在り方「地域の皆様の笑顔の為に」というコンセプトを掲げる中で、継続して他の施設に先駆けた取り組みや実践などを積極的に行っております。

ご利用者様の相互理解の為の家族面談、日頃の

様子をお伝えする為の広報活動（広報誌、毎月のイベント写真送付)、ご家族様のお迎えする為の施設内環境改善に取り組み、来所されるご家族様が、施設の変化を感じ、「ご利用者様と気持ちよく過ごして頂きたい」という職員全体の想いの中で環境改善に取り組んでおります。冬季の感染対策での面会制限の折には居室以外の面会場所の課題が出ました。環境課題はマイナスではなく事業所を成長させて貰える糧と捉え、チャンスと捉えた環境作りをおこない評価を頂いております。

法人内における人員体制への寄与に関しては、当事業所が介護人材の育成の場としての役割を再認識し、法人内の中核を担える管理者候補及び相談員の教育を実施しております。

特養の機能としては、看取り期におけるご利用者様の意思を尊重したアドバンスケアプランニングの考え方を基に、ご利用者様其々の想いを事前に傾聴して終末期の関わり方の検討を行う家族面談の実施を継続しております。特養の設備や人員に限りはありますが、私達の仕事はやりがいと使命感を持つ職員達のスキルを活かし、終末期の時間を悔いの無いように過ごして頂きたいと考えてケアを行っています。

地域における特養施設としての自負を今後も持ち、自信の持てる設備や機能を存分に活かしながら新元号のもとでも変わりない質の高い介護サービスを提供できるように職員全体で取り組んで参ります。

フロイデ総合在宅サポートセンター友部

室井　英雄

フロイデ総合在宅サポートセンター友部は志村大宮病院回復期リハビリ病棟「スイス館」の笠間サテライトとしてリハビリ機能強化型デイサービスが開設され７年が経過しました。

その後、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護とサービス付き高齢者向け住宅を開設したことで介護予防をはじめ、リハビリニーズの高いご利用者様や医療依存度の高いご利用者様まで満足いくサービス提供体制が確立されました。多職種による専門的な支援が実を結んだ結果と考えております。

【令和元年度の部門方針として】

① ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進

② 新規事業の準備と開設〜新たな事業モデルへ〜

③ 次世代育成の教育と体制づくり

が掲げられ当事業所もケアタウン友部として地域への浸透と関係づくりを念頭に置き、部門方針を実践して参りました。

部門方針①の取り組みとして、介護予防・日常生活支援総合事業であるオレンジカフェやフロイデ元気すこやか教室などを実施し一般高齢者をはじめ事業対象者、要介護軽度者から中重度者まで支援ができるよう既存サービスの機能強化を図りました。デイサービスや看護小規模多機能型居宅介護は要介護重度者でも安心して在宅生活が送れるよう多様なサービス調整を実施しました。今後も更なる連携強化に向けて他医療機関・他事業所とのネットワーク作りを推進して参ります。

②の取り組みとしては、『定期巡回随時対応型訪問介護看護』の公募を獲得することができました。令和３年度の開設に向けて準備していきたいと思います。

③の取り組みとしては、認知症実践者研修や喀痰吸引研修等に参加しスキルアップを図っております。その結果、要介護重度者の受け入れも可能となり平均介護度を少しずつ上げることができました。今後は地域住民との関係性を深めフロイデサポーターを養成できるよう努めて参ります。

令和元年度の目標達成状況としてサービス提供件数(延べ数)目標はフロイデ友部デイサービスセンターが10,387件、実績が10,846件、達成率は104.4％と目標を達成することができました。看護小規模多機能ホーム友部が目標達成率91.5％、フロイデともべ訪問看護ステーションが379.4％、

フロイデアシストハウス友部が目標達成率98.5%の結果となりましたので次年度は実績を確保し運営の安定化を図っていきたいと考えます。

今後も継続し要介護中重度者の受け入れを積極的に行い、医療支援が必要な方や認知症状がある方でも安心してサービスが受けられる体制作りをしていきたいと思います。介護予防としては地域サポーター連携した事業所運営を行い、新規事業については目標達成できるよう広報・営業活動に注力して参ります。健康などの悩みや介護・生活相談などを共有できる事業所を構築し、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担っていきたいと考えております。

フロイデアシストハウス大宮

井坂　直人

フロイデアシストハウス大宮の令和元年度の事業実績を報告致します。

年間目標7,320件（20室満室）の目標に対し、実績が7,309件と達成率99.8%でした。事業目標としては入居者様が生活しやすい環境の整備・提供を目標に入居者様やご家様からご意見等頂きながら業務改善等をおこなって参りました。また、事業所内の活動としては日々、変化、楽しみをもちながら生活ができるよう、介護予防事業（まちなかサロン）、事業所内のイベント活動などのサービス提案もおこなって参りました。内容としては介護予防体操教室や外出イベント、専門家による講演会などおこなってきました。その他、入居者様同士で声を掛け合いサークル活動なども実施することも出来ました。

また安定した事業所運営と地域との信頼関係の構築するため、定期的に居宅介護支援事業所、その他関係機関への営業活動の強化と地域のイベント等に参加させて頂き交流を図ることができ、また入居者様も地域の交流会や敬老会、近隣保育園の園児さん達と交流を深めることが出来ました。今後も地域との交流を積極的に関りもち地域に溶け込める事業所運営を目指して参ります。

入居者様に関しましては一人ひとりに合ったサービスの提案、提供が出来るよう関係部署と連携を強化して参りました。また、今年度は入院による身体状態の低下した方には定期巡回サービスに登録して頂き、職員が１日に数回必要に応じ訪問しサービス提供することで安心して生活をしていただくことが出来ました。これからも待機者や入居希望者の方々に安心した住まいを提供できるよう迅速な対応と環境整備を心がけて参ります。

今後も入居者様個々人に合わせたサービスの提案、提供、職員の質の向上を図るとともに、より一層、地域との関りを大切にして地域との信頼関係の構築ができるよう努めて参ります。また、入居者様が「安心」「快適」「楽しみをもって」生活が送れるよう関係機関との連携を強化しサービスの提供、支援をして参ります。

資料1（介護度別）

自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
6名	0名	2名	9名	5名	1名	0名	0名

フロイデ工房なか

清水　良則

平成29年４月に新規事業所として那珂市菅谷に就労継続支援事B型事業「フロイデ工房なか」を開設いたしました。「フロイデ工房なか」に関しましては、児童発達支援事業・放課後等デイサービス（平成31年３月開設）「ロッティなか」との併設の多機能型事業所となっております。

就労支援事業に関しましては、これまで城里町の「フロイデ工房しろさと」において就労移行支援と就労継続支援B型のサービスを提供しておりましたが、就労継続支援B型をご利用される方が増加しており、新規にご利用を希望される方の受け入れや、実施作業の多様化に対応できるよう、

サービスの提供をしております。

継続支援B型事業につきましても、就労移行支援事業と同様、ご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、併せて事業者にはより多くの工賃の支払い、一般就労が困難な方へ、働く場所の提供も大きな役割として求められております。このため作業種類、作業量の確保も重要な課題となっております。「工房なか」では法人内部の環境整備のほか、企業からの委託を受け、菓子袋へのラベルシール貼りや、電動工具の部品の袋詰めなどの作業を行っております。年間を通して安定的な作業ができたこと、ご利用された方のご協力もあり、安定した通所により欠席率が低く推移しました。結果として、平均工賃が月額2万円を超えることが出来ております。

昨年同様前年度の工賃の平均月額により段階的に加算が区分され、より多くの工賃を支払った事業所が収益を確保でき評価されているため、この改定を踏まえ収益を確保し、安定した施設運営のため、今後もより多くの工賃の支払いが可能となるよう「フロイデ工房しろさと」との連携に努め、効率的作業の実施、作業量の確保、利用率維持に努めるとともに、ご利用される方の就労スキルの向上と就職の実現を目標に取り組んで参りました。

ロッティなか

清水　良則

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所「ロッティなか」は平成29年4月に新規事業所として児童発達支援事業所を開設し4年目、今年度は新たに放課後等デイサービスを追設、就労継続支援B型事業「フロイデ工房なか」と併設しての事業運営を行っております。

追設いたしました放課後等デイサービスは、小学校・中学校・高等学校に通うお子様を対象に、授業終了後または長期休業期間（春・夏・冬休み期間）中に、自立支援と日常生活の充実のための支援を行う事業で、追設したことにより未就学児から就学時、さらに卒業後は就労支援事業まで一環した福祉サービスの提供ができる体制が整いました。

サービスの提供に関しましても年間計画、月案、週案、日案を立案し、季節、慣例行事の実施、イベントの開催、遠足、畑での野菜の栽培収穫、調理など、ご利用されるお子様が様々な体験ができるようプログラムを構成し活動を展開しております。

営業活動としましては、那珂市及び近隣市町村の福祉課、保健センター、社会福祉協議会、相談支援事業所等の関係機関への継続的な営業活動、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等へのポスター掲示、パンフレットの設置など定期的な営業活動を展開しましており、徐々に登録者数が増加、情報の発信方法さらに拡大、SNS等のソーシャルメディアの活用も開始し、自治体との連携においても、週1回程度の出張支援活動（教室）を行い、地域に根付いた事業所として幅が広がってきております。今後もこれまでの営業活動に加え写真やブログなど施設での活動をより多くの方に発信して参ります。

9．各委員会活動報告（博仁会）

接遇向上委員会

令和元年度報告

法人全体としてのSFG(志村フロイデグループ)のサービスに誇りを持ち、笑顔・感謝・工夫を心がけ、地域に信頼される法人を職員一丸となり目指しており、各委員会が年間計画に沿って活動を進めております。接遇の基本であります挨拶、言葉づかい、動作・行動、連携の規範を職員全体に浸透できるよう毎月のロールプレイングにも月の前半、後半で目標を決めてより身近に練習ができるように改善し法人全体で接遇力を向上して参りました。

今年度は、中途入職者向け接遇研修も開催し、法人の仲間となりました職員とも接遇を通しての心構えも共有いたしました。

また、ハードとソフトの両面が重要と毎月、他部門による毎月の環境パトロールと年２回の外部審査員も参加しての環境美化コンクールを継続しております。

調査委員会では外部の患者様やご利用者様、また職員自身の自己チェックも兼ねたアンケートも継続して実施しております。

良いサービスは良い接遇からとの合言葉で接遇委員会活動を行なっております。

活動実績

【教育委員会】

教育委員では、毎月の接遇標語の作成とロールプレイングの立案を行っております。法人全体での接遇向上のために接遇向上大会を年３回実施し、『良いサービスは善い接遇から』と全体での意思統一を図りました。

大勢の職員が接遇向上大会へ参加がしやすくなる様に、開催会場を増やす試みも行い、水戸メディカルプラザ開設にあたり、水戸での会場を第38回から水戸メディカルプラザへ会場を変更しました。また、前年度から引き続き、外部から常陸大宮消防署の方にもご参加いただきました。

１．接遇向上大会開催

第36回　2019年６月21日　(金)
会場　フロイデハイム４Ｆ　フロイデハイム１Ｆ
　　フロイデガルテン　SC水戸けやき台
参加者：179名　外部（消防署の方）４名

第37回　2019年10月18日　(金)
会場　フロイデハイム４Ｆ　フロイデハイム１Ｆ
　　フロイデガルテン　SC水戸けやき台
参加者：172名

第38回　2020年２月28日　(金)
会場　フロイデハイム４F　ガルテン　ひたちなか
　　水戸メディカルプラザ
　　※コロナウィルス感染防止の為、延期

２．接遇標語・ロールプレイング作成

2019年４月(No200)～2020年３月(No211)

【広報委員会】

１．接遇標語、ロールプレイ配信（No.200～211）
２．接遇新聞発行
　第13号（2019年４月１日発行）
　第14号（2019年６月１日発行）
　第15号（2019年12月１日発行）
　第16号（2020年３月１日発行）

【環境分科会】

毎月の環境パトロールの実施と常陸大宮市民生委員の方を外部審査員としてお招きしての環境美化コンクールの実施をいたしました。外部の方からのご意見は大変貴重な改善提案となっております。

第25回環境美化コンクールは７月20日に開催い

たしました。
最優秀賞　サポートセンター水戸けやき台
優秀賞　　サポートセンター友部

第26回環境美化コンクールについては新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえて改善は実施いたしましたが、審査は今回のみ中止といたしました。

接遇新聞
Welcome
第15号
2019年12月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

第37回接遇向上研修会 4か所（大宮・水戸）で開催

＊2019年10月18日（金）　＊参加者 172名
＊会場：大宮フロイデハイム（1階/4階）・水戸けやき台・御前山ガルテン

今後の予定

○2020年2月ごろ：環境美化コンクール開催予定
○環境パトロール毎月実施

接遇新聞
Welcome
第16号
2020年3月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

中途採用職員向け接遇研修開催

二〇二〇年二月一三日（木）一四時～一五時三〇分まで、おおみやコミュニティセンターで総勢三七名の参加者により熱心に研修会が開催された。当日は、接遇向上委員会コア6のメンバーが講師となり、座学・実技の練習を行った。講師の猿田氏は、接遇で県内一の病院を目指そうと熱い想いを参加者に届けた。

参加者の声

鈴木誠さん
（フロイデクリニック水戸）

この度は、中途職員向け接遇研修会に参加させて頂き誠にありがとうございます。改めまして、貴重なご講話を頂戴致しました接遇向上委員会の委員の皆様に感謝申し上げます。

私は、約二〇年医療従事者として接遇に携わって参りましたが、今回の研修を通じて、改めてプロとしての自覚を高め、接遇スキルの向上が仕事のレベルを上げ、自分自身の成長にも繋がる事を学ばせて頂きました。

今後、身だしなみの基本方針・チェックシート等を日々活用させて頂きながらプロとしての自覚を持ち続け、患者様・利用者様に「安心感・納得・癒し」をみたした接遇を提供できる、県内一のクリニックを目指し邁進して参ります。

写真：接遇研修会の様子

わたしの部署の接遇マイスター①

夜勤の際に栄養科に夕食の食器類をエレベーターで下げる時の電話の対応が素晴らしく、気が張り詰めていたのが、リラックスし落ち着いて夜勤に勤めることができます。

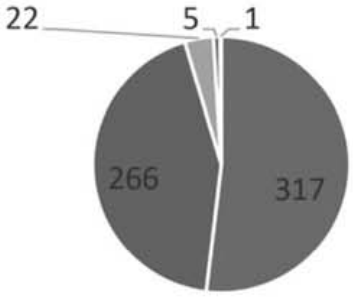
小木津 潤子さん
（フロイデドルフ）

接遇新聞
Welcome
第16号
2020年3月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

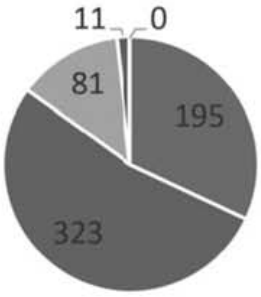
接遇アンケート調査結果

（一部掲載）

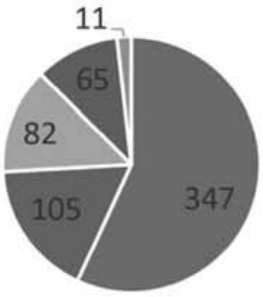
Q. 声を出して挨拶している



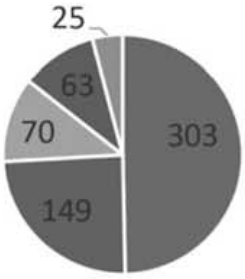
Q. 心を込めて挨拶している



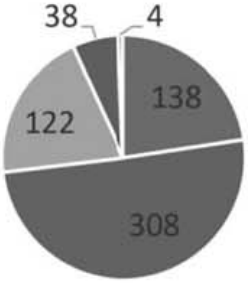
Q. 髪を茶髪にしていない



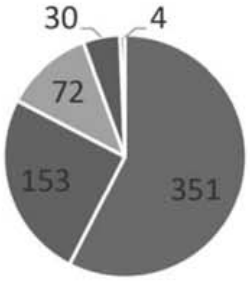
Q. 名札を正しい位置につけている



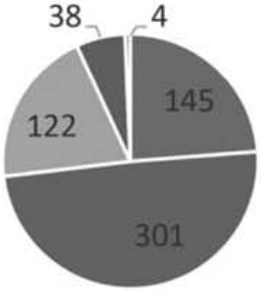
Q. 謙虚な礼儀正し態度で接している



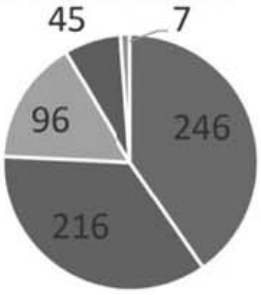
Q. お客さまの目を見て話をしている



Q. なれなれしい言葉遣いをしていない



Q. 電話が終わったら先にフックを切り受話器を静かに置いている



- 常に出来ている
- だいたい出来ている
- ときどき出来ている
- あまり出来ていない
- まったく出来ていない

～　コメント　～

全体的に動作や言葉づかいが出来ていません。また、電話の切り方について相手を思いやりフック機能を活用しましょう。引き続き、各部門での練習をお願いします。

【その他の意見】「挨拶をしても返さない人がいる」「職員同士の会話が多くみられる時があり利用者との関わりが少ない」などといった、職員間による挨拶が出来ていないという意見が数件出ていますので、気持ちの良い挨拶を心掛けましょう。

今後の予定

○3月7(土) 第26回環境美化コンクール　　○環境パトロール毎月実施

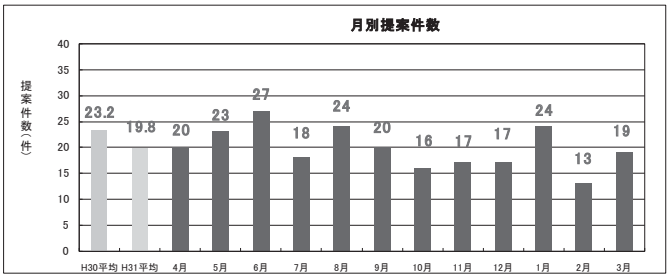
サービス改善委員会

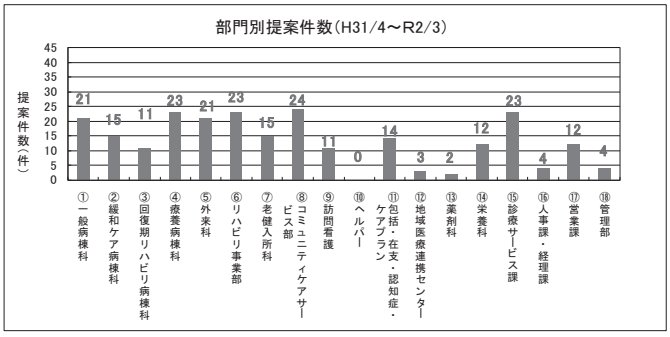
令和元年度サービス改善委員会の活動

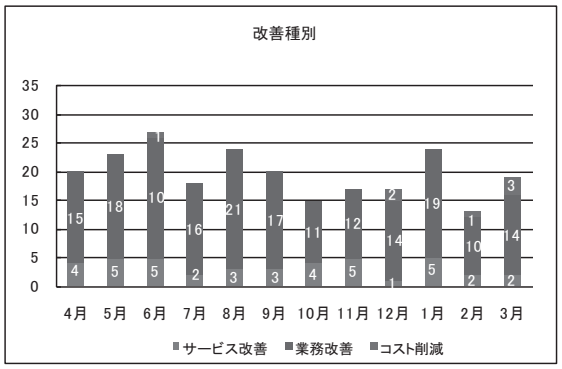
① サービス改善提案件数の状況

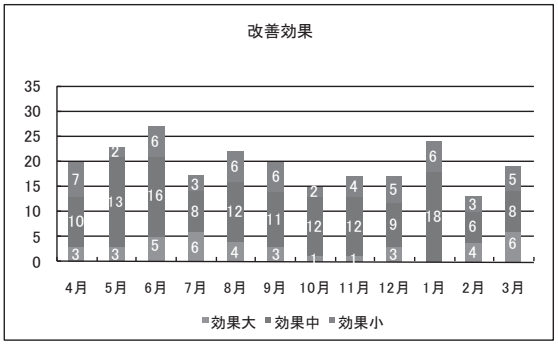
令和元年度のサービス提案件数は、平成30年度の月別平均提案件数23.2件に比べ19.8件と月平均で約３件下回る結果となりました。各部門の提案状況も部門間でバラツキがあり、20件以上の部門が６件に対し、10件以下の部門が５件ありました。改善種別としては、提案件数の約８割は業務改善を占め、コスト削減に関する提案が少ない状況でした。改善効果については、効果大、効果中、効果小に分類し、効果中が半数以上を占めました。

来年度に向けて、提案件数を増やしていくことが第一の課題です。提案のない部門をなくしていくことが必要だと考えます。また、職員が日常業務の中で改善を意識して業務に取り組めるような環境づくりも重要であると考えます。









令和元年度　医療介護安全推進委員会

1．目的

医療法人博仁会における医療事故を防止するための必要な啓発を図るとともに、医療事故が発生した場合の適切な対策を協議する。

2．活動内容

① 医療相談業務
② 医療介護安全管理推進会による研修会の企画と実施
③ インシデント・アクシデント報告書の集計・評価・分析
④ 事故発生時の状況把握、対応
⑤ 事故後の改善策の検討・実施・評価
⑥ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための改善結果・効果を記録する
⑦ 医療安全活動実績の記録
⑧ 医療安全地域連携 （医療安全ラウンド）

3．医療介護安全推進部会　開催状況

毎月１回　開催　令和元年度　　12回　開催

医療安全地域連携　ラウンド・カンファレンス
9月11日

医療安全ラウンド（５Ｓ活動）
7月２日
12月26日

4．インシデント・アクシデント報告状況

年間　1259件　　月平均　104．9件

・レベル　0	21 件
・レベル　1	154 件
・レベル　2	851 件
・レベル　3 a	207 件
・レベル　3 b	19 件
・レベル　4	7 件
・レベル　5	0 件
・レベル　6	0 件

5．医療介護安全推進大会実績

第35回

令和元年７月23日（火）

内容　院内緊急コール　講演・実演

講師　大仲先生

ヘルスケアプロバイダ-による救命デモンストレーション

講師　ヘルスケアプロバイダー

心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくんライト」説明

参加人数　：　病院140名　・　法人150名　・　レポート（現場実演指導）185名

第36回

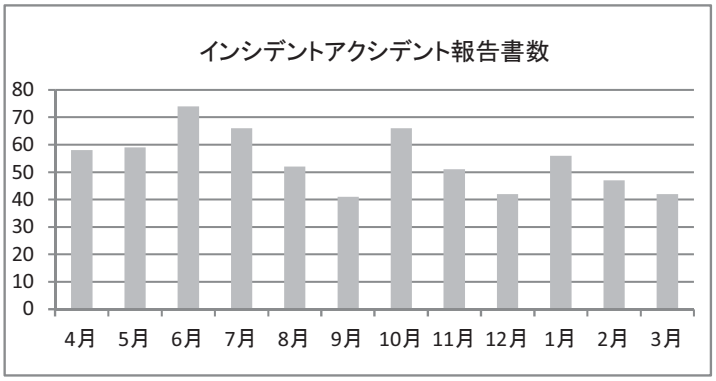
令和２年３月27日（金）

コロナウイルス感染拡大に伴い中止

2019年度　医療安全　全体の報告書

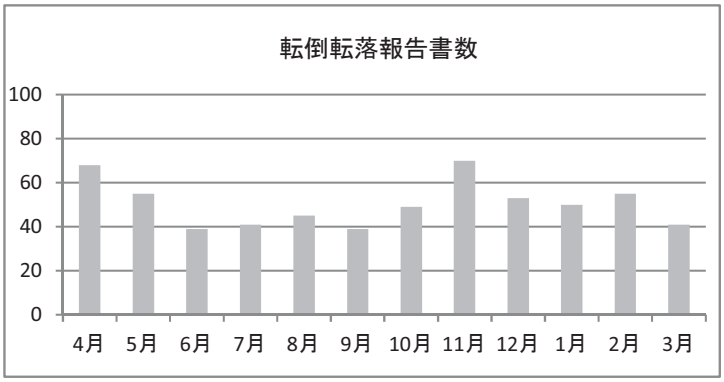
《インシデントアクシデント報告書数》

4月＝58件　　10月＝66件
5月＝59件　　11月＝51件
6月＝74件　　12月＝42件
7月＝66件　　1月＝56件
8月＝52件　　2月＝47件
9月＝41件　　3月＝42件
年間　654件　　月平均　54.5件



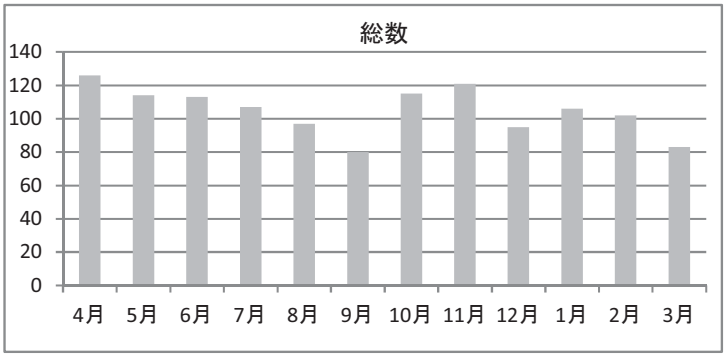
《転倒転落報告書数》

4月＝68件　　10月＝49件
5月＝55件　　11月＝70件
6月＝39件　　12月＝53件
7月＝41件　　1月＝50件
8月＝45件　　2月＝55件
9月＝39件　　3月＝41件
年間　605件　　月平均　50.4件



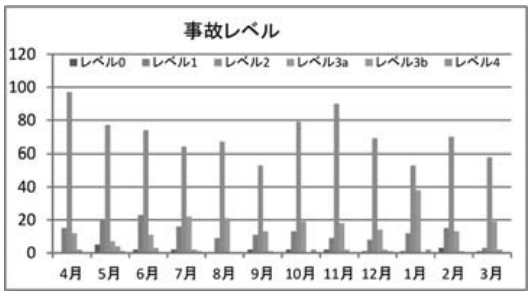
《総数》（インシデントアクシデント報告書数＋転倒転落報告書数）

4月＝126件　　10月＝115件
5月＝114件　　11月＝121件
6月＝113件　　12月＝95件
7月＝107件　　1月＝106件
8月＝97件　　2月＝102件
9月＝80件　　3月＝83件
年間　1259件　　月平均　104.9件



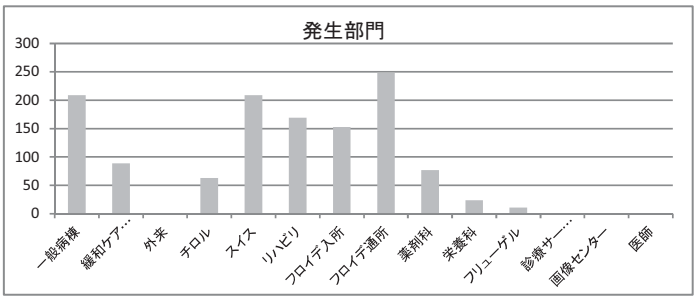
《事故レベル》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
レベル0	0	5	2	2	0	2	2	2	1	1	3	1	21
レベル1	15	20	23	16	9	11	13	9	8	12	15	3	154
レベル2	97	77	74	64	67	53	79	90	69	53	70	58	851
レベル3a	12	7	11	22	21	13	19	18	14	38	13	19	207
レベル3b	2	4	3	2	0	1	0	2	2	0	1	2	19
レベル4	0	1	0	1	0	0	2	0	1	2	0	0	7
月別合計	126	114	113	107	97	80	115	121	95	106	102	83	1259



《発生部門》

一 般 病 棟＝209件　老 健 入 所＝153件
緩和ケア病棟＝ 89件　老 健 通 所＝248件
外　　来＝ 1件　栄　養　科＝ 24件
チ　ロ　ル＝ 63件　フリューゲル＝ 11件
ス　イ　ス＝209件　画像センター＝ 1件
リハビリ科＝169件　医　　師＝ 1件
薬　　局＝ 77件
※重複あり



感染対策委員会

感染対策委員会の活動

1．月1回の委員会の開催
2．年2回以上の全職員を対象とする講習会の開催による職員の啓蒙
3．毎月、院内の病原菌分離状況と感染状況の報告
4．アウトブレイク時の迅速な対応
5．院内の感染症発症状況の情報公開
6．職員の安全管理と職業感染対策
7．感染対策に関する講習会・研究会への参加
8．ICTメンバーによる病棟ラウンド
9．経済性にも配慮した感染防止のため、機器、物品、薬品等の変更

○平成３１年度感染対策委員会目標
「風疹・風疹抗体保有率80％以上」
① 定期的なマニュアルの見直し
② 計画的な感染対策の推進

活動内容

４月	標語「正しい手洗いの手順を確認しましょう」
５月13日	感染対策委員会開催 風しん・麻しんの抗体検査・予防接種 インフルエンザの流行 針刺し事故
５月	標語「出来ていますか？正しい手洗い 洗い残しに気をつけましょう」
６月４日	感染対策委員会開催 水戸医療センター合同カンファレンス
６月	標語「手指消毒も流水による手洗いと同じ手順です。正しい手順で覚えましょう！」
６月４日	感染対策委員会開催 感染対策マニュアルの改訂：院内指針改定、疥癬、多剤耐性緑膿菌（MDRP）
７月	標語「手指衛生の５つのタイミングを覚えよう！！」
８月５日	感染対策委員会開催 風しんの抗体検査
８月	標語「手袋の正しい脱ぎ方を覚えましょう」
９月５日	感染対策委員会開催 風しんの抗体検査
９月	標語「エプロンの正しい脱ぎ方を覚えましょう」
10月７日	感染対策委員会開催 保健所立入検査 水戸医療センターとの合同カンファレンス インフルエンザ予防接種（１０月１日から開始）
10月	標語「ガウンの正しい外し方を覚えましょう」
11月11日	感染対策委員会開催 インフルエンザ勉強会（１０月８日、１０日、１６日実施）
11月	標語「マスクの着脱順序を覚えましょう」
11月27日	感染対策委員会開催 ノロウイルス対策マニュアル改定 インフルエンザ予防接種の状況 風しん抗体検査
12月	標語「インフルエンザ対策強化月間 インフルエンザを予防しましょう」
12月25日	感染対策委員会開催 フロイデ水戸メディカルプラザラウンド報告 インフルエンザ、ノロウイルス感染者状況 結核の発生
１月	標語「ノロウィルス対策強化月間　石鹸と流水で手洗いをしましょう　ノロセットの使い方を確認しましょう」
１月29日	感染対策委員会開催 新型コロナウイルス（院内掲示・感染

対策）

2月　標語「インフルエンザ・ノロウィルス強化月間　こまめな手洗いを心掛けましょう！　マスクを着用しましょう！」

2月26日　感染対策委員会開催
新型コロナウイルス：患者様、ご家族様への対応（入院・外来）
職員への対応

3月　標語「健康管理強化月間　出勤前の健康チェックを忘れずに！」

3月25日　感染対策委員会開催
新型コロナウイルスに関する情報提供：感染患者の入院調整スキーム
地域別の確保病床
国提供医療用マスクの配布

褥瘡対策委員会

「委員会紹介」

疾患の治療や療養の過程で低栄養状態である方、脳血管疾患や廃用の進行により自力での体位変換ができない状態の方、終末期の高齢者や長期間寝たきりの方。これらの方の皮膚は脆弱な状態になりやすく、わずかな圧迫やずれ等の刺激でも容易に褥瘡を発生し、更には悪化することがあります。当院の褥瘡対策委員会では、各病棟の事例をもとに効果的な褥瘡の発生予防や早期治癒のため対策を検討したり、勉強会により褥瘡対策ケアの質の向上を図る等、ご利用者様に安心して治療・療養をしていただくために活動しています。

「活動目的」

（1） 事前の予防により、患者様、ご利用者様が日常生活においてよりよい生活をお送りできる。

（2） 褥瘡の早期発見、早期対応に努め、患者様が本来の疾患の治療に専念できる。

以上の2点においての対策を検討し、さまざまな視点から討議しています。

「委員会目標」

○褥瘡予防に対する知識、又他職種共同によるケアの質を向上させ、褥瘡発生0件を目指す。

○DESIGN－Rによる褥瘡評価を定着させる。

「年間活動」

（H31年4月）平成31年度委員会の流れ、今年度目標、症例報告（ドイツ・ガルテン・スイス）

（R1年5月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス・ドルフ・ガルテン）

（R1年6月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス・ドルフ・ガルテン）

（R1年7月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス・ドルフ・ガルテン）

（R1年8月）症例報告（ドイツ・チロル・ドルフ・ガルテン・訪看）褥瘡対策委員会規定、指針についての見直し

（R1年9月）症例報告（ドイツ・チロル・ガルテン）

（R1年10月）症例報告（ドイツ・チロル・ガルテン・訪看）

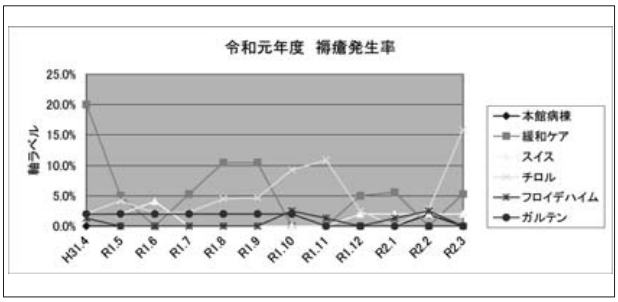
（R1年11月）症例報告（ドイツ・チロル・ガルテン・訪看）

（R1年12月）症例報告（ドイツ・チロル・訪看）

（R2年1月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス）

（R2年2月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス・フロイデ入所）

（R2年3月）症例報告（ドイツ・チロル・スイス・訪看）今年度の反省、勉強会の報告



「内容」

褥瘡の基礎知識習得や写真による比較、DESIGN-Rによる評価を定着させるために、令和元年度も前年に引き続き毎月の症例検討と勉強会を行いました。

また、11月29日に開催された第8回　褥瘡対策研究会では日立製作所　ひたちなか総合病院　皮膚・排泄ケア認定看護師　大山　瞳様より「目からうろこの褥瘡ケア」というテーマで勉強会を行っていただきました。

褥瘡ケアの最新情報を「間違いやすい過去のケア」と比較をしながら丁寧に説明していただきました。

褥瘡の予防、ケアは介護士から医師、看護師他、多職種での情報交換を行うことが必要となってきます。

褥瘡に対しては各部署とも同じようなリスクを抱えています。毎月、委員会の際に報告される症例に対しては委員全員で効果的な対策を検討するということで、今後に活かせるようにしてきまし

た。褥瘡対策委員会では、医師、看護師はもちろん、栄養科、リハビリ科、薬剤師等による、それぞれの観点から意見交換を行い、患者様に向き合って褥瘡の改善に努めていきます。

「まとめ」

当委員会では、西村医師をはじめとした博仁会・博友会の各職種のスタッフが「褥瘡」という課題に取り組むことで、スキルアップに努めています。当院の褥瘡の発生数は減少していますが、低栄養状態の高齢者や終末期の方の入院、入所前からの重症な褥瘡症例の報告は増えています。様々な視点から褥瘡対策を考えることで治癒に繋げていくことも重要ですが、安楽な体位の検討等、QOLの維持向上を考慮していくことも今後の課題となります。私たちは、褥瘡状態のみでケアを検討するのではなく、患者様の全身状態とニーズから導き出したケアが提供できる病院を目指していきたいと思います。

看護・介護部教育委員会

令和元年度　教育委員会目標

1．認知症の知識を充実させる

2．能力開発・評価システムを充実させる

【勉強会】

日時	内容	担当
4月3日	看護倫理	看護・介護部
4月15日	ACPについて	管理部
6月3日	研修報告会	管理部
6月7.13日	風疹について	感染委員会
6月21日	法人接遇大会	接遇委員会
6月28日	認知症疾患センター講演会	認知症疾患センター
7月23日	Eコール	医療安全委員会
9月4日	研修報告会	人事科
10月1.8日	食べられないを支援する	DST
10月4日	腹膜透析	訪問看護
10月10日	接遇向上大会	接遇委員会
10月18日	診療報酬勉強会	管理部
10月19日	インフルエンザ	感染対策委員会
11月15日	身体拘束廃止に向けた研修	DST
11月29日	目からうろこの褥瘡ケア	褥瘡委員会
12月18日	知っておきたい耐性菌の基礎	月村医師
1月15日	抗菌薬の適正使用	月村医師
1月15日	地域包括ケアとセンターの取り組み	地域包括センター
2月7日	認知症ケア研修会	DST
2月13日	中途入職者向け接遇研修	法人サポート部
2月14日	緩和ケア講演会	PST
2月18日	事例検討会	管理部
2月21日	認知長サポーター養成講座	認知症疾患センター
2月25日	研修報告会	人事科

令和元年度は認知症に関する知識の充実を目的とした講習を数多く開催しました。次年度は行動・心理症状や意思疎通の困難さがある場合でも患者様の苦痛を最小限に治療できるようにDSTと連携を図ります。また、能力開発・評価システムに関してはラダーの見直しを行いました。臨床の質の向上に繋がるように導入する予定です。

各委員会活動報告（博友会）

サービス向上委員会

医療法人博仁会・接遇向上委員会、社会福祉法人博友会・サービス向上委員会が一体化してＳＦＧ全体での委員会となり４年目の活動でした。

全法人接遇向上大会、環境美化コンクール、接遇発表大会、顧客満足度調査、職員向け接遇アンケートを行っております。

顧客満足度調査

対象･社会福祉法人 博友会　全事業所御利用者様
対 象 者：平成31年４月１日～令和元年６月30日の間に利用実績のある御利用者様
実施時期：令和元年６月

【評価・改善】

サービス改善への貴重なご意見をより多く得るためにも、回答率の低い部門に関しては、アンケートの配布・回収方法など検討し、継続して実施していく必要があると考えます。

いただいた御意見について、真摯に受け止め、部門間での情報の共有と職員への水平展開を実施し、改善に努めてまいります。

職員接遇アンケート

対　　象：社会福祉法人　博友会　職員全員
実施期間：令和元年12月
①あいさつ・笑顔　②みだしなみ
③動作　④言葉遣い　⑤電話対応
について自己判定の調査を実施

【評価・改善】

各部門において結果の周知と改善を実施しております。

環境美化コンクール

第25回
実施日：令和元年７月20日(土)
テーマ：「清潔で心地良い環境づくり」
対象部署：ロッティなか　　ＳＣ友部

【評価・改善】

それぞれのテーマに向け、各部署工夫を凝らし、各事業所それぞれ思い思いの環境美化を実施することができました。このコンクールを機会に年間を通じてテーマを感じ取れるような環境作りの工夫、事業所内の清掃・整理・整頓を心掛けてもらいたいと考えております。

第36回全法人接遇向上大会

実施日：令和元年６月21日(金)
時　間：18時30分～19時30分
場　所：御前山フロイデガルテン　デイフロアー

第37回全法人接遇向上大会

実施日：令和元年10月18日(金)
時　間：18時30分～19時30分
場　所：御前山フロイデガルテン　デイフロアー

苦情報告

令和元年度苦情報告は上期2件、下期２件、計４件の苦情がありました。

苦情に関する是正処置は終了しています。

【評価・改善】

ＳＦＧ全体にて委員会活動を行っております。法人内での意識掛けをはじめ、職員の教育などより良いサービスが提供出来るように努めて参ります。

確認の怠り、態度、安全運転に対する苦情がありました。

確実な確認、確実な伝達、適切な接遇心掛けを職員へ再度周知徹底し、再発の防止に努めました。いただいた御意見について今後も真摯に受け止め、より良いサービスを提供してまいります。

感染予防委員会

感染予防委員会は１）施設内の感染予防に努める。２）各部署に、常に必要な情報を提供し感染症発生時に的確な対応が出来るようにする。３）日常生活の上で感染症が発生しない環境を整え、職員の理解を深める。という目標を掲げ、利用者を守るため施設に感染症を持ち込まない事を基本に、全職員で感染予防に努めております。

〈具体的活動内容〉

⑴　職員に対する感染症の予防指導（年に２回感染症についての勉強会実施）

⑵　施設内で発生しやすい感染症の予防策や注意点を各部署に対して日常的に指導する。

⑶　医療法人博仁会の院内感染対策委員会と情報を共有し、施設に必要な情報を分かりやすく各部署に伝達し、感染予防に役立てる。

⑷　メディアによる全国的な情報や地域、他施設で発生した感染症などの情報提供を速やかに朝礼で行なう。

⑸　インフルエンザに対する予防接種の完全実施。

〈年間活動内容〉

４月	インフルエンザ罹患者がいたため、マスク着用と健康チェックを4月末まで実施
５月～６月	手洗い方法について新入職員指導実施・手洗い強化月間・ポスター配布で勉強会実施後手洗いチェック表を用いチェックした。 ・手洗チェック表を用い手技チェック実施者　211名参加
６月	各部署へ食中毒についての資料配布
７月	手洗いチェック結果集計した
11月～12月	インフルエンザ予防接種実施（利用者・職員）
11月	インフルエンザの勉強会実施
11月21日	インフルエンザについて　68名参加
11月～	全職員・面会者にマスク着用の徹底強化・面会制限の実施（12歳以下は禁止） うがい・手洗い・健康チェックの強化・徹底
２月～	新型コロナウイルス感染拡大による面会制限の強化

【全体の活動評価】

私たちのサービスの対象者のほとんどが高齢者であることから集団感染に対する予防策を講じることは重要な課題です。職員自身が媒体者にならないように、手洗いや環境整備、更にインフルエンザ予防接種の推進など、令和元年度も感染予防に対する職員教育に力を入れてきました。インフルエンザに関しましては全国的に流行がありましたが、利用者の感染はなく職員に関しても数名の感染はあったが感染拡大を未然に防ぐ事ができました。

現在新型コロナウイルスが感染拡大しており、更に活動を強化し職員一人一人が感染予防を意識した対応ができるよう啓蒙活動を推進していきたいと思います。

教育委員会

開催月	実施内容	備考・人数
4月	リスクマネジメント研修会（部門）	212
5月	各部門紹介（全体）	64
6月	技能実習制度について（部門）	220
7月	研修報告会（全体）	62
8月	事例検討会（全体）	57
9月	Pマーク研修会（全体）	67
10月	ISO研修会（全体）	58
11月	感染症対策研修会（全体）	54
12月	AED・救急救命講習会（全体）	67
1月	業務改善大会（全体）	56
2月	権利擁護研修（部門）	220
3月	防災管理（中止）	－
研修会参加合計		1137名

令和元年度活動状況報告

令和元年度教育委員会活動状況・参加状況について報告いたします。

前年度より実施している各部門研修会の実施により、施設間の距離などに左右されず参加者の確保が安定的になった印象を受ける。部門勉強会の内容については、教育委員会及び担当内容の委員会または担当者が主体となって内容を作成している。研修会の内容を、関わる担当部門等が作成することで、それぞれの役割と専門性が再認識され成長に繋がると判断した。

全体研修では、例年の内容を踏襲しながら、計画と実施を行っている。内容に関しては同様の内容を反復するのではなく、前年度の内容を最新版に進化させて実施が出来た。

当年度、予定していた中堅職員研修（5年以上の職員対象）に関しては、次年度の実施の布石となるように教育教材の整備を年度内に実施している。新型コロナウイスルの影響で年度末に予定していた研修会の実施がほぼ中止及び先送りとなっている現状でも継続的に実施できる教育内容（各部門研修など）を随時検討していく必要性を改めて感じている。

次年度に向けて、継続的な教育体制の構築及び職員其々の力量を把握し、目標に展開する仕組み作りを次年度は委員会として取り組み、下期からの運用を予定したい。

地域広報委員会

令和元年度の活動報告

令和元年度は、「社会福祉法人の役割」を地域の皆様方にさらにご理解・ご協力いただけるよう、また、各地域の拠点になっていけることを目標にそれぞれの拠点・事業所が地域へのさらなる参画に努めて参りました。継続した取り組みにより、「家族会」や「地域住民との交流の場づくり」「地域行事への協賛・招待」など定期に外部との交流を図れる機会が各拠点で増えております。

次年度はそれぞれの拠点•事業所が、「地域包括ケア拠点」となれるよう各地域との交流を継続すると共に、地域のニーズや課題を分析する事で、各地域の方々が安心して過ごすことができる地域づくりを目指して参ります。

令和元年度　活動内容（一部抜粋）

	内容	内容
御前山 フロイデガルテン	御前山チャリティー フェスティバル開催	フロイデガルテン　秋祭り 第67回長倉七夕まつり　協賛
大宮 フロイデドルフ	大宮フロイデドルフ 秋祭り	家族会開催
グループホーム 桂	しろさと町民まつり 出店・協賛	家族会開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 美和	ふるさと祭り参加 鷲子祇園祭参加	鷲子福祉ボランティア 活動・家族会開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 城里	しろさと町民まつり 出店・協賛	オレンジカフェ開催 健康教室開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 友部	シルバーリハビリ体操 教室開催	オレンジカフェ開催 元気すこやか教室開催
フロイデアシスト ハウス大宮	敬老会開催	常陸大宮市 市民運動会参加

食事管理委員会

活動計画

毎回	喫食状況の把握
4月	年間計画の作成
5月	デイリクエスト献立調査・集計
6月	デイリクエスト献立実施
7月	入所部門嗜好調査の検討・アンケート作成
8月	入所部門嗜好調査の実施・集計・分析
9月	入所部門嗜好調査結果公示・配布
10月	おやつアンケート実施
11月	入所リクエスト献立調査・集計
12月	入所リクエスト献立の実施
1月	在宅部門嗜好調査の検討・アンケート作成
2月	在宅部門嗜好調査の実施・集計・分析
3月	在宅部門嗜好調査結果公示・配布

【入所部門嗜好調査】

＊配布97枚　回収92枚　回収率95％

＊実施日　令和元年８月21日～８月27日

＊対　象　御前山フロイデガルテン入所者・大宮フロイデドルフ入所者
桂ＧＨ・サポートセンター美和ＧＨ

＊考　察　各事業所によって、ご利用者様の食事内容、嚥下機能が異なるため、それぞれの施設にあった食事を提供していかなければならない。嗜好調査を実施することで、その施設での問題点は何かを把握することができ、改善につなげることができた。

【在宅部門嗜好調査】

＊配布　371枚　回収300枚　回収率809％

＊実施日　令和２年２月11日～２月25日

＊対　象　御前山ガルテンデイサービス・サポートセンター美和デイサービス・サポートセンター城里デイサービス・サポートセンター友部・御前山配食サービスセンター•城里配食サービスセンター•小規模多機能城里・アシストハウス友部・看護小規模多機能友部

＊考　察　味、見た目などそれぞれの部分で不満もあるが、全体的には満足してくれている結果になった。個人個人嗜好が異なるため、全員が満足できる食事にすることは難しいのかもしれないが個別対応により、より多くのご利用者様に満足してもらえる食事を提供していけるよう努めていく。

【全体の評価】

食事の献立は、どこの施設でも統一となっているが、対象者はそれぞれの施設で異なっている。自分の施設の結果だけではなく、ほかの施設の意見も参考にしながら、それぞれの施設と連携をとり、栄養SG全体でよりよい食事を提供していけるよう協力し合い食事を提供していく。

業務改善委員会

令和元年度の活動報告

令和元年度の業務改善提案件数は213件と昨年度比111.5%増加する結果となったが、職員数に対して提案件数が少ない部門があるため、対象部門の委員と連携し提案促進を促し提案件数の増加を目指して参ります。又、次年度も引き続き「業務効率化」に繋がる業務改善提案の提出促進を行い、職員の業務負担軽減につながるよう各部門の委員と連携して取り組んで参ります。

	令和元年度	平成30年度	前年比
御前山フロイデガルテン	29	13	223%
栄養SG	38	12	317%
通所係	16	21	76%
訪問介護係	1	7	14%
介護支援Ｇ	18	11	164%
訪問入浴係	1	6	17%
GH桂	7	7	100%
SC美和	4	14	29%
事務SG	49	52	94%
ＳＣ城里	11	18	61%
大宮フロイデドルフ	11	11	100%
ＳＣ友部	13	15	87%
アシストハウス大宮	3	2	150%
合計	213	191	111．5%

リスクマネジメント委員会

1. ヒヤリハット件数報告

ヒヤリ・事故総数　350件
（前年総数　416件）

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 0	11	21	−20
レベル 1	185	216	−31
レベル 2	131	139	−7
	327	376	−49

2. 事故報告書件数報告

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 3 a	15	30	−15
レベル 3 b	5	2	3
レベル 4	2	8	−6
レベル 5	0	0	0
レベル 6	1	0	1
	23	40	−17

3. 総評

全体でのヒヤリハット報告件数は327件発生している。事故報告は23件の報告。

令和元年は予防と気付き、対策を意識して書式変更等の取り組みを行った結果、提出件数がヒヤリハット49件減、事故報告の件数が17件減となった。この結果から全体的にリスクマネジメントに関する意識が向上していると考える。

年間を通してレベル 6 事故が 1 件発生してしまった。次年度はレベル 6 報告ゼロを絶対目標に掲げ、これまでの報告書を分析・共有し、対策をすすめる。

次年度の対策として、類似の内容・同一のご利用者様に関するヒヤリハット報告書に着目する。重大な事故へと繋がる機会を減らし、ヒヤリハット報告書の段階から必要に応じてアセスメントを行い、ケア環境やケア提供方法を適切なものにできるよう多職種協働での対応を強化していく。

防災管理委員会

＜委員会活動＞

6月　委員会組織体制について、消防訓練日中(地震を含む)想定訓練

10月　自家発電機取扱い説明、台風19号に伴う今後の対応策検討会議の実施

11月　緊急通報訓練(緊急連絡網を使用し法人全体で実施

3月　消防訓練夜間想定実施新型コロナウイルス感染拡大防止により検証未実施

＜主な消防訓練＞

・御前山フロイデガルテン

6月　夜間想定総合訓練地域住民参加（防火管理体制検証含む）消火器・散水栓訓練、消防設備取り扱い説明

11月　職員緊急連絡網通報訓練、3月　夜間想定総合訓練、消防設備取り扱い説明

・グループホーム桂

9月　夜間想定総合訓練

3月　昼間帯想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明地域住民参加

・サポートセンター美和

9月　夜間帯想定総合訓練消火器訓練消防設備取り扱い説明、鷲子福祉ボランティア参加

3月　昼間帯想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

・サポートセンター城里

7月　夜間想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

3月　昼間想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明、地域住民参加

・大宮フロイデドルフ

9月　夜間想定総合訓練、消防設備取り扱い説明

3月　昼間想定総合訓練、消防設備取り扱い説明

・サポートセンター友部

6月　夜間帯想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

2月　昼間帯想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

・アシストハウス大宮

11月　火災想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

3月　昼間帯想定総合訓練、消火器訓練、消防設備取り扱い説明

<勉強会>（教育委員会合同）

12月救急救命講習(ＡＥＤ指導)

〇日常自主点検（御前山フロイデガルテン）

6月　異常なし、9月　異常なし、12月　異常なし、3月　異常なし

〇その他

防災啓発ポスター作成・掲示

6月、8月、10月、12月、2月

〇評価

今年度は台風19号による被害を今後の防災対策に繋がるよう、速やかに各拠点職員を収集し臨時会議、今後の対応策を検討する事を行いました。フロイデガルテンでは発電機を5台購入し、災害時のライフラインが復旧するまでの処置が行えるように対策しました。

令和元年度全職員が防災に対する認識が高まるよう小テストやポスターの掲示や勉強会、救急救命講習を実施し職員へ救命に対する意識向上を図りました。各事業所において、地域住民参加の避難訓練を行い地域との連携強化に努めています。

地域の方との連携は、利用者の生命を守る為必要な関わりで今後も継続的に実施し、災害時連携が強化出来るように実施していきます。

車両安全管理委員会

当委員会は車両運用に関わる全職員に対し交通安全教育を図り、安全運転、車両管理の意識を高め、車両事故があった際には、車両事故報告書をもとに委員会の場において、検証と分析を行い、その結果を各事業所において職員一人一人に周知徹底し“車両事故０”を目標に掲げ活動しております。

令和元年度事業所別事故報告件数

事業所名	保有台数	事故報告件数	事故率（１台当たり）
御前山通所・在宅SG	19台	10件	0.5件／１台
フロイデグループホーム桂	１台	０件	0
サポートセンター美和	８台	４件	0.5件／１台
サポートセンター城里	９台	１件	0.11件／１台
育成就労・支援（ロッティ那珂含）	10台	１件	0
大宮フロイデドルフ	２台	０件	0
サポートセンター友部	９台	２件	0.22件／１台
御前山訪問介護	４台	０件	0
介護支援グループ	３台	０件	0

【分析と評価】

令和元年度の事故報告件数は18件(前年比＋３件)御座いました。

内訳は、自損事故13件、物損事故４件、人身事故が１件御座いました。

ほとんどの事故が確認不足による無理をしての運転が起因したものでした、人身事故に関しましては一時不停止の自転車との接触事故となり、防ぐことが難しい事故でありました。今後もご利用者様送迎時の危険個所の情報共有、疲れ・眠気を感じた際に休息を取る等、決して無理をしない運転を心掛けるよう通達をして参ります。今後も、当委員会は検証と是正を進め、安全運転の勉強会や研修を通して、各職員へ呼び掛けることで、車両事故を未然に防ぐ基盤整備と安全管理体制の強化に努めてまいります。

第　二　部

1　学術活動

(1)　理事長執筆取材講演実績

○　執筆・インタビュー

1　**ありがとう平成、こんにちは令和～新時代の医療を語ろう**

令和時代も続く　地域包括ケアシステムの構築

日本医療法人協会ニュース　令和元年５月１日　第419号　頁７～８

2　**私はこうして怒りをマネジメントしている**

怒りを改革の原動力に

医師のためのアンガーメネジメント

日本医事新報社　　2019年５月31日　　頁158～159

3　**日慢協リレーインタビュー（第32回）**

日本医師会の慢性期医療と介護分野に関する取り組みのこれまでと今後

日本医師会　常任理事　江澤和彦　インタビュアー鈴木邦彦

日本慢性期医療協会誌　2019.6隔月号　vol.27　頁56～61

4　**特別座談会　堀岡伸彦・厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長を迎えて**

医師の働き方改革を踏まえ三位一体改革のあり方を問う！

日本医療法人協会ニュース　令和元年７月１日　第421号　頁６～12

5　**特集　介護なくして医療なし　病院の力を介護に活かせ！**

提言　中小病院こそ地域介護を

地域に必要な支援を揃えたことで確固たる経営体制を築く

最新医療経営　フェーズ・スリー　　2019.9　vol.421 頁16～17

6　**巻頭言　中小病院は地域共生の先頭に**

日本医療法人協会ニュース　令和元年８月１日　第422号　頁１

7　**日本医師会最高優功賞受賞の御礼と母の思い出、そして人生の後半戦に向けて**

那珂医師会会報　令和元年８月　第51号　頁３～４

8　**地域医療とまちづくりを共に担う**

Art in Hospital 患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

集中　ＭｅｄｉＣｏｎ９　2019　ＳＥＰ　　頁２～３

9　**地域に必要な支援を揃えたことで確固たる経営体制を築く**

特集介護なくして医療なし　病院の力を介護に活かせ！

最新医療経営　　ＰＨＡＳＥ３　September 2019 vol.421　頁16～17

10　医師偏在の実情を明らかにし　民間病院として声を上げ続ける

特集　医師の地域・診療科偏在を考える

日本医療法人協会ニュース　令和元年９月１日号　ＮＯ．423　頁６～８

11　須藤祐司先生を偲んで

日本医療法人協会ニュース　令和元年12月１日号　ＮＯ．426　頁２～３

12　リーダーの肖像　地域包括ケアシステムを支える中小病院のあり方を提示

月刊　日本医療経営士　Ｊａｎ．2020／１　頁６～８

13　特集　2040年の在宅医療

地域密着型病院として在宅療養を支える

コミュニティケア　2020年１月１日　vol.22　頁27～30

14　新春随想　10年ぶりの水戸芸術館

茨城県医師会報　2020年１月　ＮＯ．793　頁13～14

15　新年のごあいさつ

2025年から40年を乗り越えるため全地域における地域包括ケアシステムの構築を

日本医療法人協会ニュース　令和２年１月１日号　ＮＯ．427　頁８～９

16　地域医療・医療体制　＃高齢化最先進国　「地域包括ケアとかかりつけ医」

【識者の眼】スペシャル

週刊日本医事新報　2020／02／22　ＮＯ．5000　頁18～19

17　第30回全国介護老人保健施設記念大会　別府大分シンポジウムⅡ　地域貢献

老健　2020年３月　Ｖｏｌ．30　№．12　頁50～51

○　講演

1　第66回月例社会保障研究会「地域包括ケアに対する日本医師会での取り組みと当グループにおける実践」

日本記者クラブ　令和元年４月17日

2　ＭＭＰＧセミナー「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

ホテルイースト21東京　令和元年４月25日

3　日医かかりつけ医機能研修制度2019年度応用研修会「医療保険と介護保険、地域包括ケアシステムの構築」

日本医師会　令和元年５月26日

4　日本医療法人協会北陸支部　「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

石川県地陽産業振興センター　令和元年６月８日

5　日本医療法人協会北海道支部医療経営セミナー

「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

ホテルニューオータニイン札幌　令和元年７月17日

6　第16期　PBA医療マーケティング・アカデミー

「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

メルパルク東京　令和元年８月８日

7　2019年度地域包括診療加算・地域包括診療料に係るかかりつけ医研修会　介護保険

日本医師会　令和元年８月25日

8　社会福祉法人鶴谷会　鶴谷病院講演会

「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

伊勢崎市境総合文化センター　令和元年９月11日

9　地域医療を支える医療・福祉のあり方を考えるシンポジウム

「地域医療の今後の展望」

メインホテル（宮崎県）　令和元年11月16日

10　乃木坂スクール　＃2020年度診療報酬改定の展望

地域包括ケアと日本医師会の視点からかかりつけ医と医療・介護連携

東京赤坂キャンパス　令和元年12月９日

11　乃木坂スクール＃12保険者マネジメントセミナー

国民皆保険制度と医療提供側

東京赤坂キャンパス　令和元年12月13日

12　医療介護福祉政策研究フォーラム2020年新春座談会

社会保障改革の展望とこれからの医療・介護

「これからの医療・介護を語る・・・超高齢社会に備えて」

イイノホール　令和２年１月17日

○第66回月例社会保障研究会（90分）

内容【地域包括ケアに対する日本医師会での取り組みと当グループにおける実践】

日時　2019年４月17日（水）18：30〜20：30　●講演時間90分質疑応答30分

会場　日本記者クラブ・ホールAC：千代田区内幸町２-２-１日本プレスセンター10F）

医療介護福祉政策研究フォーラム（理事長:中村秀一：港区虎ノ門１-14-１　郵政福祉琴平ﾋﾞﾙ６F）

○MMPGセミナー

日時：2019年４月25日　14:45-16:00　(75分)

演題名「深化する地域包括ケアシステムと病院を中心としたまちづくりの実践」

会場：ホテルイースト21東京１階「イースト21ホールＡ」

江東区東洋６-３-３　Ｔｅｌ03-5683-5683

○　常勤医師執筆講演実績

大仲　功一

講　　演

第４回茨城ＤＰＡＴ隊員研修会

テーマ：　ＪＲＡＴについて

令和元年７月６日　茨城県庁

令和元年度茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座

テーマ：　高次脳機能障害とはどのような障害か

令和元年11月18日　茨城県精神保健福祉センター

(2)　学会発表

博仁会

1、The effect of oval shaped double balloon dilation therapy for dysphagia in latelal medullary infarction : case report

診療部　石本立　　令和元年６月９日～16日（兵庫）

2、麻痺側足部の底屈内反位により裸足歩行が獲得されない脳卒中左片麻痺者

リハビリテーション事業部　大瀧洋介　　令和元年７月７日（茨城）

3、本人・家族のニーズと、チームとして考える予後予測が乖離しているケースの退院支援

地域医療連携センター　後藤岳人　　令和元年７月19日～20日（愛知）

4、硬膜動静脈瘤により高次脳機能障害を呈した男性に対して実施した就労支援

リハビリテーション事業部　小坪仁美　　令和元年８月23日～24日（大阪）

5、生活行為向上マネジメントを用いて復職を目指し多職種と協働した症例

リハビリテーション事業部　寺門貴　　令和元年９月６日～８日（福岡）

6、当院療養病棟における患者・家族との関わり　～家族参加型リハビリの提供～

リハビリテーション事業部　須能啓　　令元年９月15日（茨城）

7、病院を中心としたまちづくりの実践　～病院を飛び出した職員有志団体が地域に関わる意義～

管理部　西村和也、リハビリテーション事業部　寺門貴

令和元年11月２日～４日（新潟）

8、介護と地域の関わり合い　～地域で支え合うために介護にできること～

コミュニティケアサービス部　辛島孝守　　令和元年11月15日～16日（石川）

9、介護の今と未来～今できることは何か～

コミュニティケアサービス部　横須賀卓　　令和元年11月15日～16日（石川）

10、フロイデ流『働き方の計算式』

コミュニティケアサービス部　大越俊英　　令和元年11月15日～16日（石川）

11、「食べる楽しさ　100歳元気」 ～経管栄養から経口摂取へ～

老健入所科　鴨志田恵、葛西千寿　　令和元年11月20日～22日（大分）

12、全世代・全対象型地域包括ケアに対応する全世代共生多機能拠点の構築

リハビリテーション事業部　野﨑伸弘、國井崇洋　　令和元年11月21日～22日（石川）

13、失語症のコミュニケーション集団練習の取り組み

リハビリテーション事業部　小谷美鳥　　令和元年11月21日～22日（石川）

14、夫婦で歩いて買い物へ！遂行機能に注目した訪問リハビリテーションでの一事例

リハビリテーション事業部　稲川嵩祐　　令和元年11月21日～22日（石川）

15、「認知症/障がい者の活躍」

コミュニティケアサービス部　園原岳人、菊地裕哉　　令和元年12月14日（茨城）

16、「生活支援/介護予防」

コミュニティケアサービス部　武藤理、細田毅、伊藤仁一

令和元年12月14日（茨城）

17、小規模多機能型居宅介護からみる　～身体機能リハから生活リハへ～

コミュニティケアサービス部　坂本浩司、武藤拓也　　令和元年12月21日～22日（大分）

18、洗面行為の自立について

老健入所科　長本みさき　　令和２年３月４日（茨城）

博友会

１、元気に歩き続けるために～屋外歩行訓練がもたらした効果とこれから～

御前山デイサービスセンター　小豆畑望　　令和元年11月21日～11月22日（石川県）

２、 急性期病院から退院支援～住み慣れた地域に向けて看多機の挑戦～

サポートセンター友部　山本良　　令和元年12月21日～12月22日（大分県）

(3)　事例検討会

博仁会

第42回事例検討会　　令和２年２月18日

１、根拠ある寄り添うケア　トータルケア×眠りＳＣＡＮ

グループホームひたちなか　菊地裕哉

２、患者・家族満足度へのアプローチ　～病棟レクを通して～

療養病棟科　中村久枝、加藤紀和子、源栄尚美

3、抗菌薬適正使用の取り組み

薬剤科　加藤瑛典

4、体動活発な不穏行動患者への対応

一般病棟科　小林雅美

5、若年女性脳卒中片麻痺者の更生用下肢装具の検討

リハビリテーション事業部　上倉洋人

6、いちごが食べたい！～経鼻経管栄養から3食経口移行したチームアプローチ～

栄養科　柏ひかり

(4)　研修報告会

第91回研修報告会　令和元年6月3日

1、認知症カフェからの出発

地域包括支援センター　小林真紀子、認知症疾患医療センター　大和雄太

平成31年3月17日（茨城）

2、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会　全国大会 in 金沢

コミュニティケアサービス部　森久紀、坂本浩司、鈴木明廣、國井崇洋、寺門希望

平成30年11月26日～27日（石川）

3、Care　TEX2019「第5回介護施設産業展　介護用品店ソリューション展介護テクノロジー展」

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、鈴木明廣、リハビリ科　國井崇洋

平成31年2月6日（東京）

4、縁側（Engawa）最先端医療型高齢者住宅開設ノウハウセミナー

看護介護部　高宮　一枝、コミュニティケアサービス部　宮川直彦

訪問看護ステーション　杉田園美　　平成30年9月8日（東京）

5、平成30年度　地域包括支援センター職員課題別研修

ひたちなか北部包括支援センター　小林広樹　　平成30年11月12日（東京）

6、HMS介護留学・介護インターンシップ外国人人材フォーラム研修

コミュニティケアサービス部　岩間武寿　　平成31年3月3日（東京）

7、これからの介護医・療経営塾(第52回　2019年1月度)

緩和ケア病棟科　横山直子、リハビリ科　三田拓　　平成31年1月19日（東京）

8、地域包括ケアの本格推進と在宅医療視察研修ツアー

地域包括ケアセンター　木戸田真　　平成31年2月6日（愛媛）

9、DPC分析事業MEDI-TARGET「看護必要度基準の分析」

診療サービス課　菊池優子　　平成31年2月14日（東京）

10、第6期慢性期リハビリテーション学会

リハビリ科　川﨑仁史　　平成30年2月15日～16日（埼玉）

11、第２回　ミルフィーユ研究会

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、リハビリ科　國井崇洋、今川光

平成31年３月10日(千葉)

12、コンタクス「埼玉石心会病院開設１周年記念」マネジメントカンファレンス

法人サポート部　鈴木誠　平成31年３月14日（埼玉）

13、第11回医療福祉連携士の会

地域医療連携センター　川﨑真弓、一般病棟科　小林雅美

回復期リハビリ病棟科　河野あずさ　平成31年３月23日（東京）

14、有料老人ホーム　グランフォレスト練馬高松見学会

コミュニティケアサービス部　寺門希望　平成31年３月27日（東京）

15、第14回在宅医療推進フ　ォーラム　いのちのバトン～地域の思いを紡ぐ～

おおみやケアプランセンター　髙畠弘行、若林康平、介護支援グループ　佐藤信也

平成30年11月23日（東京）

16、第12回日本介護支援専門員協会「全国大会 in 福岡」

おおみやケアプランセンター　髙畠弘行、引田力　平成30年７月14日～15日（福岡）

17、地域共生社会開発実践プログラム【体験研修会】

管理部　西村和也、コミュニティケアサービス部　宮川直彦

平成31年１月26日（東京）

18、マーケティング・経営戦略基礎科目受講

管理部　西村和也　平成30年１月19日～３月30日（茨城）

19、海土町資本主義×鎌倉主義

管理部　西村和也　平成31年２月12日（東京）

20、保険外サービス展2019

管理部　西村和也、地域包括ケアセンター　木戸田真　平成31年１月24日（東京）

21、国際長寿センター・ダイヤ財団共済　国際シンポジウム

地域包括ケアセンター　木戸田　真、地域包括支援センター　小林真紀子

管理部　西村和也　平成30年11月16日（東京）

22、社会福祉法人の内部監査人養成特別講座

事務サービスグループ　江幡和子　平成31年１月22日～23日（東京）

第92回研修報告会　令和元年９月４日

1、第27回　日本社会福祉会全国大会社会福祉学会

コミュニティケアサービス部　木戸田晶子、鈴木明廣、佐藤藍、宮川直彦

老健入所科　岩澤志乃ぶ、御前山フロイデガルテン　山口茜

令和元年６月１日～２日（茨城）

2、息詰まった場でがん患者・家族が心を開きたくなるコミュニケーション

緩和ケア病棟科　中郡享子　　令和元年６月30日（東京）

3、第24回　日本緩和医療学会学術大会

緩和ケア病棟科　益子延江、中郡享子　　令和元年６月21日～22日（神奈川）

4、リハビリテーション医療・地域包括ケア研究会

地域包括ケアセンター　木戸田真　　令和元年４月19日（広島）

5、介護旅行シンポジウム

地域包括ケアセンター　木戸田真、管理部　西村和也　令和元年６月21日（東京）

6、第10回生活期リハマネジメント実践研究会

リハビリ事業部　今川光、國井崇洋、木村梓、

コミュニティケアサービス部　宮川直彦　　令和元年５月14日（岐阜）

7、全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会

コミュニティケアサービス部　寺門希望、小口英司　令和元年５月26日（東京）

8、2019年若年性認知症支援コーディネーター研修

認知症疾患医療センター　川井宗大　　令和元年６月12日～13日（東京）

9、第７回　全国地域包括ケア研究会 IN 北海道鷹栖町・美瑛町

コミュニティケアサービス部　鈴木明廣、森久紀、宮川直彦

令和元年５月11日～12日（北海道）

10、外国人介護人材の制度・予算受入セミナー

法人サポート部　立原一茂、鈴木誠、事務サービスグループ　江幡和子

令和元年５月11日（東京）

11、2019年度　認知症地域支援推進員研修

ひたちなか北部地域包括支援センター　大津匡史　　令和元年６月27日～28日（宮城）

12、日本リハビリテーション病院・施設協会　オーストラリア視察

リハビリ事業部　國井崇洋　　令和元年５月27日～６月２日（オーストラリア）

第93回研修報告会　令和元年12月11日

１、リハビリテーション医療・地域包括ケア研究会「看護部の“聞き書き”病院」視察

緩和ケア病棟科　横山　直子、加藤令子、看護介護部　高宮一枝

令和元年９月６日（富山）

２、2019年度「ホスピス緩和ケア協会年次大会」

診療部　新堀　耕基、緩和ケア病棟科　加藤令子、瀬戸谷幸枝

令和元年７月13日～14日（東京）

３、医療法人社団　淳英会　おゆみの診療所視察

コミュニティケアサービス部　鈴木明廣、藤枝幸司、田尻晴也

リハビリ事業部　國井崇洋、野﨑伸弘　　令和元年７月22日（千葉）

４、シルバーコート花りん・シルバーヴィラ向山　視察の件

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、鈴木明廣、藤枝幸司

令和元年７月29日（千葉）

５、医療法人　豊生会　元町ケアサポートセンター視察

コミュニティケアサービス部　鈴木明廣、國井崇洋、冨永信子

診療部　山本浩之　令和元年９月17日（北海道）

６、人間関係に欠かせない！関係づくりのためのコミュニケーション

回復期リハビリ病棟科　大和田涼太　令和元年７月22日（茨城）

７、専門研修「部下もやる気もリーダー次第！スタッフのモチベーションの上げ方」

回復期リハビリ病棟科　三村秀人、綿引祐介　令和元年10月28日（茨城）

８、医療法人社団　豊生会（東苗穂病院ほか）視察

看護介護部　高宮一枝、管理部　西村和也、リハビリ事業部　寺門貴

地域包括ケアセンター　木戸田真、コミュニティケアサービス部　宮川直彦

令和元年７月18日（北海道）

９、東埼玉総合病院（幸手モデル）視察

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、森久紀、鈴木明廣、管理部　西村和也

地域医療連携センター　川﨑真弓、地域包括ケアセンター　木戸田真

リハビリ事業部　寺門貴　令和元年８月６日（埼玉）

10、コンタクス主催：サービス付高齢者住宅「銀木犀」視察見学

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、寺門希望　令和元年８月22日（千葉）

11、いきがい・助け合いサミット in 大阪

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、森久紀、鈴木明廣、横須賀卓

寺門希望、管理部　西村和也、地域包括ケアセンター　木戸田真

令和元年９月９日～10日（大阪）

12、横浜高次脳機能障害診断法研修会

認知症疾患医療センター　大和雄太、枝松春菜　令和元年８月11日～12日（神奈川）

13、第13回介護支援専門員協会全国大会 in 四国

地域包括ケアセンター　木戸田真、おおみやケアプランセンター　髙畠弘行

法人サポート部　小野健悦　令和元年８月31日～９月１日（徳島）

14、リハビリテーション医療・地域包括ケア研究会「北都銀行立『CCRCクロッセ秋田』」

地域包括ケアセンター　木戸田真　令和元年９月26日（秋田）

15、恵寿総合病院における「安心のセーフティーネットのまちづくり」

コミュニティケアサービス部　宮川直彦、森久紀、

地域包括ケアセンター　木戸田真　令和元年10月17日（石川）

16、正峰会グループ　地域共生・包括ケア現地視察ツアー

地域包括ケアセンター　木戸田真、一般病棟科　小林雅美

令和元年10月31日（兵庫）

17、NPO法人　地域おこし　池谷・入山視察

地域包括ケアセンター　木戸田真、リハビリ事業部　寺門貴、管理部　西村和也

令和元年８月27日（新潟）

18、官民連携まちづくり塾@大東

地域包括ケアセンター　木戸田真、管理部　西村和也、法人サポート部　小野健悦

リハビリ事業部　寺門貴　令和元年８月16日～18日（大阪）

19、新潟県見附市視察

地域包括ケアセンター　木戸田真、管理部　西村和也、法人サポート部　小野健悦

リハビリ事業部　寺門貴、コミュニティケアサービス部　宮川直彦

令和元年10月８日（新潟）

20、宇都宮市もみじ通り商店街視察

リハビリ事業部　寺門貴、管理部　西村和也、法人サポート部　小野健悦

令和元年10月29日（栃木）

2　各種行事

第19回全法人目標・成果発表大会

平成31年４月22日

令和元年度の目標と実績

【入院】

１．急性期一般入院基本料４の算定維持、さらに次回改定に向けた新たな評価体系への対応

●平均在院日数の短縮、特に入院患者の62％を占める主要疾患（肺炎・廃用・脳疾患・尿路感染）についてＤＰＣ入院期間Ⅱでの退院の徹底による機能評価係数Ⅱの向上

●一般病棟重症度、医療・看護必要度27％以上の達成必要度Ⅱによる評価開始

２．地域包括ケア入院医療管理料１の算定と地域包括ケアシステムへの取組（病床数の適正配置）

●自宅等からの入院患者の受入れ（サブアキュート強化）、地域包括ケアに関する実績評価対応。外来と入院の連携、クリニック、介護施設、在宅、ケアマネとの連携（基本在宅、時々入院）

●在宅復帰率70％維持

３．回復期リハビリテーション病棟入院料１の算定とアウトカム評価

●回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価への対応リハビリテーション実績指数（FIM得点の改善度）40以上

●重症患者の受入れと在宅復帰の促進

４．療養病棟入院料１の算定と維持

●医療区分2.3の患者受入れ促進　80％以上

５．緩和ケア病棟入院料１の算定維持

●緩和ケア病棟利用率の向上にむけて連携・ＰＲの強化 ・早期面談

【外来】

１．かかりつけ医機能強化

２．専門外来 のＰＲ・市民健康教室の毎月開催

３．訪問診療件数増加

４．オンライン診療の導入

５．検査・健診センターの利用者増

【老健】

１．強化型老健の役割を担える在宅復帰支援、超強化型老健算定の維持

【特養・GH】

１．個別ケアの提供とＱＯＬの質の向上

２．終末期ケアの提供体制の構築

３．ベトナムからのインターンシップ生・外国人技能実習生の受入

【在宅】

１．定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの推進

２．機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰ算定のため看護師の確保

３．24時間365日の在宅での看取り体制の充実

４．障害者福祉サービスの拡大に向け、障害者相談支援員の育成

５．前世代・全対象型相談センターの確立・在宅医療介護連携拠点との連携

【CCS部】

１．ケアタウン（大宮・水戸・ひたちなか・友部）ごとの地域包括ケアシステムの推進

２．新規事業開設準備

３．地域連携拠点としての機能確立

【看護学校】

１．看護学生校の確保と経営の安定化

●定員40名体制

●オープンキャンパスの開催方法の改善

●受験者増加のための広報強化

●国試合格率100％

●地域との連携(北富田地区授業への参加継続)

2．ICT等の将来医療・介護を担う新たな技術の着実な導入

●オンライン診療・オンライン会議の充実

3．働き方改革への適切な対応

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

令和元年度は「脳卒中地域連携パスの運用方法に関すること」と「脳卒中地域連携パスの評価と継続的な見直しに関する意思統一」が中心的な活動となりました。

研究会では、年に3回の頻度で開催する定例会を継続しており、地域の医療福祉関係者が「顔の見える関係づくり」を進めやすいよう、グループワークを実施しています。このグループワークにおいて、「脳卒中地域連携パスの運用状況と課題」に焦点を当てた議論が多くなされていることから、研究会事務局ではこの点に注目しました。平成20年度に研究会が発足して以来、多くの議論を経て現在に至っており、これまでの議論で一定の決着がついているはずの内容です。これが再びグループワークの中でなされることが多くなっていることの背景として、定例会参加者の世代等が変化し、これまでの経緯を理解している方が減っているであろうことが考えられました。これを受け、脳卒中地域連携パスの内容や運用方法に関する基礎的な事項をレクチャーするための講習会を企画し、定期的に実施することで関係者の理解度を担保していくことを対応方針としました。新型コロナウイルスの感染拡大により実践には至らなかったため、令和2年度に持ち越して対応していくこととなります。併せて、各入会施設の内部においても脳卒中地域連携パスに関する理解度の標準化を図ってもらうような取組の必要性が考えられます。

「脳卒中地域連携パスの評価と継続的な見直し」については、平成28年度の診療報酬改定により施設基準が大きく変わったことがきっかけとなり、今になって問題が表面化してきたものと考えられました。平成27年度以前は関係施設全体により定期的に会合を設けることが求められていましたが、この点が大きく変わり、連携する施設同士が1対1で個別に面会する方式へと変更されています。これに伴い、従来は全体の会合で実施していた「脳卒中地域連携パスの評価と継続的な見直し」を個別面会の中で行わなければならなくなりました。この点については、医療機関で定期的に実施される適時調査において確認されることとなり、十分に対応できていない医療機関があると指摘を受けることとなるため、問題として表面化してくることとなります。事務局としては、脳卒中地域連携パスに係る診療報酬上のルールについて、多くの入会施設が集まる連携会議の中で勉強会を開催しました。これにより、多くの入会施設において一定以上の理解度を得ることができましたので、今後の対応力の向上を期待して活動を行っていきます。ただし、脳卒中地域連携パスは入会施設全体で取り扱っているものであるため、個別的な面会の中だけで評価を行っても、見直しに繋げることは困難です。令和2年度は、研究会全体で見直しのための仕組み作りを行っていくことが求められると考えます。新型コロナウイルスへの対応も考慮しながら、継続的に活動していきます。

第17回　地域医療連携意見交換会・懇親会

地域医療連携センター長　川﨑　真弓

連携病院の医師、各病院の連携室スタッフ、看護師、リハビリ関係者、MSWの方々との連携強化のため、意見交換会・懇親会を開催いたしました。

開催日：令和元年10月11日（金）

場　所：水戸京成ホテル

内　容：≪第１部≫　実績報告

①志村地域医療連携センター

②茨城北西総合リハビリテーションセンター

③回復期リハビリ病棟　スイス館

④緩和ケア　エーデルワイス病棟

≪第２部≫　法人の取り組みについて

①「呼吸器センター」について

地域医療連携センター長

川﨑　真弓

②呼吸器リハビリテーション」について

リハビリテーション事業部　科長

川﨑　仁史

③フロイデ水戸メディカルプラザ」について

コミュニティケアサービス部水戸エリア係長　鈴木　明廣

≪第３部≫　懇親会

参加病院

水戸医療センター、茨城県立中央病院、水戸済生会病院、水戸赤十字病院、水戸協同病院、水戸ブレインハートセンター、聖麗メモリアル病院、常陸大宮済生会病院、茨城東病院、ひたちなか総合病院、志村病院、小豆畑病院、水府病院、ひたちおおみやクリニック

今後も地域の皆様、各医療機関の皆様、施設関係の皆様との連携を強化していきたいと思います。

博仁会　納涼祭

７月27日（土）、地域の夏祭り「祇園祭」に合わせ毎年恒例の医療法人博仁会　納涼祭を開催致しました。昨年は台風の影響で屋内イベントのみでしたが、今年は30度を超える中での開催となりました。近隣高校の生徒や専門学校の学生ボランティアの皆様にお手伝いをいただきました。

ご利用者様・ご家族様・施設近隣の方々には、フロイデハイム１階で開催されている軽食コーナー・輪投げ・ヨーヨー釣り等を楽しんでいただきました。

また、緒川和太鼓愛好会の力強く響き渡る「緒川弥七太鼓」、太田ハーモニカクラブによるハーモニカ演奏をご披露いただき、盛大に行うことができました。

御前山チャリティーフェスティバル

例年行われていた、「ごぜんやままつり」が令和元年10月12日に上陸した台風19号の影響で中止となりました。そこで、御前山フロイデガルテンにて、「ごぜんやままつり」の代替イベントとして、「御前山チャリティーフェスティバル」を開催致しました。「ごぜんやままつり」へ出店予定であった「宮下青果様」「四季彩館様」「御前山体育協会剣道部様」や出店希望のあった「時代屋様」に出店して頂きました。余興では「常陸大宮ギタークラブ様」とhip-hopチームである「サニー」の皆様にそれぞれ披露して頂き、非常に盛り上がりました。その他、御前山地区の第二層協議体である「あ、い、よ御前山」の皆様や、北部地域包括支援センターの皆様にもご協力いただき、盛大に終えることができました。また、ゲストとして、常陸大宮市のマスコットキャラクター「ひたまるくん」や「イバライガー」も応援に駆け付けて頂き、お子様や地域住民と触れ合いました。御前山フロイデガルテンとしても「バザー」を出店し、それらの売上金と出店協力して頂いた皆様の売上金の一部を「令和元年台風19号災害義援金」へ寄付させて頂きました。

今回、御前山チャリティーフェスティバルを開催する事で、様々な地域住民の方々と交流する事が出来ました。今後も、様々な地域活動に参画し、私たちが実践する当法人の役割と活動をご理解・ご協力していただける貴重な機会と捉え、さらなる交流活動に努めてまいります。

令和元年度　御前山フロイデガルテン秋祭り

令和元年９月14日（土）に地域の方々を迎え、御前山フロイデガルテンの秋祭りを開催致しました。御前山地区で事業を展開させていただいている感謝を地域の皆様へ伝えるため地域住民をはじめ、入所ご利用者様やご家族様・デイ御利用者様などに参加いただきました。また、今年度も「野

田太鼓様」による太鼓演奏・「御前山ソーRAN様」によるソーラン節演舞・初めての参加となる「つちのこ様」による尺八とピアノによる演奏を披露して頂きました。参加者総数227名で大盛況にて終了。様々な模擬店や景品抽選会を通し、交流をより一層深めることができました。更なる地域の輪を拡大し、様々な方々と連携が図れるよう社会福祉法人の責務を今後も果たしてまいります。

令和元年　城里町民祭り

令和元年11月９日（土）

今年も地域交流・活性活動の一環として、フロイデ総合在宅サポートセンター城里と合同で城里町民祭り～ホロルのたまご～に参加させていただきました。城里町内の事業所として出店を行い、購入頂いた方にＧＨ桂のパンフレットをお配りする事ができ、アピール活動としては一定の成果があったと思います。当事業所におきましては、山菜おこわと豚汁を販売させて頂きました。また、利用者様のご家族や城里町の居宅ケアマネ様、地域の方とも交流する機会になりコミュニケーションを図ることができました。今後も商工会活動を通して、地域交流行事に積極的に参加してまいります。

大宮フロイデドルフ納涼祭

令和１年８月24日、晴天に恵まれる中で納涼祭が実施されました。近年は、荒天が続き開催が難しい年が続きました。今年度は、晴天の為に暑さ対策にも力を入れてミストクーラーの導入も行いました。また会場設営など準備に関しては、現場主導での計画を数カ月かけて行っています。ご利用者様の笑顔を絶やさないように楽しめるイベントの計画・実施を今後も検討して参ります。

沢山小学校運動会

令和元年５月18日（土）に開催されました沢山小学校の運動会にお招きいただき『敬老玉手箱』競技に参加してまいりました。天候にも恵まれ、たくさんの人でにぎわいをみせた中、ご利用者様も孫の様な子供たちと触れ合う事ができ、普段とは違った時間を有意義に過ごすことができました。

地域住民の方や知人ご家族等も参加されており、競技の際の付き添いや、待ち時間のお話相手をし

てくださり、コミュニケーションの機会として貴重なお時間となりました。小学生からのメッセージが添えられた参加賞もいただき地域との交流を深められたと思います。

毎年恒例の行事の１つであり、楽しみにされているご利用者様もいます。今後も地域交流活動の一環として地域の和を大切にしてまいります。

ふるさと祭りおおみや　ふれあい広場

私たち博仁会は、11月３日（文化の日）に開催された、ふるさと祭りおおみや第31回ふれあい広場に参加いたしました。

このお祭りは常陸大宮市西部総合公園で開催されます。常陸大宮市民はもちろん、近隣・遠方の方々も多数来場します。常陸大宮市市制15周年ということもあり、さまざまな企画が催されました。よさこい踊りやハワイアンダンスショー、太鼓、各種模擬店、ギネス認定ミニ四駆大会、子供たちに人気のヒーローショー、大型すべり台、お楽しみ大抽選会など、盛りだくさんのイベントです。

当法人では、看護部が中心となって健康相談・血圧測定・こども用制服での写真撮影等の内容で参加し、多数のお客様にご来場いただきました。

また、常陸大宮駅前で当法人が運営しております「コミュニティカフェ　バンホフ」も出店しました。地元の野菜を使った栄養満点の手作り野菜スープや、博友会が運営する就労支援施設「フロイデ工房しろさと」で作られた手作りラスクやさつまいもを販売し、皆様にご好評いただきました。

志村大宮すみれ会

本会は、平成12年に生活習慣病の治療及び予防に関する知識の普及に努め、健康増進と会員相互の親睦を図ることを目的に発足しました。現在会員数は16名、看護師、管理栄養士、健康運動指導士と共に活動しています。毎年、歩く会、ヘルシークッキングを各２回、会員の皆様が内容を計画しています。

【歩く会】

令和元年５月21日（火）、12名の参加でなかがわ水遊園、雲巌寺に行ってきました。なかがわ水遊園では、那珂川の源流から下流までの自然が再現されており、まるで魚になったような気分で館内を散策することができました。天気にも恵まれ、みんなでお弁当を食べ、雲巌寺へと向かいました。境内へと続く朱色の反り橋を渡り、長い石段を登ると、山門に到着。青々とした新緑の中の散策は、とても気持ちが良く、風景と自然の景物を楽しむことができました。

令和元年11月６日（水）、12名の参加でカバヤ食品の工場見学へ行きました。数々のお菓子が作られている中、チョコレートが出来るまでをサンプルを使って説明して頂き、みんな興味津々で聞いていました。施設内でも、実際の製造過程を見せて頂き、中々見ることのできない光景にとても勉強になったとの声が聞かれました。

あいにくの雨であったこともあり、紅葉の中の散策はできませんでしたが、車中から色づき始めた山々を楽しむ事ができました。

【ヘルシークッキング】

令和元年７月30日（火）、11名参加で行いました。献立は、夏野菜を使った料理ということで、みょうがのまぜご飯、サバ缶のトマト煮、レタスとナッツのエスニック風サラダ、モロヘイヤのスープ、ブルーベリーヨーグルトを作りました。また、運動と栄養の両立で、サルコペニアの予防をしていくとういうことで講義を行い、自身の運動機能と栄養状態をチェックしていきました。

令和２年２月19日（水）、11名参加で行いました。冬クッキングは、野菜たっぷり定食と題し、挽肉

と小松菜の混ぜご飯、豆腐ときのこのオイスターソース煮、りんごとかぶのマリネ、かす汁を作りました。普段、小松菜はお浸しくらいでしか使わないので、混ぜご飯にして食べるのも美味しいとの声が聞かれました。また、野菜やきのこをたくさん使っているので、ヘルシーでもお腹がいっぱいになり、満足のいくメニューとなりました。
講義では「減塩方法、体脂肪を減らすポイント、生活習慣予防のための食べ方」についてお話しし、理解を深めて頂きました。

　来年度も会員の皆様と一緒に、歩く会、クッキングを行っていき、生活習慣病の予防と治療に関する知識を深め、健康増進に努めていきます。

令和元年度（2019）

法 人 年 報

第15号

令和３年５月20日　印刷

令和３年５月31日　発行

編集発行　医療法人　博仁会
茨城県常陸大宮市上町313
電　話（0295）-53-1111
ＦＡＸ（0295）-52-2705
ＵＲＬ: http://www.hakujinkai.com/
E-mail: hakujin@onyx.dti.ne.jp

社会福祉法人　博友会
茨城県常陸大宮市野口平146-1
電　話（0295）-54-2555
ＦＡＸ（0295）-54-2550
ＵＲＬ: http://www.hakuyukai-sfg.com
E-mail: jimusg@hakuyukai-sfg.com

学校法人　志村学園
茨城県常陸大宮市下村田2304-4
電　話（0295）-54-1422
ＦＡＸ（0295）-54-1422
ＵＲＬ: http://www.ihnc.ac.jp
E-mail: info@ihnc.ac.jp

医療法人　博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人　志村学園